末日聖徒イエス・キリスト教会・2013年9月号

リアホナ

正義と憐(あわ)れみは わたしたちをどのように 囚(とら)われの身から 解き放ってくれる でしょうか, 20ページ

神の恵みが実際に 作用する状態, 42ページ

大きく広々とした建物は 何がそれほどすばらしい のでしょうか, 48ページ

子(こ)どものみなさん, あなたの もはんが まわりを よくします, 67, 71ページ

「しかし,
わたしが与える水を
飲む者は, いつまでも,
かわくことが
ないばかりか,
わたしが与える水は,
その人のうちで
泉となり,
永遠の命に至る水が,
わきあがるであろう。」

ヨハネ 4：14

リアホナ2013年9月号

26

メッセージ

4 **大管長会メッセージ——人生の四季**
ディーター・F・ウークトドルフ管長

7 **家庭訪問メッセージ——自　立**

特　集

18 **わたしの感謝の祈り**
クリスティー・スクリナク
わたしたちの家族は切実な思いで祝福を求めていました。試練の中でどう感謝できたでしょうか。

20 **神の正義と憐(あわ)れみ**
ジェフリー・R・ホランド長老
わたしたちが自分の罪を悔い改め，ほかの人々の罪に寛大になれるなら，わたしたち皆の生ける神は，手を差し伸べて支えてくださいます。

26 **キリストのような憐れみ**
ランディ・L・デイベル
救い主の生涯を記した聖文の話から，憐れみ深くある方法を学ぶことができます。

30 **教義はどのようにして定められるのでしょうか**
ラリーン・ポーター・ガーント
次のページにある表を利用して，神がどのように預言者や使徒に教義を明らかにされるか理解を深めてください。

32 **今日(こんにち)の若い男性が必要としている義の模範となる人物**
ヒカリ・ロフタス
問題が多かった青春時代を克服したトッド・シルベスター兄弟は，今日の若い男性に手を差し伸べるために頑張っています。

36 **今も響き渡る呼びかけ**
リチャード・M・ロムニー
「家族——世界への宣言」は，現代の自由の旗の役割を果たしており，家族のために具体的な指針を明確に示しています。

シリーズ

8 **4月の大会ノート**

10 **わたしたちが信じていること——神権はふさわしい状態で行使しなければならない**

12 **わたしたちの家庭，わたしたちの家族——主から大声でしかられたことは一度もありません**
匿　名

14 **福音(ふくいん)クラシック——今日(こんにち)，わたしたちにとってイエスはどのような意味を持つ御方でしょうか**
デビッド・B・ヘイト長老

16 **教会のニュース**

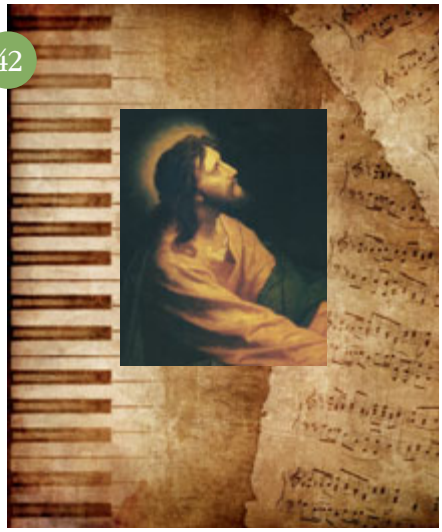
38 **末日聖徒の声**

80 **また会う日まで——いちばん長かった聖餐(せいさん)会**
オコン・エデト・エフィオング

表　紙

表紙——「失われた子羊」ニューウェル・コンバース・ワイス，コルビー・カレッジ美術館の許可を得て複製。
裏表紙——写真 ©Thinkstock。
内表紙——写真／チェルシー・スターク

ヤングアダルト



42 主の恵みは十分である
ブラッド・ウィルコックス
キリストの恵みによる奇跡とは，わたしたちを天に戻れるようにしてくださることだけではありません。わたしたちが変わることができ，それによって神のもとで心地よく感じられることも，イエスの恵みによる奇跡なのです。

今月号の中に隠れているリアホナを捜しましょう。
ヒント——イエス様はアメリカの人々を訪れました。

青少年

46 幸福への階段
D・トッド・クリストファーソン長老
戒めの目的を理解すれば，より多くの戒めを求めるようになります。

48 大きく広々とした建物は何がそれほどすばらしいのでしょうか
デニス・C・ガーント
大きくて広々とした建物は魅惑的になることがあります。どのように避けたらいいのでしょうか。

52 友人の光となる
ベンハミン・デ・オヨス長老
良い模範を示すことから伝道活動は始まります。

54 そこが知りたい

56 若人の強さのために——音楽の影響力
ローズマリー・M・ウィクソム
健全な音楽を選ぶことに関して，マウスの実験から何を学ぶことができるでしょうか。

58 心の祈り
マ・コンスエロ・N
主の御言葉により，もっと音楽を愛するようになりました。

59 ポスター——未来を打ち上げる

60 伝道地から——薄い壁を通して
モニカ・ガルシア・アダムズ
ソレダーだけが聞いていたわけではありませんでした。壁の向こうでファンも耳を傾けていたのです。

62 生ける預言者から学ぶ
ニール・L・アンダーセン長老
この4つの質問は，預言者に従うための助けとなります。

こども

64 正しく書く
ジャン・ピンボロー
キャラの先生は，天のお父さまとイエス・キリストとせいれいは同一のお方だと言っています。キャラは，なんと言ったらよかったでしょうか。

66 歌——主はわたしの羊飼い
タミー・シミスター・ロビンソン

67 ちゅうじつな もはん
ジーン・A・スティーブンズ
香港の 初等協会の 子どもたちの もはんの おかげで，ワードの かいいんたちは ふくいんに したがって 生きる しんこうを もつことが できました。

68 歴史をたどる旅——ノーブー神殿とカーセージのかんごく
ジェニファー・マディー

70 特別な証人——聖書とモルモン書の両方があることはなぜ大切ですか
L・トム・ペリー長老

71 わたしは せいぎを えらびました
エケン・B
ワインを のみたく ありませんでしたが，もし のまなかったら かぞくに どんなことが おこっていたでしょうか。

72 わたしたちの ページ

74 初等協会を かていでも——わたしは 心と せいりょくと 思いと 力を つくして かみに つかえます

76 ちいさな おともだちへ

81 よげんしゃの ポートレート——ジョージ・アルバート・スミス

リアホナ　2013年9月号
第15巻9号（10789 300）
末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌（日本語版）

大管長会：トーマス・S・モンソン，ヘンリー・B・アイリング，ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会：ボイド・K・パッカー，L・トム・ペリー，ラッセル・M・ネルソン，ダリン・H・オークス，M・ラッセル・バラード，リチャード・G・スコット，ロバート・D・ヘイルズ，ジェフリー・R・ホランド，デビッド・A・ベドナー，クエンティン・L・クック，D・トッド・クリストファーソン，ニール・L・アンダーセン

編集長：クレーグ・A・カードン
顧問：シェーン・M・ボーエン，ブラッドリー・D・フォスター，クリストフェル・ゴールデン・ジュニア，アンソニー・D・パーキンズ

実務運営ディレクター：デビッド・T・ワーナー
家族・会員支援ディレクター：ビンセント・A・ボーン
教会機関誌ディレクター：アラン・R・ロイボーグ
ビジネスマネージャー：ガーフ・キャノン

編集主幹：R・バル・ジョンソン
編集主幹補佐：ライアン・カー，ラリーン・ポーター・ガーント
出版補佐：メリッサ・ゼンテノ
執筆・編集：スーザン・バレット，デビッド・ディクソン，デビッド・A・エドワーズ，マシュー・D・フリットン，ミンディ・ライ・フリードマン，ローリー・フラー，ギャリー・H・ガーフ，ジェニファー・グレース・ジョーンズ，ヒカリ・ロフタス，マイケル・R・モリス，リチャード・M・ロムニー，ポール・パンデンバーグ，ジュリア・ウッドベリー

実務運営アートディレクター：J・スコット・クヌーセン
アートディレクター：タッド・R・ピーターソン
デザイン：ジャネット・アンドリュース，フェイ・P・アンドラス，C・キンボール・ボット，トーマス・チャイルド，ネイト・ギネス，ケリー・リン・C・ヘリン，コリーン・ヒンクレー，スーザン・ロフグレン，エリック・P・ジョンセン，スコット・M・ムーイ，ブラッド・テアー

版権および許諾コーディネーター：コレット・ネベカー・オーヌ
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ
制作：ケビン・C・バンクス，コニー・バウソープ・ブリッジ，ジュリー・バーデット，ブライアン・W・ギュギ，デニス・カービー，ギニー・J・ニルソン，ゲイル・テイト・ラファティ
製版：ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター：クレーグ・K・セドウィック
配送ディレクター：スティーブン・R・クリスチャンセン

日本語版翻訳課長：佐藤聖志

●**定期購読**は，「『リアホナ』注文用紙」でお申し込みになるか，郵便振替（口座名／末日聖徒イエス・キリスト教会　振込口座番号／00100-6-41512）にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ，直接郵送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6／末日聖徒イエス・キリスト教会　管理本部配送センター　電話：03-5668-3391
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30
電話　03-3440-2351
定　価　年間予約／海外予約　830円（送料共）
普通号／大会号　80円

『**リアホナ**』**へのご投稿およびご質問**は，英語版ホームページ liahona.lds.org からお送りください。電子メールの場合は liahona@ldschurch.org へお送りください。また，下記の連絡先でも受け付けています。
Liahona, Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

『リアホナ』（モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意）は，以下の言語で出版されています。
アルバニア語，アルメニア語，ビスラマ語，ブルガリア語，カンボジア語，セブアノ語，中国語，中国語（簡体字），クロアチア語，チェコ語，デンマーク語，オランダ語，英語，エストニア語，フィジー語，フィンランド語，フランス語，ドイツ語，ギリシャ語，ハンガリー語，アイスランド語，インドネシア語，イタリア語，日本語，キリバス語，韓国語，ラトビア語，リトアニア語，マダガスカル語，マーシャル語，モンゴル語，ノルウェー語，ポーランド語，ポルトガル語，ルーマニア語，ロシア語，サモア語，スロベニア語，スペイン語，スワヒリ語，スウェーデン語，タガログ語，タヒチ語，タイ語，トンガ語，ウクライナ語，ウルドゥー語，ベトナム語（発行頻度は言語により異なります。）

©2013 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved.　印刷：日本

『リアホナ』に掲載されている文章や視覚資料は，教会や家庭において一時的に，また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては，作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は，Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか，電子メール――cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:
September 2013 Vol. 37 No. 9. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is $10.00 per year; Canada, $12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at store.lds.org. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 707.4.12.5). NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.

家庭の夕べのためのアイデア

今月号には，家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に幾つか例を挙げます。

フォトイラスト／コーディ・ベル ©IRI

「大きく広々とした建物は何がそれほどすばらしいのでしょうか」48ページ――記事を家族と一緒に読み，教会の標準に従って生活することで気まずい思いをしたことがあるかどうか聞いてみてください。自分自身の経験や，そこから学んだことを話すのもよいでしょう。何かを*できない*と言うことと，自分は*しない*と言うことの違いについて話し合ってください。神の計画の中で選択の自由がどのように当てはまるのかをさらに学ぶために，家族で次の聖句を読むのもよいでしょう：モーセ4：1－4；2ニーファイ2：14－16，22－27；ヨシュア24：15；モーサヤ2：41；教義と聖約82：10；130：20－21。それから「選べ，正義を」（賛美歌152番）か，正しい選択をすることについてのほかの賛美歌を歌いましょう。

「正しく書く」64ページと**「わたしはせいぎを　えらびました」**71ページ――この話に登場するキャラとエケンがどのように正義を守ったか話し合いましょう。「神の証人になる」（モーサヤ18：9）とはどういう意味かを話し合ってもよいでしょう。証（あかし）の述べ方について自由に意見を出し合い，それを今週実行するための計画を立ててください。家族で，神の証人となった人の話を聖典から読んだり，以前学んだことを復習した後に，その物語の登場人物を演じてみるのもよいでしょう。例えば，体に害になる飲食物を取ることを拒んだダニエルとその仲間の話や（ダニエル1章），イエス・キリストを証したステパノの話（使徒行伝6－7章），または金版を手に入れようと兄弟を励ましたニーファイの話（1ニーファイ3－4章）などがあります。

あなたの言語で

languages.lds.orgで，『リアホナ』や，教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

証（あかし）, *64*
憐（あわ）れみ, *20, 26*
イエス・キリスト, *26, 66, 76*
戒め, *46, 71*
祈り, *18, 58, 60, 72*
教義, *30*
音楽, *56, 58*
家族, *12, 36*
体の健康, *54*
感謝, *18*
管理の職, *80*
奇跡, *76*
逆境, *4, 18, 48, 71*
教育, *59*
教会歴史, *7, 68*
悔い改め, *20*
啓示, *30, 62*
自立, *7*
自由, *20*
什分（じゅうぶん）の一, *67*
純潔, *54*
神権, *10*
信仰, *39, 72, 76*
神殿, *68*
スミス，ジョージ・アルバート, *81*
正義, *20*
聖餐（せいさん）, *80*
聖書, *70*
聖典, *40, 70*
聖霊, *12, 41, 56, 72, 80*
選択の自由, *48*
知恵の言葉, *71*
伝道活動, *40, 52, 54, 60*
奉仕, *74*
恵み, *42*
模範, *32, 38, 40, 52, 67, 74*
モルモン書, *70*
預言者, *30, 62*

大管長会第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ管長

人生の四季

子供のころの思い出と言えば，絵はがきのような美しい景色が四季折々に繰り広げられる世界です。毎月，輝くばかりに美しい景色を眺めました。美しい冬の日には，山々や街路を覆い尽くす真っ白い雪。春には，あらゆるものを洗い清める雨の後に広がる，生き生きとしたもえる緑。夏には，晴れ渡る青空のキャンバスにゆったりと描かれる，燃えるように輝く太陽。秋には，赤や黄色，だいだい色と，色とりどりに染まる華麗な自然の営み。子供のころから四季の移り変わりが大好きだったわたしは，今日（こんにち）もなお，それぞれの季節の特色と独特な良さを愛しています。

わたしたちの人生にも四季があります。温かく心地よい季節もあり，そうでない季節もあります。カレンダーの写真のように美しい日々もあります。しかし，頭が痛くなるような日々や，失望と憤り，苦しみに深く心を痛めるような状況もあります。

わたしたちは皆，絵のように美しい季節だけが続く地に住み，不快な時を避けることができたらいいのにと考えたことが一度や二度は，きっとあることでしょう。

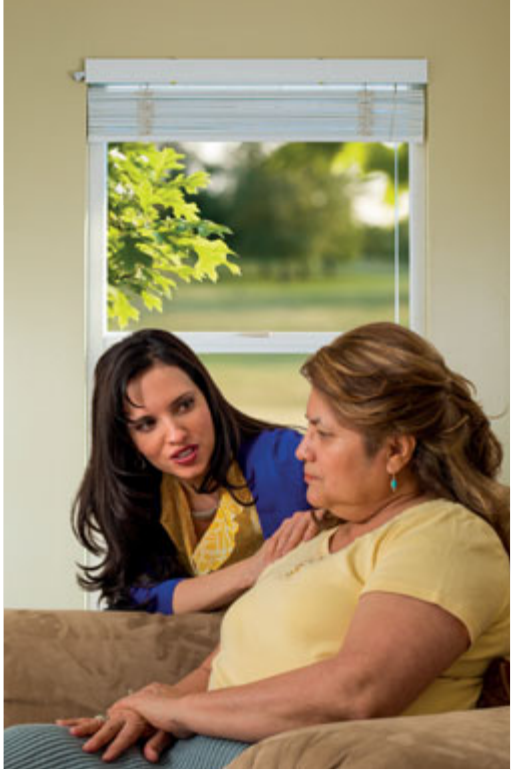
でも，それは可能なことではありませんし，望ましいことでもありません。

自分の人生について考えてみると，最も大きな成長を遂げた時期はたいてい，困難な経験をくぐり抜けた時期であったことが明らかです。

全知全能の天の御父は，御父の子供たちが本来なるべき者に成長するためには，この世で生活する間に逆境を経験する必要があることを御存じでした。モルモン書の預言者リーハイは，「もし事物に反対のものがなければ，義は生じ得ない」と述べています（2 ニーファイ 2：11）。確かに，わたしたちは人生の苦しみを経験するからこそ，人生の喜びに気づき，それを反対のものと対比させ，深く理解できるようになるのです（教義と聖約 29：39；モーセ 6：55 参照）。

ブリガム・ヤング大管長はこのように述べています。「栄光，不死不滅と永遠の命という冠を受けるすべての英知ある存在は，彼らが栄光と昇栄を得るために経験すべきあらゆる試練をくぐり抜けなければなりません。死すべき人に降り注ぐこともある災いはすべて，……主の前に行けるように人を備えるためのものです。……あなたがこれまでに堪え忍んできた試しと経験の一つ一つはあなたの救いに必要なのです。」[1]

問題はわたしたちが逆境を経験するかどうかではなく，どのように逆境を乗り越えるかです。絶えず変化する人生の四季を過ごす間に得られる大きな機会は，神の言葉に忠実にしっかりつかまることです。なぜなら，神の勧告は人生の嵐（あらし）に堪えるよう助けてくれるだけでなく，嵐をくぐり抜けるよう導いてくれるからです。天の御父は御自身の預言者を通して御言葉（みことば）を与えてくださっています。それは困難な時期をくぐり抜け，永遠の命という，言葉に表せない喜びと輝かしい光へ向かうようにわたしたちを導くための貴重な知識です。



わたしたちが経験し得る苦難をものともせずに，真理と義にしっかりつかまる強さと勇気と誠実さを身に付けることは，人生の経験の重要な部分です。

バプテスマの水に入り，聖霊の賜物を受けた人々は，主の弟子となる道を踏み出し，救い主に倣って着実に，そして忠実に従うように命じられています。

救い主は「悪い者の上にも良い者の上にも」太陽は昇り，雨は降ると教えておられます（マタイ 5：45）。時々わたしたちは，なぜ人生に困難なこと，さらには不公平なことが起きるのか理解できません。それでもわたしたちは，キリストに従う者として，**もし**「熱心に探し，常に***祈り***，そして信じ〔る〕」ならば，そして「まっすぐに歩〔む〕ならば，万事が〔わたしたちの〕益となるようにともに働く」と信じています（教義と聖約 90：24，強調付加）。

主の教会の会員として，聖徒として，わたしたちはあらゆる天候，あらゆる季節にあっても喜びをもって進んで奉仕します。そうするときに，わたしたちの心には聖い信仰と癒しの希望と安らかな慈愛が満ちあふれるのです。

それでもわたしたちは楽しいときだけでなく苦しいとき，あらゆる時期をくぐり抜けなくてはなりません。ただし，どのような時期であっても，キリスト・イエスに従う者として，主の光に向かって歩みながら主に希望を託すのです。

つまり，わたしたちは神を知り，神を愛し，同胞を愛するという決意を持った神の聖徒です。弟子となる祝福された道を歩む巡礼者であり，天の目標へ向かって着実に歩むのです。

ですから，春夏秋冬いずれの季節にあっても，聖徒でありましょう。■

注

1.『歴代大管長の教え ――ブリガム・ヤング』287 － 288 参照

このメッセージから教える

大管長会は「賛美歌を歌うことが，すばらしい説教となることもあります」と教えています（『賛美歌』9 ページ）。このメッセージについて話し合うとき，次の賛美歌の一つ，または逆境に堪えることについての歌を，教えている相手と一緒に歌うとよいでしょう。「主のみ言葉は」（46 番），「主はわが飼い手」（63 番），「神のみ業に進みて」（149 番）。御霊の促しを感じたら，自分の人生に起きた逆境が祝福に転じたときの経験を話してください。

フォトイラスト／クレーグ・ダイモンド。冬の写真写真／©THINKSTOCK/ISTOCKPHOTO

悲しみを捨て去ることができました

ホワン・チュー

友達のチェン夫妻がバプテスマを受けてわたしたちのワードに入ったとき，わたしは大喜びでした。バプテスマから１年後，二人は神殿で結び固められ，彼らが教会へ入る前に亡くなった息子は両親に結び固められました。チェン夫妻が福音の中で成長する姿を見るのはすばらしいことでした。

その翌年，チェン兄弟が交通事故で亡くなりました。事故の後，彼の死はいつもわたしの頭から離れないようで，夢に出て来ることもよくありました。目を覚ますと目が涙でぬれていました。そして何度も自問しました。「どうして？ どうして主はこのような悲劇が起こるままにしておかれるのだろうか。どうしてそんなことがこのすばらしい家族に起こらなければならないのだろうか。」 このような問いに苦しんでいたある日，レッスンのテキストから，スペンサー・W・キンボール大管長（1895－1985 年）の次の言葉を読みました。

「わたしたちの存在が現世ですべて終わってしまうと考えるなら，苦痛，悲しみ，失敗，そして短命に終わる生涯は不幸なものだと言えるでしょう。しかし人生を永遠に続くものとしてとらえ，遠い昔の前世から，死を迎えた後に永遠に続く未来までを視野に入れるならば，すべての出来事を正しい見地に立って理解することができるでしょう。……

わたしたちが誘惑に遭うのは強さを試されるためであり，病気になるのは忍耐を学ぶためであり，死を経験するのは不死不滅と栄光を受けるためではないでしょうか。」[1]

その瞬間，わたしは悲しみを捨て去り，約束された明るい未来に目を向けようと決心しました。チェン兄弟が家族と幸せに再会する姿が目に浮かんできました。その光景を見て平安を感じました。天の御父は逆境に立ち向かう知恵と勇気を与えてくださることを知っています。

筆者は台湾出身です。

注

1.『歴代大管長の教え――スペンサー・W・キンボール』15

すべての きせつを 通して ほうしする

ウークトドルフ管長は，「すべての きせつを 通して， よろこんで， すすんで ほうし」するべきだと教えています。下の 絵では，子どもたちが さまざまな きせつの ものを つかって， 人人に ほうししています。 左がわの 絵に 合うものを 右がわの ４つの中から さがしてください。

左から――イラスト／ブライアン・コールとティリーン・マーシュ

祈りをもってこの資料を学び，必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。質問を使うことによって，訪問先の姉妹を強め，あなた自身の生活の中で扶助協会を生かすようにしてください。詳しくは ***reliefsociety.lds.org*** *〔英語〕をご覧ください。*

自　立

自立とは，自分自身と家族の生活における霊的・物質的な必要を満たす能力であり，決意であり，努力です。[1]

わたしたちが自分の家庭や地域社会で自立の原則を学び，応用するとき，貧しい人々や助けの必要な人々に手を差し伸べ，ほかの人が逆境に堪えられるよう自立するのを助ける機会が訪れます。

わたしたちには選択の自由を用いて，霊的にも物質的にも自立する特権と義務があります。霊的な自立と天の御父に頼ることについて，十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は次のように教えています。「わたしたちはよく祈って聖約を守るとき，改心し，霊的に自立します。聖約を守るとはすなわち，ふさわしく聖餐（せいさん）を受け，神殿推薦状を持つにふさわしくあり，人々に奉仕するために犠牲を払うことです。」[2]

ヘイルズ長老は物質的にも自立するように勧告しています。物質的な自立には，「高校卒業後の教育や職業訓練，働くことを覚えること，収入の範囲内で生活することが含まれます。今から負債を避け，貯金することにより，将来専任で教会奉仕の業に携わる準備をします。物心両面で自立する目的は，援助を必要とする人を引き上げられるように自分を高めることなのです。」[3]

聖文から

マタイ 25：1－13；1テモテ 5：8；アルマ 34：27－28；教義と聖約 44：6；58：26－29；88：118

注

1. 『手引き　第2部 —— 教会の管理運営』6.1.1（2011年）参照
2. ロバート・D・ヘイルズ「本心に立ち返る —— 聖餐，神殿，奉仕による犠牲」『リアホナ』2012年5月号，34
3. ロバート・D・ヘイルズ「本心に立ち返る」36
4. 『わたしの王国の娘 —— 扶助協会の歴史と業』51参照

何ができるでしょうか？

1. 自分が担当している姉妹たちが物質的，霊的な必要を満たすための解決策を見いだすのを助けるには，どうしたらよいでしょうか。

2. わたしは聖餐を受けるために備え，奉仕するために犠牲を払うことにより，霊的な自立を高めているでしょうか。

信仰 • 家族 • 扶助

わたしたちの歴史から

末日聖徒はソルトレーク盆地へ集合しましたが，そこは孤立した砂漠でした。ブリガム・ヤング大管長は聖徒たちが豊かになり，そこに永住するよう望みました。そのためには，自給自足できるような技能を身に付ける必要がありました。このような取り組みの中で，ヤング大管長は女性たちの能力と才能，忠実さと自発性を心から信頼し，具体的な物質面での務めを果たすよう励ましました。今日（こんにち）の扶助協会の姉妹たちが携わる具体的な務めは，当時とは異なっている場合が多いですが，次のような原則は同じです。

1. 労働を愛し，怠惰を避けることを学ぶ。
2. 自己犠牲の精神を身に付ける。
3. 霊的な強さ，健康，教育，雇用，財政，食糧，そのほかの生活必需品に対する個人の責任を引き受ける。
4. 試練に立ち向かうための信仰と勇気を祈り求める。
5. 助けを必要としている人々を強める。[4]

フォトイラスト／ロバート・ケーシー © 2005

2013年4月の大会ノート

「主なるわたしが語ったことは，わたしが語ったのであ〔る。〕……
わたし自身の声によろうと，わたしの僕（しもべ）たちの声によろうと，それは同じである。」（教義と聖約 1：38）

2013年4月の総大会を復習する際に，このページ（および今後の「大会ノート」）を使って，
生ける預言者と使徒，ほかの教会指導者の最近の教えを学び，生活に取り入れることができます。

大会で話された物語

アフリカで ともされた光

大管長会第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ管長

フォトイラスト／リチャード・M・ロムニー

ずいぶん前に，妻のハリエットとともにこの約束が成就するのを目にした忘れられない経験があります。西アフリカを訪れたときのことです。教会が発展しており，喜びにあふれた末日聖徒が住んでいる地域です。けれども多くの問題もあります。特に，貧困の有様（ありさま）を目にして心が痛みました。都会には失業者があふれ，家族は必需品に事欠き，安全が脅かされています。貴い多くの教会員がそのような貧困にあえいでいるのを知って大きな悲しみを覚えました。けれども，人々の重荷を軽くできるよう互いに助け合うすばらしい会員たちがいることも知りました。

やがて，大都市近郊のある集会所に到着しました。わたしたちがそこで見たのは，闇（やみ）に取り囲まれているために重荷を負い，疲れ切っている人々ではなく，喜びに輝いている人々でした。福音に見いだした幸福感がわたしたちにまで達して，霊の高まりを感じました。わたしたちに示してくれた愛に頭が下がりました。彼らのほほえみは純粋で，ほほえみ返さずにはいられませんでした。

彼らはこの星に住むだれよりも幸せなのかもしれないと思ったことを覚えています。問題や試練に取り囲まれてはいましたが，これらの愛する聖徒たちは光にあふれていました。

集会が始まり，わたしは話を始めました。間もなく建物内が停電になり，わたしたちは完全な闇の中に取り残されました。

しばらくはだれの顔もほとんど見えませんでした。けれども聖徒たちの輝くような美しいほほえみを知っていましたし，また感じ取ることができました。これらのすばらしい人々とともにいることはどれほど大きな喜びだったことでしょうか。

礼拝堂内の闇は続きました。そのため，わたしは妻の横に腰掛け，停電から復旧するのを待ちました。その間に，驚くべきことが起こりました。

何人かが回復の賛美歌を歌い始めたのです。すると次々と会衆が加わっていき，圧倒されるほどすばらしい歌声が礼拝堂にあふれました。

会員たちは賛美歌集を必要としませんでした。自分たちの歌うすべての賛美歌の歌詞を一言一句暗記していたからです。そして力と思いを込めて次から次へと曲を歌いました。わたしは心を打たれました。

ついに明かりがともり，部屋に光が

総大会説教を読んだり，見たり，聴いたりするには，**conference.lds.org** にアクセスしてください。

あふれました。ハリエットとわたしは互いに顔を見合わせると，二人とも頬が涙で濡れていました。

大きな闇の中で，このような美しくすばらしい聖徒たちが教会の建物とわたしたちの心を光で満たしてくれたのでした。

それはこの上なく感動的なひと時でした。妻もわたしも，あのときのことを決して忘れないでしょう。■

「神の光のもたらす希望」『リアホナ』2013 年 5 月号，76 より

考えるための質問

- 神の光がもたらす希望に目を向けるにはどうしたらよいでしょうか。
- イエス・キリストの歩みに従うことは，どのように主の光の中を歩くための助けになるでしょうか。
- 福音の光をより豊かに感じるために，どのように自分を変える必要があるでしょうか。

あなたの考えを日記に書くか，ほかの人と話し合ってみてください。

今回のテーマに関する追加資料 ――『福音の原則』（2009 年）「聖霊」31 － 33；『聖句ガイド』「希望」83，「聖霊」154（lds.org〔日本語版〕の「学習ヘルプ」でも参照可）；ディーター・F・ウークトドルフ「希望という無限の力」『リアホナ』2008 年 11 月号，21 － 24

人間的な弱さに関する預言者の言葉

「この教会では，わたしたちが知っていることの方が，知らないことよりも常に大切です。また，この世界では，すべての人は信仰によって歩まなければならないことを覚えておいてください。

ですから人間的な弱さに優しくあってください。自分の弱さに対しても，死すべき肉体を持つ男女のボランティアによって率いられるこの教会で皆さんとともに仕える人々に対してもそうです。神の完全な御子を除けば，神は不完全な人間を通してその業を行ってこられました。それは神にとって大変な忍耐を要することでしょうが，それでも神はそのようにしておられます。わたしたちもそうするべきです。……どうぞ忍耐強くあり，親切で，赦す心を持ってください。」

十二使徒定員会　ジェフリー・R・ホランド長老
「主よ，信じます」『リアホナ』2013 年 5 月号，94

結婚の神聖さ

「生めよ，増えよ，地に満ちよ，という戒めは現代にも当てはまります。したがって，男女間の結婚は，前世の霊が現世へ入るための承認された手段です。結婚前の禁欲，結婚後の貞節はこの神聖な手段を汚れから守るものです。」

十二使徒定員会　デビッド・A・ベドナー長老
「わたしたちは純潔を信じる」
『リアホナ』2013 年 5 月号，42

あなたのための答え

各大会で，預言者と使徒は教会員が持つ質問に対して霊感あふれる回答を与えています。質問に対する答えを見つけるには，『リアホナ』の大会号を読むか，conference.lds.org〔日本語版〕にアクセスしてください。

- 自分の信仰があざけられても強い気持ちでいるには，どうしたらいいでしょうか。ロバート・D・ヘイルズ「聖なる場所に堅く立ちなさい」『リアホナ』2013 年 5 月号，48。
- 愛する人が悪い選択をしているとき，どうしたらよいでしょうか。ヘンリー・B・アイリング「わたしのもとにきなさい」『リアホナ』2013 年 5 月号，22；リチャード・G・スコット「平安に満ちた家庭を築くために」『リアホナ』2013 年 5 月号，29 参照。
- 男女間の結婚はなぜそれほど大切なのでしょうか。デビッド・A・ベドナー「わたしたちは純潔を信じる」『リアホナ』2013 年 5 月号，41；L・ホイットニー・クレートン「結婚――よく見て覚えましょう」『リアホナ』2013 年 5 月号，83；L・トム・ペリー「律法への従順は自由をもたらす」『リアホナ』2013 年 5 月号，86 参照。
- 神権の目的は何でしょうか。M・ラッセル・バラード「これがわたしの業であり，わたしの栄光である」『リアホナ』2013 年 5 月号，18 参照。
- なぜわたしたちには教会が必要なのでしょうか。クエンティン・L・クック「個人の平安――義の報い」『リアホナ』2013 年 5 月号，32；D・トッド・クリストファーソン「贖い」『リアホナ』2013 年 5 月号，109 参照。

神権はふさわしい状態で行使しなければならない

天の御父はこの教会のふさわしい男性会員に御自分の力と権能の一部を授けておられます。この委任された権能は，神権と呼ばれます。神権を持つ人々には，主の教会で指導し，福音を教え，病気の人を祝福し，救いを受けるために欠かせない神聖な儀式を執行する際に，主の御名（みな）によって行動する権限が与えられています。

神権はふさわしい状態で行使しなければなりません。なぜなら，主がジョセフ・スミスに啓示されたように，「神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついており，天の力は義の原則に従ってしか制御することも，運用することもできない」からです（教義と聖約 121：36）。このように，神権の権能と力には違いがあります。「神権の***権能***とは神の御名により行動することを承認するものです。〔それは〕按手（あんしゅ）により与えられます。神権の***力***は，それを行使する人がふさわしく，神の御心（みこころ）に従って行動するときにのみ与えられます。」[1]

神権は神の力であるため，神はそれを行使する際のふさわしさの基準を定め，預言者と使徒にその基準を啓示しておられます。神権者は自分の罪を悔い改め，イエス・キリストの福音と戒めに従った生活をすることによってふさわしくなります。生活の中で聖霊を伴侶（はんりょ）とすることは，自分のふさわしさを知る助けとなります。■

詳しくは，教義と聖約 121：34 － 46 とトーマス・S・モンソン「神権の力」『リアホナ』2011 年 5 月号，66 － 69 をご覧ください。

注

1. M・ラッセル・バラード「これがわたしの業であり，わたしの栄光である」『リアホナ』2013 年 5 月号，18 － 19

神権を守り，神権を持つにふさわしく生活してください

「公の場において，わたしたちの行動は非難の余地がないものでなければなりません。だれもいない場所での行動はもっと重要です。主が定められた基準を満たしていなければなりません。言うまでもなく，罪を覆い隠そうとしたり，罪に身を任せたりしてはなりません。自分の高慢を満たしてはなりません。うぬぼれた不義の野望を満たしてはなりません。妻や子供，そのほかいかなる人をもいかなる程度の不義によってでも，制御し，支配し，強制してはなりません。

これらを一つでも行っていると，天の力は退き去ります。主の御霊（みたま）は深く悲しみます。神権に宿る力は消え去り，権威は失墜します。……

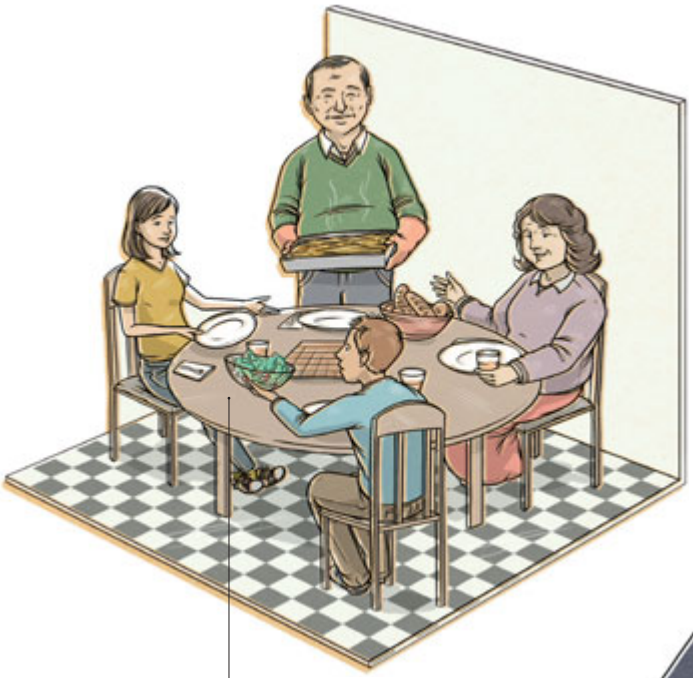
……〔神権〕はわたしたちの生活を導くものとなります。その権能は完全に力が発揮されるときに，死のとばりを超えて，前途に広がる永遠にまで及びます。

神権に比べ得るものはこの世界のどこにもありません。これを守り，大切にし，愛してください。神権を持つにふさわしく生活してください。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 － 2008 年）
「神権を行使する個人のふさわしさ」
『リアホナ』2002 年 7 月号，58，61 参照

写真 © BUSATH PHOTOGRAPHY，イラスト／ケビッド・ハベン

**神権者は信仰と従順によって
その神権に力が与えられます。**



*妻や子供，またほかの人々に
思いやりをもって接する。*

神殿で礼拝する。

忠実に召しを果たす。

ふさわしい状態で聖餐（せいさん）を受ける。

*求められたときに
神権を行使する。*

主から大声でしかられたことは一度もありません

匿　名

わたしは，長男がサタンの手に落ちるのを，なすすべもなく見ていました。心配でたまらず，何かにつけて腹を立てました。息子を変えようとしましたが，変えなければならないのは，むしろ自分自身でした。

4人の子供が幼かったころ，夫とわたしは，自分たちが良い模範を示し，たくさん愛情を注いで堅実に福音の中で育てていけば，子供たちが道をそれることなどあるはずがないと思っていました。

夏のある日，わたしたちはそんな思い込みを捨てざるを得なくなりました。当時14歳くらいだった長男が，友達と一緒に泳ぎに行ったときのことです。後でわたしが下の子たちを連れてプールに行くと，長男は手にたばこを持っているように見えました。心配だったので，それについて後で本人と話しました。すると，見間違いだと言うのです。残念なことに，これが長男のうその始まりでした。

時がたつにつれて，長男は夫とわたしからどんどん離れていきました。接することが難しくなり，訳もなく怒ってばかりいました。たばこに加えてアルコールと薬物にも手を出し，汚い言葉を使い，うそばかりつくようになりました。そして，家族に対する行動は耐えがたいものになっていきました。

最初わたしたちは，本人のためを思って，あれもだめ，これもだめと制限をかけようとしたのですが，反発はかえってひどくなりました。罰を与えても何の効果もありません。息子をしかりつけ，生活を改めるように言うと，話し合いが大声の口げんかになることがほとんどで，息子との距離はさらに離れていきました。

長男のことが心配でたまらず，夫もわたしも頭を抱えていました。導きを求めて祈っても，本人があまりにも危険な道を選ぶのを見ると，もう手に負えないと感じてしまうのでした。祈っていると，ルールを厳しくして抑制するよりも，自由を与えた方がいいと感じました。良い結果が出るとはとうてい思えませんでしたし，常識に反するやり方だと思いましたが，それまで何をしても長男は変わらなかったのです。そこで，我が家の家庭生活を直接乱すのでないかぎり，長男に罰や制限を課すのをやめる

ことにしました。

主の助言に従おうとしたというのに，状況はかえって悪くなりました。これでいいのかという疑念がわいてきて落胆しそうになる自分を必死で励ましました。夫とわたしは，家庭の夕べと家族の祈りを必ず行うよう努めました。しかし，いつも力が及ばず，いつも長男に間違った対応をしてきたことが思い出されて，たまらなくなりました。涙がかれるほど泣き，あまり眠ることもできず，時には体の疲労が激しくてまともに動けないこともありました。

かつての家庭生活は影も形もなくなりました。家庭の夕べは常に混乱で終わっていました。わたしは愛する子供たちに対して特に我慢することができず，声を荒げて子供たちに分からせようとしていました。

この状況に家族が負けてしまうわけにはいかないことを夫とわたしは悟りました。主と預言者の勧告に引き続き従うことに決めた結果，無理強いせずに形式張らない家庭の夕べを，自主的に参加する子供と行うことにしました。それでも，長男がサタンのわなに捕らえられていることが，わたしにはどうにも我慢できませんでした。祈り，断食し，希望を持つようにしました。わたしたちにできることはもうこれしか残されていないと思ったのです。そうして重荷を主にゆだねました。

ところが，事態はさらに悪くなりました。とりわけ困難な状況に陥ったとき，わたしは夫に神権の祝福を求めました。慰めと励ましの言葉が頂けるものとばかり思っていました。ところが，主は何が必要なのかを御存じでした。声を荒げて息子と口論してはならないと諭されたのです。主から大声でしかられたことは一度もないのに，わたしは子供たちをいつもどなりつけていました。主はそのことに気づかせてくださったのです。

祝福の言葉には，このほかにも，息子と話すときにはしかるのではなく，心配していることを伝える必要があるという勧告がありました。自分は息子のことを心配するからこそ怒り，文句も言ってきたのだということが分かりました。わたしがいつも息子を責めたために，息子の方もどうにかして身を守ろうと構えていたのです。そんなわたしの行動を変えるにはどうしたらよいか考えました。

そのころわたしはインスティテュートの教師を務めており，教会の若者に対して穏やかな態度で思いやりをもって接することは難しくないことに気がつきました。母親の情が入って悩む必要がないからです。

わたしは心配する母親の視点から息子を見るのではなく，客観的に見るよう努めました。この方法は，たくさんの祈りや断食と相まって効を奏しました。感情を抑えられるようになり，そのころ18歳近くになっていた息子を新しい目で見ることができるようになったのです。息子の長所を見直すようになりました。自分の気持ちや心配事について，率直に，臆することなく息子に話すように努めました。

これが分岐点となり，息子との関係が変わりました。息子といろいろなことを話し合いましたし，息子のしたことの結果を本人に負わせることができるようになりました。夫とわたしは，息子が自分の問題を自分で解決できるようアドバイスするだけでした。

主に頼って子供を育てるとはどういうことかが分かりました。わたしよりも主の方が子供たちをよく御存じです。子供たちの下す決定に，親が責任を感じなくてもよいということを知りました。息子を助ける最良の方法は，主に立ち返って主の御心（みこころ）と勧告に頼ることなのだということを，夫とわたしは見いだしたのです。■

良い点を見ましょう

「最後に，愛する家族の一員が良い選択をしていないという人のために少しお話しします。忍耐や辛抱が試されるかもしれません。主を信頼し，主の時を信頼し，やがて祈りがはっきりとこたえられ，救いの手が差し伸べられることを信じましょう。最善を尽くして奉仕し，祝福をもたらし，へりくだってあらゆることが神の御手（みて）の中にあることを認めましょう。……信仰を働かせるなら，道をそれた人は見捨てられず，愛に満ちた救い主に見守られていることが分かるでしょう。

人の過ちではなく，良い点を見ましょう。汚れを取り除くために適切な処置が必要なときもありますが，常にその人の美点に目を向けましょう。」

十二使徒定員会　リチャード・G・スコット長老
「平安に満ちた家庭を築くために」
『リアホナ』2013年5月号，31

イラスト／ベン・ソワーズ

十二使徒定員会
デビッド・B・ヘイト長老
（1906－2004年）

今日，わたしたちにとってイエスはどのような意味を持つ御方でしょうか

デビッド・B・ヘイト長老は，1976年1月8日に使徒に聖任され，2004年に亡くなるまで，その定員会で奉仕しました。この話は，十二使徒評議会補助のとき，1974年4月6日の総大会で語ったものです。全文〔英語〕は，LDS.orgのEnsign，1974年5月号からご覧いただけます。

わたしが知っており，信じているイエスは，神の御子，キリストなるイエスです。この証は聖霊の祝福と影響によってわたしに啓示されました。この御方が……世界とその中にある万物の創造主であられること，わたしたち一人一人を愛し，わたしたちのために十字架上で亡くなり，わたしたちに思いやりと赦しについて教えてくださっている救い主，すべての人の友，病人を癒す御方，耳を傾けて信じるすべての人に平安を与える御方であられることを，わたしは知っています。

現代の人を古代の真理と末日の真理から，すなわち，預言者たちがイエスとともに歩んで語ったときに得た真理と霊的な経験から離れさせてはなりません。古代の使徒たちにとってイエスはどんな意味を持つ御方だったでしょうか。ペテロにとってどんな意味を持つ御方だったのでしょうか。

マルコは，主の復活の朝の出来事を記録し，マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤは墓の中に入って行ったときに出会った〔二人の天使から〕「弟子たちとペテロとの所へ行って……伝えなさい」という指示を受けたと述べています（マルコ16：7）。彼女たちはペテロに知らせるようにはっきりと指示されました。ペテロとヨハネは急いで墓へ行きました。ペテロは墓の中に入ると，きちんと折り畳まれた亜麻布とイエスの頭に巻かれていた布を見ました。ペテロは今やこの偉大な出来事についての個人的な証人となったのです。

五旬節の日に，ペテロは……栄光ある福音について説き，ナザレのイエスについて証を述べました。人々は強く心を刺され，「兄弟たちよ，わたしたちは，どうしたらよいのでしょうか」と言いました（使徒2：37）。そこで，新たに確信を深めたペテロは，こう答えました。「悔い改めなさい。そして，あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために，イエス・キリストの名によって，バプテスマを受けなさい。そうすれば，あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。」（使徒2：38）3,000人が信じてバプテスマを受けました。彼らは主の先任使徒の霊性と力を感じたのです。ペテロにとってイエスはどんな意味を持つ御方だったか，疑いようがあるでしょうか。

わたしはヨハネの確信の強さと大きさに，いつも力づけられています。疑いはまったくなく，彼はこう証しています。「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。……すべてのものは，これによってできた。……この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。光はやみの中に輝いている。そして，やみはこれに勝たなかった。」（ヨハネ1：1，3－5）……

復活したキリストが西大陸に御姿を現して次のように言われたとき，ニーファイにとってイエスはどんな意味を持つ御方だったか，わたしたちにはとうてい理解できないかもしれません。「見よ，わたしはイエス・キリストであり，世に来ると預言者たちが証した者である。」……

そのときのことを，ニーファイはこう記しています。「群衆は進み出て，主のわきに手を差し入れ，また主の両手と両足の釘の跡に触れた。」（3ニーファイ11：10，15）……彼らはイエスの前にいました。そして，証できたのです。

少年ジョセフ・スミスにとってイエスはどんな意味を持つ御方だったのでしょうか。現代における少年預言者への父なる神とイエス・キリストの訪れについて，預言者自身がこう述べています。「わたしは自分の真上に，太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を

見た。……その光がわたしの上にとどまったとき，わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると，そのうちの御一方がわたしに語りかけ，わたしの名を呼び，別の御方を指して，『**これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい**』と言われた。」（ジョセフ・スミス―歴史 1：16 － 17）……

霊的な知識と霊的な経験を現代の人の心から消してはなりませんし，消す必要はありません。なぜなら，古代の預言者と現代の預言者の証が人のために記録されており，また今日，主を信じている人々がこれらの真理について証を述べているからです。現代の人は，不確実性と疑いを，イエスについてもっと知りたいという望みに置き換えなければなりません。

わたしたちには，キリストなるイエスについて絶えず証を述べる責任と栄えある機会があります。わたしたちは世の人々にイエスの神性について，すなわち，神と人の両方を親に持ち肉体を得てお生まれになったという事実について証を述べなければなりません。イエスは復活と贖（あがな）いというきわめて重要な使命を果たされるために選ばれました。そしてイエスは行われました。すなわち，イエスは十字架につけられ，墓からよみがえられ，それによって，すべての人は，聖徒も罪人も同じように，イエスのこの奇跡的な贖いによって復活できるようになったのです。

すべての人が永遠の進歩への道を歩むことができます。イエスを受け入れて悔い改める人は皆，過去の罪の赦しを受け，昇栄を得る機会が与えられます。「わたしは道であり，真理であり，命である。だれでもわたしによらないでは，父のみもとに行くことはできない。」（ヨハネ 14：6） 人の行く末について，人がその心にもっと気高い思いを抱くようにするのは可能でしょうか。イエス・キリストはその中心におられる御方です。

「現代の人にとってイエスはどんな意味を持つ御方でしょうか」という問いかけに対して，わたしは証します。イエスはすべてを意味します。■

原文〔英語〕では，ほかの記事と統一させるために句読点，大文字，引用表記を変更しています。

「わたしを記念するため」ウォルター・レーン画

現代の人を古代の真理と末日の真理から，すなわち，預言者たちがイエスとともに歩んで語ったときに得た真理と霊的な経験から離れさせてはなりません。

教会のニュース

教会のニュースおよび出来事についてもっとお知りになりたい方は news.lds.org にアクセスしてください。

家庭訪問の新しいテーマ，10 月から始まる

2013 年 10 月から扶助協会家庭訪問メッセージは，イエス・キリストの神聖な使命と多くの役割，特質に焦点を当てる。

『わたしの王国の娘―扶助協会の歴史と業』には，「イエス・キリストは地上におられたとき，どのように生きるべきかを示してくださいました」とある。[1] 救い主の役割と特質について研究し，それに焦点を当てることによって，教会の姉妹たちは救い主のようになることを学び，[2] 救い主の教えと模範が自分たちの生活に与える影響について，訪問先の姉妹たちとともに話し合えるようになる。

主は教え，仕える方法を示された。それは互いに見守り，強め合い，教え合う方法であり，個人，すなわち一人一人に仕える方法だった。[3] 家庭訪問はわたしたちが主の模範に従う機会になる。

大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は「家庭訪問は世界中の人々に助けを与えるための主の計画の一部であ〔り，〕……『主は一つの規範を設けられました』」と証（あかし）している。[4] 家庭訪問教師としてわたしたちは，トーマス・S・モンソン大管長の次の勧告も覚えている。「わたしたちは地上で主の御手（みて）に使われる器であり，わたしたちには御父の子供たちに仕え，彼らを高める責務があります。主はわたしたち一人一人を頼りにしておられるのです。」[5] ■

注

1. 『わたしの王国の娘 ―― 扶助協会の歴史と業』，105
2. モロナイ 7：48 参照
3. 『わたしの王国の娘』105；『手引き第 2 部 ―― 教会の管理運営』9. 5 参照
4. 『わたしの王国の娘』110
5. 『わたしの王国の娘』112

© IRI

ファミリーサーチの記録，10 億件に上る

R・スコット・ロイド
Church News

世界中のボランティアによる教会所蔵の膨大な量の系図記録の索引化作業が，2013 年 4 月 19 日に大きな節目を迎えた。その日，ボランティアは 10 億件の検索可能な記録を教会のファミリーサーチのウェブサイトに加えるという作業を，開始から 7 年以内に達成した。

1978 年からボランティアは記録の抽出と索引化作業を本格的に行ってきたが，2006 年 9 月，家族歴史部はだれでも場所を問わずウェブサイトにアクセスして登録できるようにし，索引化プロジェクトへの参加促進のための大きな改革を開始した。

ファミリーサーチに関する「ウィキ」の説明文にはこう記されている。「文書は 110 の国と地域の歴史文書の写真映像を収めた 240 万ロールのマイクロフィルムから主に抽出されている。その文書には国勢調査記録，出生および死亡記録，婚姻許可証，軍および不動産記録，地元，州，国政によって保管されているその他の重要な記録も含まれている。」

ペリー長老，大学の卒業生にバランスの取れた生活を維持するように語る

2013年4月，アメリカ合衆国ユタ州プロボにあるブリガム・ヤング大学の卒業式で十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老が講演を行った。ペリー長老は生活にバランスを見いだすことの必要性について語り，家族の時間，仕事の時間，学習の時間，奉仕の時間，自分の時間，とりわけイエス・キリストの福音のための時間を取る必要性を強調した。

ペリー長老は卒業生に，将来に向けてつましく生活するよう勧告した。「これから皆さんが学ぶ最も重要な教訓の一つは，収入に応じた生活をすることからもたらされる安定と平安です。」

さらに，キリストを中心とした家庭を築くことの重要性を強調した。「毎日の祈りと聖文研究はすべての末日聖徒の家庭の一部となるべきです。イエス・キリストの福音を皆さんの人生に不可欠で活発な部分にしてください」と語った。

ネルソン長老，アジア北地域を訪問する

2013年2月23日から3月3日にかけて十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老はアジア北地域を訪問した。ネルソン長老は世界のどこへ行こうと自分のメッセージは同じであり，「わたしたちは，主なるイエス・キリストと回復された主の福音について教え，証するために，この場にいるのです。わたしたちのメッセージは，平安と喜びのメッセージであり，家族を強め，夫と妻，子供と親，人々と先祖をつなぐものです。そうすることによって人は皆地上での生活を終えると，神の御前で永遠の命を享受できるようになります」と地域の会員たちに語った。

その地域全体と沖縄軍人地方部の神権指導者および会員と集会を持ったうえに，ネルソン長老は二人の日本政府高官とも会談した。

大会，近づく

総大会がまた近づいている。大会で教会指導者は，会員に主の御言葉を分かち合う。主は次のように述べられた。「わたし自身の声によろうと，わたしの僕たちの声によろうと，それは同じである。」（教義と聖約1:38） 以下は2013年4月の総大会からの経験談である。

ガリラヤ湖での大会

去る4月，近東研究をするブリガム・ヤング大学エルサレムセンターのおよそ60人の学生が，ガリラヤ湖の岸辺に集まり総大会日曜午前の部会を視聴した。インターネットによる集会の生放送が湖畔にある建物の壁に映し出された。10日間にわたる地域見学の一環として学生たちはガリラヤに滞在しており，そのイベントの意義を理解し感謝した。

そこに集った学生の一人であるジェニー・スミスソンは「古代の使徒たちがキリスト御自身からまさにこの岸辺で教えを受けていたことを想像しながら，末日の預言者と使徒から教えを受けられる」ことはすばらしい経験だったと語った。

BYUエルサレムセンターからの景色

© IRI

わたしの感謝の祈り

経済的に苦しかったとき,
わたしはもっともっと
祈る必要があると痛感しました。
実際にわたしは
感謝だけの祈りをささげることが
できたでしょうか。

クリスティー・スクリナク

何年も前に，わたしたち夫婦は待望の家を購入し，たくさんの時間とお金を使ってそれを改修しました。ところが，18 か月後に経済状況が悪化しました。わたしたちはそれまで苦労してためてきた貯蓄から多額のローンと，予想していなかった多くの出費に対する支払いをしなければなりませんでした。

数か月間，試練と経済的苦難が続きました。特に家と自動車の修理，医療費の支払い，それに給与の減額が重なった月は大変でした。わたしたちの貯蓄はすぐに底を突きました。

わたしは，必要なものを求めて何度も繰り返し祈ったことを今でも思い出します。ストレスで疲れ切ったわたしは，気が滅入り絶望していたので，子供たちをよく世話することや家族の必要にこたえることが難しくなりました。それでもなお，慰めを求め，祈りがさらなる暗闇（くらやみ）に陥るのを避ける命綱であることを知っていたので，祈り続けました。

何か月間も助けを求めて祈った後，わたしはもっと心から祈りをささげる方法について考え始めました。すると御霊（みたま）は，天の御父に感謝を述べることの大切さを教えている神権指導者と聖文の勧告をわたしに思い出させてくださいました。その促しのおかげで，わたしは，家族やわたしが必要としているものを求めるのを少なくし，与えられている祝福についてもっと感謝を述べる必要があることに気づきました。そこでわたしは，祈るときに，日々行ってきた嘆願をやめて，感謝だけを 1 週間述べようと決心しました。

それは難しいことでした。家族には必要なものがたくさんあると感じていました。ぜひとも必要な祝福を求めないということは，まるで家族を見捨てるようなものだと感じたのです。わたしが求めなかったら，主はどうして祝福してくださるでしょうか。

そのことがとても気がかりでしたが，それでも決心したことを実行に移しました。すると間もなく，自分の祈りがもう嘆願一辺倒ではないことに気づきました。ほかの人々の必要なものに気づき，また自分の問題以上にすでに自分が受けている祝福に目を向ける力を取り戻したのです。わたしは感謝することで救い主にもっと近づき，ほかの方法では得ることのできない方法で慰めを受けました。

一つの聖句がいつも心に浮かんできました。「きょうは生えていて，あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ，神はこのように装って下さるのなら，あなたがたに，それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ，信仰の薄い者たちよ。」（マタイ 6：30） この聖句のおかげで，わたしはへりくだり，祈り続けました。感謝することによって，真の謙遜（けんそん）さについてさらに多くのことを学びました。

その週が過ぎたとき，わたしの祈りは，「食べ物や着る物，住む所があることに感謝します」という祈りから，「お父様が家族を守り，健康を与え，わたしたちをいつも見守ってくださっていることに感謝します。祝福としていつも食べ物を与えてくださっていることに感謝します」という祈りに変わりました。また，こう祈ったことも覚えています。「わたしたちがお父様に頼れること，お父様がわたしたちを気遣ってくださること，わたしたちがこの世のあらゆる束縛から逃れる道を備えてくださっていることに感謝します。」 いつのころからか，わたしの祈りは，感謝の祈りや，謙遜な祈りだけでなく，信仰の祈りにもなりました。祝福を求めることなく，わたしは，主がわたしたちに与えてくださるという信仰を表していました。そして，わたしの信仰は急激に強くなってきたのです。

このような祈りをささげる中で，わたしは初期の聖徒たちが払った犠牲についてしばしば考え，また自分は進んでどんな犠牲を払おうとしているか自分自身に問いかけました。さらに数日が過ぎ，わたしたちは住み慣れた家を売ることになりました。不動産市場はひどく低迷していましたが，驚いたことに，わたしたちは祝福されて家を売却できました。予想どおりに多額の損失を被りましたが，わたしたちの家族は今や，さらに堅固なこの世の土台を築き始められるようになったのです。

それでも，わたしにとってこの経験での奇跡は，このような困難な時期に家が売れたことではありません。わたしが信仰を増したことと理解力を得たことこそ，奇跡なのです。大管長会第二顧問のジェームズ・E・ファウスト管長（1920 － 2007 年）は，感謝は「救いの原則」であると述べています。[1] 自分の心と祈りを天の御父に向けたときに，慰めと平安と導きを得ることについてファウスト管長が語っていることの幾分かを，経験できたのだと思います。わたしが感謝について新たに得た証（あかし）は，感謝は謙遜を招き，謙遜は信仰を促し，信仰は奇跡をもたらすということです。■

著者はアメリカ合衆国ネバダ州に住んでいます。

注

1. ジェームズ・E・ファウスト「感謝 ―― 救いの原則」『聖徒の道』1990 年 7 月号，93 － 96 参照

写真／クレーグ・ダイモンド ©IRI

十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド長老

神の正義と

将来わたしたちは再び救い主にまみえること，
救い主に忠実であれば自由でいられること，すなわちいかなる束縛も妨げも受けないこと，
また救い主が捕らえられて投獄され，わたしたちのために犠牲となって亡くなられたことを示す
その肉体にある傷跡を目にすることを，わたしは知っています。

憐れみ（あわ）

それは，わたしがかつて出席した，あるいはかつて参加した，ほかのいかなる卒業式とも違っていました。卒業生は全員男性で，44 人でした。彼らは伝統的なアカデミックローブやキャップやガウン〔訳注：アメリカの卒業式での伝統的な装い〕を身に着けてはいませんでした。それぞれが水色のデニムのシャツと紺色のデニムのズボン姿でした。

式が行われたのは，屋内競技場やスタジアムではなく，美しい講堂でもありませんでした。それが行われたのは，ユタ立州刑務所の質素な超教派礼拝堂でした。末日聖徒イエス・キリスト教会が主催した聖書研究の１年コースを無事に終了した卒業クラスでした。そのコースはすべての参加希望者に開放されていました。

開会の祈りをしたのは，ごく普通の少年に見える若い男性でした。彼は非常におどおどしながらも，心からの祈りをささげました。彼は武装強盗罪で 10 年間の服役をしていました。閉会の祈りをしたのは，45 歳か 50 歳の，まるでだれかのおじであるかのように見える男性でした。彼は第２級殺人罪で終身刑を受けていました。

すでに刑務所を出所していた一人の若い男性が，証明書を受け取るために，また，仲間を励ますために戻って来ていました。彼はこう言いました。「皆さん，刑務所内の前途は実に暗いものです。実際，刑務所の外はもっと良いようです。そのことを忘れないでください。」それから，外から来た人たち，その場に来ていた友人たちや家族の方を向いてこう言いました。「皆さんは暗闇（くらやみ）の中の光です。皆さんのような愛による支えがなければ，わたしたちは今いるところから，いる必要のあるところへ行くことはできないでしょう。」

式が終わったとき，司会した受刑者は，感極まった声で，目にうっすらと涙を浮かべてこう言いました。「今日は１年で最も幸せな日です。クリスマス以上です。感謝祭以上です。母の日にさえも勝る日です。心を高められるからです。まるで自由を得たかのようです。」

その後，わたしたち夫婦は門の閉じる音を背にしてその場を去りました。帰宅したその

左――写真／ジェレミー・パーク・ハンター、複写は禁じられています。右――写真 ©THINKSTOCK

悔い改めをする場所，すなわち，ビショップや主，自分が怒った相手や自分を怒らせた相手のところへ行きましょう。

夜，正直に言って，わたしは眠れませんでした。その経験が繰り返し心に浮かんできたのです。その朝早く，わたしはかつて一度も味わったことのない気持ちと思いを抱き，獄中生活と自由に対する対応（また，彼らと彼らに対する心の啓発と愛との関係）について思い巡らしました。

神の正義

その夜にわたしが強く感じた一つのことは，神は正義の御方であるということです。アルマが次のように言っています。「あなたは憐れみが正義から奪えると思うのか。いや，少しも奪えない，とわたしは言おう。もし奪えるようであれば，神は神でなくなる。」（アルマ 42：25） 使徒パウロはガラテヤ人にこう述べています。「まちがってはいけない，神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを，刈り取ることになる。」（ガラテヤ 6：7）

続いて考えたことの一つは，わたしたちは同じ種類のものを刈り取るのだと，パウロがまさに言おうとしたということです。再び次のような思いがわいてきました。わたしたちはアザミの種をまく場合，実際，イチゴがとれるとは思いません。憎しみの種をまく場合，実際，豊かな愛情を受けるとは期待しません。自分がまく同じ種類のものが返ってくるのです。

その後，青い服を着ている人たちのことを思い出したとき，もう一つの思いがわいてきました。それは，同じ種類のものを刈り取るが，どういうわけか，刈り取る量は必ずもっと多いということです。わずかなアザミの種をまきます。すると，たくさんのアザミが生えます。それが何年も続くと，アザミの大きな茂みとなって広がります。それは切り払わないかぎり，決して取り除けません。ほんのわずかな憎しみの種をまくだけで，多くの憎しみを刈り取り，やがてそれに気づくのです。すなわち，憎しみはくすぶり，増大し，攻撃的になり，ついには敵対的な憎悪となるのです。

その後，皮肉にも，神は正義の御方であられるというわたしの最初の思いは，その言葉が与える響きほど厳しいものではないということに気づき，慰められました。しかし，わたしたちは皆罪を犯しているということで身がすくむかもしれません。正義の神を考えると身がすくむかもしれませんが，公平でない神を考えるとはるかに怖くなります。

末日聖徒の教義の一つの基本原則は，前進するために神が正義の御方であられると知る必要があるということです。神の属性の一つは正義です。正義がわたしたちのために有利に働かないと考えたならば，また神はその御心（みこころ）を変えて別の規則があるとされると考えたならば，わたしたちは恐れのために，義にかなった生活をする信仰や，もっと深く愛する信仰，あるいはもっと速やかに悔い改める信仰は持たないことでしょう。[1] わたしたちは，神が正義の御方であり，もしそうでなければ神ではなくなるということを知っているので，前進する信仰を持っており，気まぐれ，移り気，不快な日，悪い冗談の犠牲者にならないということを知っています。その確信は大きな励みとなります。

神の憐れみ

その後，もう一つの思いがわいてきました。神が神であって憐れみ深い神であられることを，わたしは何と感謝したことでしょう。アルマ書第 42 章に書かれているように，アルマは神が正義の御方であられることをコリアントンにはっきりと告げた後，その同じ神が同じように憐れみ深い御方であり，憐れみは***悔い改める者***について権利を主張すると宣言しました。今やその考えがわたしを変えました。なぜなら，わたしは刑務所に行ったばかりだったからです。そしてわたしはこう考えるようになりました。すなわち，憐れみは確かに悔い改める者に権利を主張する，と。人々が憐れみの賜物（たまもの）を生かすために***刑務所***に行かなければならないとしても，そこに行ってイエス・キリストの福音や聖文や贖罪（しょくざい）を見いだすとしたら，彼らの獄中生活は価値があると思うようになったのです。

ですから，悔い改めをする場所，すなわち，ビショップや主，自分が怒った相手や自分を怒らせた相手のところへ行きましょう。わたしたちには自分自身の小さな刑務所があります。

左――フォトイラストレーター・ニルソン ©IRI. 右――写真 ©THINKSTOCK

わたしたちはアザミの種をまく場合，
実際，イチゴがとれるとは思いません。
憎しみの種をまく場合，
実際，豊かな愛情を受けるとは期待しません。
自分がまく同じ種類のものが返ってくるのです。

周囲のすべての人もそうだと思います。そこへ行くことで心からの悔い改めをし，憐れみの賜物に対する権利を主張できるならば，わたしたちはそうしなければなりません。

過去にさかのぼって悪い行いをやめて，新たな出発をするのは容易でないことを，わたしは知っています。しかし，行いを続けて，正義の働きは及ばないだろうと信じようとするよりも，新たに始めることの方がもっと容易であり，明らかにもっと満足をもたらすと，わたしは心から信じています。

わたしの好きな英国の学者の一人がこう言っています。「わたしは，間違った道を選ぶ人の全員が滅びるとは思いません。しかし，救われるには正しい道に戻ることが必要です。〔計算違いをした数字の〕合計は訂正できます。しかし，さかのぼって間違いを見つけ，その時点から新たに計算し直して初めて訂正できるのです。ただ計算を*続ける*だけでは決してできません。悪は取り除けますが，『発展』させて善とすることはできません。時間はそれを癒(いや)しません。悪は置き換えなければならないのです。」[2]

まさに，神は正義の御方であり，「憐れみは悔い改める者について権利を主張〔し〕」（アルマ 42：23），悪は取り除かれます。

悔い改めの必要性

わたしが抱いた最後の，そして最高の思いは，かつて完全には理解していなかったかもしれないことを理解するのに役立ちました。主が非常に早い時期にこの神権時代の教義の中で次のように言われたことを，あらゆる時代に，あらゆる神権時代に述べてこられたのはそのためです。「この時代の人々には，悔い改めのほかに何も語ってはならない。わたしの戒めを守り……なさい。」（教義と聖約 6：9）わたしにとって，それは非常に明確で，有益で，感動的な考え方となり，聖句となりました。わたしは以前に理解していなかった方法で，悔い改め以外にいかなる道もないということを知ったのです。

皆さんはほかの人々のようであるとしたら，自分自身を解放するべき分野があり，自由になるべき何らかの手かせと足かせがあり，悔い

改めのできる何らかの罪があります。一つだけ例外を挙げるとしたら，それは無知の束縛です。

わたしにとって，自分の生活の中で最大かつ第一の束縛と思われるのが，ただ十分な知識がないというものです。わたしたちは人生の早い時期にちょっとした決まり文句を学びます。そのうちの二つが，「無知が至福である」と「知らない方が身のため」です。わたしははっきり申し上げます。知らないこと***以上に***あなたに損害を与えるものはありません。わたしたちは自分が招いた結果である束縛を受けたことに関して非難を受け，学び損なったことについてこの世，または次の世で罰の宣言を受けると，わたしは信じています。

わたしたちは教会の教義として，無知では救われないこと（教義と聖約 131：6 参照），現世で学ぶことは復活の時にわたしたちとともによみがえること（教義と聖約 130：18 参照），知識を得れば来（きた）るべき世でそれだけ有利であること（教義と聖約 130：19 参照），学んだことに比例して救われること，[3] 光と真理は悪しき者を捨てること（教義と聖約 93：37 参照），神の栄光は英知であること（教義と聖約 93：36 参照）などについて学びます。この神権時代の初期のある時に，教会全体が非難を受けました。主は教義と聖約の第 84 章で次のように述べておられます。

「わたしは，今あなたがたに一つの戒めを与える。自分自身について気をつけ，永遠の命の***言葉***を熱心に心に留めるようにしなさい。

あなたがたは，神の口から出る一つ一つの***言葉***に従って生きなければならないからである。

主の***言葉***は真理であり，また真理であるものはすべて光であり，光であるものはすべて御霊（みたま），すなわちイエス・キリストの御霊だからである。」（43 － 45 節，強調付加）

教義と聖約第 84 章はわたしたちを主イエス・キリストのもとに導くものであり，その主イエス・キリストのもとに最終的に至らせるのは，***御言葉***（みことば）です。

主は地上での務めを果たしておられたとき

過去にさかのぼって悪い行いをやめて，
新たな出発をするのは容易でないことを，
わたしは知っています。
しかし，行いを続けて，正義の働きは及ばないだろうと信じようとするよりも，新たに始めることの方がもっと容易であり，明らかにもっと満足をもたらすと，
わたしは心から信じています。

にこう宣言されました。「あなたがたがわたしにつながっており，わたしの*言葉*があなたがたにとどまっているならば，なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば，与えられるであろう。」（ヨハネ 15：7，強調付加）

自由の重要性

もしもわたしたちが自分の存在，すなわち，前世における過去の存在ではなく，来世のことでもなく，現在わたしたちが知っている存在に対してテーマを一つ選ぶとしたら，そのテーマは，真実の自由を追求することに関連したものでなければならないでしょう。天上の大会議の重要な一部は，完全な自由に向かって進歩できる方法を教えることに費やされたと，わたしたちは知っています。御父の道は，選択の自由と選びの道でした。すなわち，間違いを犯す自由，しかし最終的に成功する自由の道です。わたしたちが選択の自由を行使して日の栄えの家庭に帰る自由を保証するために，可能な限りの保護手段と宇宙のすべての力が用いられました。これらの保護手段には，完全な福音の真理と救い主イエスの贖罪が含まれています。

わたしたちは自由でないとき，実際に束縛や投獄を経験します。わたしはこの言葉を非常に劇的なものにできるように，生涯でいつか投獄されることがあったらよかったのに，と思うほどです。わたしはペテロやパウロのように語り，天使たちが来て番兵たちを驚かせて獄の戸を開いてもらえたらと思います（使徒 12：5 － 11 参照。16：25 － 26 も参照）。あるいは，アルマやアミュレクのように，牢の壁を崩せたらと思います（アルマ 14：23 － 29 参照）。または，薄汚い，暗い，陰気な監獄のただ中からこの神権時代にとって最も崇高な聖文であると思われるものを書くことのできたジョセフ・スミスのようであればと思います（教義と聖約 121 － 123 章参照）。わたしたちは現在のように教会の大管長である預言者が投獄の恐怖を感じながら生活する必要のない時代，また少なくとも政治的や身体的に束縛や奴隷の状態になる必要のない時代に生きていることを，神に感謝しています。しかし，わたしたちの人生には，なくす必要のある別の種類の束縛があり，別の種類の獄があります。この世に来てなすべきすべてのことを，わたしたちはなす必要があるのです。

わたしは次のことを心から信じています。わたしたちが自分の罪を悔い改めるならば，ほかの人々の罪に寛大であるならば，また置かれた状況に勇気をもって立ち向かい，それを何とかしたいと思うならば，わたしたち皆の生ける神は，手を差し伸べて，聖文にあるように，「わしの翼に乗せるように〔わたしたち〕を支え」てくださいます（教義と聖約 124：18）。

わたしはわしの翼に乗せられてきました。神が生きておられ，イエスがキリストであられることを，わたしは心の底から知っています。イエスがこの教会を導いておられること，これがイエスの教会であること，イエスが隅のかしら石で，生ける使徒と預言者の土台がその周りに据えられていることを，わたしは知っています。将来わたしたちは再び救い主にまみえること，救い主に忠実であれば自由でいられること，すなわちいかなる束縛も妨げも受けないこと，また救い主が捕らえられて投獄され，わたしたちのために犠牲となって亡くなられたことを示すその肉体にある傷跡を目にすることを，わたしは知っています。わたしたちは罪を悔い改めなければならないこと，また神は正義の御方ですが，罪がたくさんあるところにはそれだけ憐れみも多くあるという，聖文と生ける預言者の言葉に大きな喜びがあること，そして「憐れみは悔い改める者について権利を主張する」ことを，わたしは知っています。■

1974 年 6 月 2 日にブリガム・ヤング大学で行われたファイヤサイドでの話「わしの翼に乗せられて」から。全文〔英語〕は，speeches.byu.edu からご覧いただけます。

このテーマについてもっと詳しく知りたい方は，D・トッド・クリストファーソン「贖（あがな）い」『リアホナ』2013 年 5 月号，109 － 112，ならびにクレーグ・A・カードン「救い主は赦（ゆる）したいと望んでおられます」『リアホナ』2013 年 5 月号，15 － 18 ページをご覧ください。

注

1. *Lectures on Faith*（1985 年），50 － 54 参照
2. C・S・ルイス，*The Great Divorce*（1946 年），viii
3. 『歴代大管長の教え ――ジョセフ・スミス』266 参照

ジョセフ・スミスは，薄汚い，暗い，陰気な監獄のただ中からこの神権時代にとって最も崇高な聖文であると思われるものを書きました。

フォトイラスト／ウェルデン・C・アンダーセン。「リバティーの監獄におけるジョセフ・スミス」グレッグ・K・オルセン画，複写は禁じられています

キリストのような憐れみ

救い主がこの世で実践された教えと模範は，
わたしたちがどうしたら憐れみ深くあることができるかを具体的に示しています。

ランディ・L・デイベル

預言者ジョセフ・スミスとマーティン・ハリスがモルモン書を翻訳した116ページの原稿をなくしたとき，主から厳しい叱責を受けました（教義と聖約3：6－8，12－13参照）。ジョセフは一時的に翻訳する特権を失い，自分が不従順だったことを嘆きました。[1] へりくだって主に赦してくださるように嘆願したとき，救い主はジョセフにこのように言われました。「神は憐れみ深いということを覚えておきなさい。……そうすれば，あなたはまだ選ばれた者であって，再び業に召される。」（教義と聖約3：10）

大管長会第二顧問のディーター・F・ウークトドルフ管長は次のように教えています。「キリストはここでもまたわたしたちの模範です。主はその〔憐れみ深い〕生き方と教えによって道を示されました。邪悪な者，不道徳な者，御自分を傷つけ危害を加える者を赦されました。」[2]

聖文は，憐れみ深さは救い主の天与の特質の一つであることを示しています。イエスは次のように教えられました。「あわれみ深い人たちは，さいわいである……。」（マタイ5：7）「あなたがたの父なる神が慈悲深いように，あなたがたも慈悲深い者となれ。」（ルカ6：36）[3] 憐れみは，思いやりと定義され，同情心や親切，赦し，そして愛と，それらに基づいた行いが含まれます。人々が特殊なつらい状況に置かれていることに気づくときに，わたしたちは憐れみを感じます。イエス・キリストは憐れみに関して無限の能力を示されました。主は「人々の顔を見る度に，彼らが感じている混乱や，戸惑い，惨めさに心を痛められた。……人々が羊飼いのいない羊のように気落ちし，さまよう様子を御覧になる度に，主は彼らに対する憐れみに心動かされておられた」のです。[4]

新約聖書の記述から以下のような原則が挙げられます。これらは，救い主がどのように憐れみを示されたか，またわたしたちが人々に対してどのように憐れみ深くあることができるかを示しています。

イエスは人々を非難しないことによって，憐れみを示された

イスカリオテのユダはイエスを欺く数時間前，最後の晩餐の席でほかの弟子たちとともに過ぎ越しの食事をしました。イエスが「あなたがたのうちのひとりが，わたしを裏切ろうとしている」と言われたとき，ユダも含めて弟子たちは「まさか，わたしではないでしょう」とイエスに尋ねました（マタイ26：21－22）。イエスはユダに答えて言われました。「しようとしていることを，今すぐするがよい。」（ヨハネ13：27）その後，ゲツセマネの園の入り口で，イエスは再びユダにお会いになりました。ユダは「先生，いかがですか」と言って，接吻しました（マタイ26：49）。それに対してイエスは「あなたは接吻をもって人の子を裏切るのか」とお尋ねになりました（ルカ22：48）。イエスはユダの行いの結果を軽減されないながらも，彼を非難されることなく，むしろユダの善悪の判断に訴えるような返答をされています。

イエスはローマ兵の手によって何時間も投獄され，たたかれ，鞭打たれ，町を歩かされ，十字架を運ばされ，十字架につけられるのを堪えられた後でさえ，御自分を捕らえた者たちを憐れみの目で御覧になり，御父にこのように嘆願されました。「父よ，彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか，わからずにいるのです。」（ルカ23：34）

イエスは非難するよりも愛することを選ぶことによって，憐れみを示された

イエスが教導の業を始められて間もないころ，イエスは旅の途中で休憩するためにサマリヤの地で井戸のある所に立ち寄られました。ある女性が水をくむために井戸にやって来たとき，救い主はその女性に話しかけられました。彼女は

「人々が羊飼いのいない羊のように気落ちし，さまよう様子をご覧になる度に，主は彼らに対する憐れみに心動かされておられた。」

「迷い出た子羊」ニューエル・コンバース・ワイエス画、コルビー・カレッジ美術館の許可を受けて復元

イエスから話しかけられて非常に驚きました。「これは，ユダヤ人はサマリヤ人と交際していなかったから」です。しかし，主は彼女を価値のない者と見なす伝統的な考えには目を向けず，福音の生ける水について教えられ，「あなたと話をしているこのわたしが，〔メシヤ〕である」と証（あかし）されました（ヨハネ 4：3 － 39 参照）。

ペレアの地での教導の業を終えられるころ，イエスはエルサレムに行く途中でエリコの町を通られました。ザアカイという背の低い，裕福な男が，歩いて行かれる救い主を一目見ようと木に登りました。イエスは彼に気づいてザアカイの家に泊まることにしようと言われました。イエスの弟子の何人かはこれを見て文句を言い，イエスが「罪人の家にはいって客となった」と言いました。しかしイエスはザアカイの善良さを見て言われました。「きょう，救（すくい）がこの家にきた。この人もアブラハムの子なのだから。」（ルカ 19：1 － 10 参照）

イエスは人々に，悔い改めて赦しを受ける機会を数多く与えることによって，憐れみを示された

教導の業を始められたころ，イエスは御自分の生まれ故郷であるナザレの町に帰られ，以前何度も礼拝に通われた会堂に行かれました。安息日に集まった人々に，メシヤについてイザヤが預言した言葉を読んで聞かせられた後，御自分がそのメシヤであると率直に証されました。会堂にいた人々はその言葉を聞いて「憤りに満ち」，「イエスを町の外へ追い出し，〔がけから〕突き落（おと）そうと」しました（ルカ 4：16 － 30 参照）。イエスの長年の友が敵になったのです。しばらくして，イエスは再びナザレを訪れられ，人々にお教えになりました。人々はまたイエスの言葉に憤慨しましたが，主は彼らが理解できるように 2 度も助けようとされたのでした（マタイ 13：54 － 57 参照）。

ユダヤ人の指導者たちは救い主にとって最も冷酷な敵でした。自分たちの伝統が壊されそうになったため，主を殺そうとしたのです。しかしイエスは彼らに，悔い改め，真理を受け入れて従うようにと何度も強く勧められました。聖文では，10 の主要な説教の中で，イエスが特にユダヤ人の指導者たちに向けて語られ，彼らの罪を指摘し，悔い改めを促されたことが記されています。

イエスは敵意を抱かないことによって憐れみを示された

エルサレムは救い主にとって，最後の苦難と死を受けられた場所でした。エルサレムの町とその住民に対して憤慨し，怒りを示すこともおできになったはずですが，救い主はそうされることなく，彼らの罪悪と，悔い改めを拒んだことに対して，度々悲しみを表されました。

十字架におかかりになる数日前，イエスはロバに乗ってエルサレムに入られました。主に従う群衆は喜び，主が進んで行かれる道に着物を敷いて，神を賛美しました（ルカ 19：28 － 38 参照）。しかし，イエスはエルサレムの人々の忠実さは長くは続かないことを御存じでした。最後の週，救い主はエルサレムの町を見下ろし，涙を流しながらこう言われました。「ああ，エルサレム，エルサレム，預言者たちを殺し，おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。……わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それだのに，おまえたちは応じようとしなかった。」（マタイ 23：37；ルカ 19：41 － 44 も参照）

その後わずか数日のうちに，群衆はイエスに背を向け，死刑を求めました。救い主が十字架にかけられるために連れて行かれると，「大ぜいの民衆と，悲しみ嘆いてやまない女たちの群れとが，イエスに従って行った。

イエスは女たちの方に振りむいて言われた，『エルサレムの娘たちよ，わたしのために泣くな。むしろ，あなたがた自身のため，また自分の子供たちのために泣くがよい。』」（ルカ 23：27 － 28） エルサレムの人々の手によって，公に侮辱され，非常な苦しみを受けられたにもかかわらず，救い主は人々に対して敵意を抱くことなく，彼らが悔い改めを拒んだことに対する悲しみを口にされたのでした。

イエスは，助けの必要な人々を助けることによって憐れみを示された

イエスは数々の旅の中で，ナインの町に近づいていたとき，「あるやもめにとってひとりむすこであった者が死んだので，葬りに出すところ」を目にされました（ルカ 7：12）。十二使徒定員会のジェームズ・E・タルメージ長老（1862 － 1933 年）は，その著書『キリスト・イエス』の中で，このすぐ後に起こった奇跡について記しています。「主は，夫と息子と両方に先立たれたこの母親の泣き悲しんでいるさまを見て，深い同情を寄せ，彼女の悲しみの苦痛を御自分の胸に感じて優しく，『泣かないでいなさい』と言われた。そして息子の遺体を乗せた担架に手をおかけになると，担いでいる者たちは立ち止まった。そこで，その遺体に向かって，『若者よ，さあ，起きなさい』と言われた。すると，死人は万物の主の声を聞いてすぐに起き上がり，物を言いだした。イエスは，親切に息子を母親にお渡しになった。」[5]

イエスはほかにも困っている人々のために数々の奇跡を起こされました。重い皮膚病を患う人を癒（いや）し，海を鎮め，ヤイロの娘をよみがえらせられました。ベテスダの池にいた長患いの男性を癒し，耳と口の不自由な人を癒し，重い皮膚病にかかった 10 人の人を清められました。どの人も，非常に困って

イエスは困っている人々のために，数々の奇跡を起こされました。重い皮膚病を患う人を癒し，海を鎮め，ヤイロの娘を生き返らせられました。

いました。

救い主は，従うべき道を人々に示されました。わたしたちは，人々を非難せず，責めるよりも愛し，人々に悔い改めの機会を多く与え，敵意を抱かず，困っている人々を助けることによって，憐れみ深くあろうと努力できます。イエス・キリストを通して自分に与えられた数々の憐れみにさらに気づき，覚えるとき，わたしたちはさらに人々に憐れみを示せるようになるでしょう。

ウークトドルフ管長は次のように勧告しています。「この人生には心痛や悲しみは十分あるのですから，わたしたちが頑固や反感や憤りによって，さらに増し加えなくてもよいのです。……それでも，不満を捨てなければなりません。……***それが主の道なのです***。」[6]

復活された主がアメリカ大陸のニーファイ人を訪れられたとき，人々に教えられました。人々のもとを去るときが来て，イエスは「もう一度群衆を見回して，彼らが涙を流し……ているのを御覧になった。

そこで，イエスは彼らに言われた。『見よ，わたしの心は，あなたがたに対する哀れみに満たされている。

あなたがたの中に病気の者がいるか。……彼らをここに連れて来なさい。癒してあげよう。わたしはあなたがたのことを哀れに思い，わたしの心は***憐れみに満たされている***。』」（3 ニーファイ 17：5 － 7；強調付加） 主の憐れみは限りないのです。わたしたちがキリストのもとに来るとき，主はその天与の憐れみの賜物（たまもの）によって，わたしたちを祝福してくださいます（モロナイ 10：32 参照）。■

著者はアメリカ合衆国ニューヨーク州に住んでいます。

このテーマについてさらに知りたい方は，ダリン・H・オークス「キリストに従う者たち」『リアホナ』2013 年 5 月号，96 を参照してください。

注

1. 『歴代大管長の教え―ジョセフ・スミス』69 － 71 参照
2. ディーター・F・ウークトドルフ「憐れみ深い人たちは憐れみを受ける」『リアホナ』2012 年 5 月号，75 － 76
3. マタイ 5：7 に用いられているギリシャ語 *eleémón* は*思いやり深い*という意味です。ルカ 6：36 で用いられているギリシャ語 *oiktirmón* も*思いやり深い*という意味です。
4. チャールズ・エドワード・ジェファーソン“*The character of Jesus*”（1908 年），154
5. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』（1997 年），248 － 249
6. ディーター・F・ウークトドルフ「憐れみ深い人たちは憐れみを受ける」76 － 77

イラスト／ダン・バー

教義はどのようにして定められるのでしょうか

教会機関誌
ラリーン・ポーター・ガーント

教義は，昔と同様に現代も，神の啓示によって預言者に与えられます。

末日聖徒であるわたしたちは次のことを信じています。「わたしたちは，神がこれまでに啓示されたすべてのこと，神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは，神がこの後も，神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる。」（信仰箇条 1：9）

啓示と教義の関係について，十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老は次のように述べています。「今日（こんにち）の教会において，キリストの教義を確立したり教義的な逸脱を正したりする際には，昔と同様に，主から使徒の権能を授かった人々が受ける神の啓示によってそれが行われます。」[1]

啓示を手段として，教義が預言者，聖見者，啓示者に与えられるように，わたしたちもそれぞれ，イエス・キリストの福音の教義が真実であるという確認を自分自身で受けることができます。この個人的な啓示は，祈りと聖文研究と聖霊の証（あかし）を通じて与えられます。わたしたちは，悔い改め，バプテスマを受け，聖霊の賜物（たまもの）を受け，生涯にわたって律法に従い福音の聖約を守り続けることによって，イエス・キリストの教義を受け入れていることを示します。

2012 年 4 月の総大会でクリストファーソン長老が述べた話に基づいて作成された次の図は，教義がどのようにして定められるかを示しています。[2] ■

注

1. D・トッド・クリストファーソン「キリストの教義」『リアホナ』2012 年 5 月号，86 参照
2. D・トッド・クリストファーソン「キリストの教義」86 － 90 参照

大管長会

十二使徒定員会

写真／クレーグ・ダイモンド © IRI，チャートグラフィック／タイア・モーリー

教義に関する啓示はイエス・キリストから与えられる

啓示が教会全体に対する教義である場合，それは大管長会と十二使徒定員会にのみ与えられます（アモス 3：7；教義と聖約 1：38；28：2 参照）。

啓示が与えられる方法

神御自身の訪れによる

神はモーセに御姿を現し，御自分の御手で造ったものを示されました（モーセ 1：1－9 参照。ジョセフ・スミス―歴史 1：15－20 も参照）。

神御自身の御声による

主はニーファイに語りかけられ，アメリカ大陸に家族を連れて行くために船を造るように命じられました（1 ニーファイ 17：7－8 参照）。

聖霊の御声による

この種の啓示は，御霊が霊に語りかけます。新約聖書の使徒たちは，新しい改宗者にモーセの律法を守るように求めてはならないという確認を，聖霊を通して受けました（使徒 15：5－29 参照）。

使者の訪れによる

使者であるモーセ，エライアス，エリヤがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れ，それぞれ自分の神権時代の鍵を預言者にゆだねました（教義と聖約 110：11－16 参照）。

啓示を受ける人

教会の大管長

預言者である教会の大管長は個人的に啓示を受けることができます。その啓示は，大管長会と十二使徒定員会の一致した声によって支持されるとき，教義となります（使徒 10 章；公式の宣言二参照）。

評議会として務めを果たす預言者たち

アメリカ大陸の弟子たちは，教会の名称をどうするべきか知るために祈りました。するとキリストが御姿を現してこう答えられました。「あなたがたが行うことは何事でも，わたしの名によって行いなさい。あなたがたは教会をわたしの名で呼びなさい。」（3 ニーファイ 27：7）

義の模範となる人物がいるということは,

人生で最も重要な時期の一つにいる

10 代の若者にとって

非常に大きな祝福となります。

今日（こんにち）の若い男性が必要としている

義の模範となる人物

教会機関誌
ヒカリ・ロフタス

トッド・シルベスターには，高校時代に達成しようと思った目標が二つありました。優秀なバスケットボール選手になることと，学校一のパーティー好きになることでした。

しかし，トッドは14歳のころから酒を飲むようになり，薬物も始めました。教会員ではありませんでしたし，トッドによると，自分が何をしても両親は「とやかく」言わなかったそうです。一時はプロのバスケットボール選手になれると見込まれたほどでしたが，長年にわたる薬物乱用と飲酒のせいでそれも無に帰してしまい，自殺を考える状態にまで陥ってしまいました。

残念なことに，トッドの話に出てくる事柄は，今日，教会員をも含む多くの若者の生活に見ることができます。ただしトッドには，教会の若者にある大切な要素がありませんでした。それは，義の模範となる人物です。成人の教会指導者がいるということは，人生で最も重要な時期の一つにいる10代の若者にとって非常に大きな祝福となります。トッドは22歳で教会に入りました。そしてこのような過去があるために，今は，ワードの青少年にとって良い模範となれるよう努力しています。

シルベスター兄弟の心に変化が訪れたのは，暗闇（くらやみ）のどん底で「神様，助けてください」という率直な祈りの言葉を発したときでした。1か月半後，古くからの友達である教会員が電話をかけてきました。「トッド，ぼくたちを助けてくれないか。それを言いたくて電話したんだ。……君は多くの人の助けになる。特に青少年と子供たちのね。」

バプテスマを受けて神殿結婚をしたシルベスター兄弟は，数年後，若い男性のプログラムで奉仕する責任に召されました。その後14年にわたって若い男性たちに仕えることになるのです。

自分の過去を原動力にして青少年を支える召しを果たしていく中で，悩みを抱える少年たちとかかわる方法が，シルベスター兄弟には分かってきたそうです。「大抵の子は，悩みがあっても話したがらないと思います。でも，わたしは毎年，ワードの子供たちに自分のことを話しました。すると，敷居が低くなるのか，彼らはやって来て『あのう，ぼく，悩んでいるんですけど』などと，ポルノグラフィーや飲酒，自殺願望のことをわたしに話してくれるようになったのです。」 シルベスター兄弟は，少年たちがビショップと話すことも含めて悔い改めの道を歩めるよう支援することができました。

大切な時期にいる青少年の話によく耳を傾けて，愛情を込めて助言をする指導者は，若者の自我の形成を助ける有力な影響を与えることができます。青年期の発達理論で博士号を持つブリガム・ヤング大学准教授であるマット・ドュエルデンは次のように言っています。「青年期は，価値観や信念，役割などの自我が発達

写真／ウェルデン・C・アンダーセン

する時期です。これは探究のプロセスです。このプロセスで，青少年は仲間や親などの大人から評価され助言を受けます。そして，尊敬し一目置いている大人から受ける評価や助言には，非常に強い影響力があるのです。」

ドュエルデン兄弟は続けてこう言っています。「いい相談相手の役割が最も効果的に果たせるのは，お互いに尊敬し合えていて，自分の服装や言葉遣いがどうあろうと本気で心配してくれる人がいると青少年が感じている場合です。」

シルベスター兄弟はこう言います。「ほとんどの少年は，父親とのつながりを求めています。それがない場合，次に望ましいのは，話したり意見を言い合ったりすることができ，それでいて彼らの問題を聞いても裁いたりばかにしたり批判したりしない成人男性がいることです。わたしが青少年に寄り添ってきたのは父親の代わりになるためではなく，青少年がわたしと気楽に話せるようになってほしくてそうしたのです。」

もちろん教会の成人指導者は10代の若者を導くうえで重要な役割を果たすことができますが，青少年の模範となるのはまず親であると，預言者と使徒は言っています。例えば，十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老はこう言いました。「父親の皆さん，皆さんは息子さんにとって，最初に出会う男らしさの模範です。皆さんは息子さんにとって最も頼りになる相談相手であり，信じないかもしれませんが，いろいろな意味でヒーローなのです。皆さんの言葉と模範は，彼らに大きな影響を及ぼします。」（「父と息子――すばらしい関係」『リアホナ』2009年11月号，47）

シルベスター兄弟は青少年と強いきずなで結ばれていますが，だれとのきずなもすぐにできたことなどありません。何年にもわたる奉仕を通して築いてこなければならなかったのです。シルベスター兄弟が教えた20人の若い男性のうち，17人が伝道に出ました。そのうち少なくとも5人は，シルベスター兄弟と接するようになるまで，伝道に出ることを考えていませんでした。

「この少年たちへの働きかけが巧を奏したのは，わたしの無条件の愛を彼らが感じ取っていたからです。それは，わたしが言葉で伝えたからではなく，行動で示したからです。わたしは，彼らが救い主との関係を築くことを何より優先しました。彼らがあらゆることを乗り越えて人生で前進し，成功するための鍵（かぎ）はこれだと感じていたからです」とシルベスター兄弟は言っています。

シルベスター兄弟は，救い主との関係を築いていけるよう青少年を助けました。彼らが証（あかし）を持つことで，伝道に出，神殿で結婚して家族を持ち，義にかなった子供を育てるようになってほしくてそうしたのです。シルベスター兄弟はこう言っています。「それが幸福の計画です。だからこそ，〔青少年を助けること〕が大切なのです。」■

「青少年と同じことを一緒に経験することが大切です。そうすると，気持ちが通じ合うようになります。座って見ているだけではなく，積極的に参加する必要があります。同じことを一緒に経験すると，それは非常に大きな力になります。

どんな召しを受けていようと，すべての会員が青少年にかかわるべきです。」

ブリガム・ヤング大学准教授　マット・ドュエルデン

3つの成功例

次に挙げるのは，良い模範となる人物がいて，その人物から大きな影響を受けた青少年の例です。

神の子として見てくれました

わたしはアメリカ合衆国ミズーリ州で青少年の時期を過ごしましたが，その間ずっと，ブレーン・バーソロミュー兄弟がステーク若い男性会長会にいて，活動のとき優しくしてくれました。でも，友情を示してくれたり，助言をしてくれたりしても，わたしはまともに受け止めたことはありませんでした。もっと親しくつきあうようになったのは，わたしが18歳になったころからです。彼はわたしが悩んでいたことも，悪い道に足を踏み入れてしまったことも知っていました。そのころ彼はビショップだったので，ビショップとしてわたしにアドバイスを与え，義の道に戻れるよう導いてくれました。結局わたしは薬物とアルコールに手を染め，よそに引っ越してからも相変わらずそんな生活を続けていました。

ところが実家に戻ったときに，バーソロミュー兄弟のことを思い出したのです。愛してくれたことも思い出しました。彼は喜んで友達づきあいを復活させてくれ，家族のように扱ってくれました。友達というだけではなく，第2の父親になってくれました。酒に酔ったときや薬物を使ったときに何度世話になったか分かりません。

わたしは今では大人になり，ブレーンとの関係を大切にしています。彼はいつも励まし，愛し，助けてくれます。それがどんなにありがたいか，彼は知りません。わたしが神の子として持っている可能性を決して疑いませんでした。わたしは今，罪と高慢を克服しようと努めています。そして，自分に交わすことができるとは想像もしなかった聖約を，もうすぐ交わそうとしています。天の御父がわたしの模範としてこのような人物を立ててくださったことに感謝しています。

匿名（アメリカ合衆国ユタ州）

少しずつ

わたしはかつて若いころ問題児でした。親や指導者はわたしにどう接したらよいか分からず，頭を抱えていました。そんなとき，ある日曜日に，新しいスカウトマスターがワードで召されたのです。見たことのない人だったので，転入者だろうと思いました。厳しい人で，厳格なルールを決めて従わせようとしました。この人とはやっていけないと，わたしは即座に判断しました。

しかし，彼には別の意図があったのです。わたしが好きでしていたことをわざわざ突き止め，最初から興味を引くような活動を計画してくれました。わたしが伝道に出，神殿結婚をし，何十年も教会で奉仕をするように，2年も3年もかけて少しずつ導いてくれたのです。

J・エルデーン・ロー（アメリカ合衆国アイダホ州）

以来一度も聖餐会を休んだことがありません

青少年のころ，わたしはその年代によくある試練を経験しました。おまけに父があまり教会に行っていなかったので，わたしと福音を結ぶ存在は母だけでした。当時は分からなかったのですが，わたしには模範となる神権者が必要だったのだと思います。

天の御父はわたしが行くべき道を歩めるようにある人を送ってくださいました。以来ずっと，今に至るまでわたしは大いに影響を受けています。その人の名前はパウロ・セサール・ドス・サントスです。

ある日曜日のことでした。その日わたしは教会に行く気になれず，母にうるさく言われたくもありませんでした。もう少し後で用意ができたら行くから先に行ってと母に言うと，わたしは教会に行かずにテレビでスポーツを見ていました。しかし，しばらくすると，聞き慣れたパウロビショップの声が玄関から聞こえてきたのです。彼がいろいろと言うので，わたしは根負けしてしぶしぶ聖餐会に行きました。

この経験は，わたしの人生に大きな影響を与えました。わたしはそれ以来，一度たりとも聖餐会を休んだことがありません。

ビニシウス・エリアス・バルボーサ・ジャルディン（ブラジル，サンパウロ）

今も
響き渡る呼びかけ

「家族――世界への宣言」は，最初に発表されたときよりも，むしろ現代にこそ当てはまると預言者と使徒は言っています。

教会機関誌
リチャード・M・ロムニー

結婚生活が危機に瀕（ひん）し，昔ながらの家族が攻撃の的になっている世の中にあって，具体的な指針が分かりやすく書かれている文書があります。「家族――世界への宣言」は，1995 年に発表されたときと同様またはそれ以上に現代の世の中に当てはまると預言者と使徒は言っています。[1]

現代の自由の旗

家族に関するこの宣言は，「家族を守り強めるようにと，ラッパの音のように明快に呼びかけて」いる，と十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は言っています。[2]

現代の世の中は，モルモン書に描かれている衰退しつつあるニーファイ人の社会に似ています。バラード長老は，「司令官モロナイの『自由の旗』のようにこの宣言を掲げ，その教えに従って生きる決意をする」よう末日聖徒に呼びかけています。[3]

幸福に欠かせないもの

世の中では，幸福になる方法として，ありとあらゆるものが宣伝されています。しかし現代の預言者は，幸福になる最大の可能性は日の栄えの結婚の中にあると言っています。[4]

家族は永遠に続くものになり得るという知識に基づいて生活し，行動するなら，教会員は「世の注目を浴びる」ようになるとバラード長老は言っています。「家族を優先している親は，この教会に引きつけられることでしょう。……

この家族中心の考え方を持っている末日聖徒は，世界一の親になろうと努力するでしょう。子供に対しても，実際には霊のきょうだいですから非常に敬意を払うでしょう。家族を強めるために必要であれば幾らでも時間をささげるでしょう。親自身にとっても，子供にとっても，家族が互いに愛し合い，支え合うこと以上に，幸福と深くかかわっていることはありません。」[5]

自分が持つ以上の力

バラード長老は，すべての家族がこの宣言を持ち，その教えに従うべきだと勧告しています。

「最高の自分になり，最高の振る舞いをするよう努めてください。神がその子供たちに与えられた，現世で最も神聖な責任を果たそうと皆さんが日々努力するならば，神は皆さんが持つ力以上の力を与えてくださいます。御霊（みたま）の声と生ける預言者の勧告に耳を傾けてください。元気を出してください。神は失敗させるために皆さんを地上に置かれたのではあり

この宣言は lds.org/topics/family からご覧いただけます。友達にも紹介してあげましょう。

ません。親としての皆さんの努力は，皆さんがあきらめないかぎり，失敗とは見なされないでしょう。」[6]

永遠の命への希望

家族の宣言では，家族は永遠に続くものになり得ると教えています。十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老は次のように教えています。「救いは個人的な事柄ですが，昇栄は家族の事柄です。……家族が神殿で結び固められるとき，その家族は，神の王国そのもののように永遠になるのです。」[7]

大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は，家族は「社会と教会の基本的な単位であるばかりでなく，永遠の命への希望をつなぐ基盤」であると説明しています。[8]

時代に先駆けた警告

アイリング管長は，家族の宣言に書かれている教えに従わないと，その結果は「この世における平和すなわち幸福の欠如だけにとどまらない」と警告しています。[9]

この宣言は預言の言葉だとアイリング管長は言っています。なぜなら，近年見られる家族の弱体化の元凶となっている事柄に対して，警告の言葉が述べられているからです。アイリング管長はこの宣言の最後の部分から，預言的な警告と行動を呼びかける言葉を引用しています。

「わたしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々，伴侶（はんりょ）や子供を虐待する人々，家族の責任を果たさない人々は，いつの日か，神の御前（みまえ）に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は，個人や地域社会，国家に，古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。」[10]

国際的な文書

ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 – 2008 年）は，1995 年 9 月 23 日，中央扶助協会集会において家族の宣言を紹介し，その目的は世の人々がその標準から外れることがないよう「現在起こっていることと，これから起こることの両方に対する警告」を与えることであると言いました。[11] それ以来，この文書は多くの言語で出版され，総大会で繰り返し採り上げられ，全世界の集会所や家庭に掲示されてきました。これは愛にあふれる天の御父が，御自分の子供たちに指針を与えるために下さった預言的な宣言です。この指針が今ほど必要とされる時はありません。■

注

1. M・ラッセル・バラード「永続するものこそ最も大切なものである」『リアホナ』2005 年 11 月号，41 参照
2. M・ラッセル・バラード「永続するものこそ最も大切なものである」41
3. M・ラッセル・バラード「永続するものこそ最も大切なものである」41。ここで言っていることを家族が実践できるようにするのに役立つ活動は，『リアホナ』2013 年 7 月号，60 ページの「初等協会を　かていでも」を参照してください。
4. ラッセル・M・ネルソン「日の栄えの結婚」『リアホナ』2008 年 11 月号，92 – 95 参照
5. M・ラッセル・バラード「永続するものこそ最も大切なものである」42
6. M・ラッセル・バラード「親の神聖な責任」『リアホナ』2006 年 3 月号，17
7. ラッセル・M・ネルソン「日の栄えの結婚」92，93
8. ヘンリー・B・アイリング「家族」『聖徒の道』1998 年 10 月号，23
9. ヘンリー・B・アイリング「家族」23
10. 「家族 ――世界への宣言」『リアホナ』2010 年 11 月号，129
11. ゴードン・B・ヒンクレー「世の策略に対抗して立つ」『聖徒の道』1996 年 1 月号，113

フォトイラスト／クレーグ・ダイモンドとコーディー・ベル ©IRI

説教台の後ろに見た教え

あるとき聖餐会で，わたしの家族は執事たちの列から2，3列後ろに座っていました。開会の賛美歌が始まるまで，わたしは執事の一人が気になってたまりませんでした。長いネクタイが正しく結べておらず，ワイシャツはしわしわで，ズボンの中にきちんと入れていないのです。だれかが直してやればよかったのにと思いました。とにかく，聖餐を配る執事は身のこなしも服装も救い主の模範に従っていなければならないのですから。

会が進行するうちに，その執事のことは忘れてしまいました。執事たちが聖餐を配ると，話が始まりました。2番目の話者はその若い執事の母親でした。自分の改宗や子供のころの試練，一人親としての苦労について話しました。すばらしい話で，この母親は最後には泣いていました。壇上の席に戻り，ワード聖歌隊が歌うために集まって来ても，彼女の涙は止まりませんでした。

そのときです。この母親の息子が立ち上がり，壇上に歩いて行きました。ネクタイは曲がり，ワイシャツはズボンからはみ出したままです。でも，母親を抱き締めると，隣にしゃがんで慰めようとしたのです。目の前で繰り広げられる光景を見て，わたしの目には涙があふれました。感動して言葉も出ませんでした。しかし，ふとあることに気がつき，わたしは恥ずかしくてうなだれてしまいました。しわ一つないダブルのスーツを着て完璧にネクタイを締め，ぴかぴかの黒い靴を履いたわたしは，聖餐会の準備の中で大切なことを忘れていたのです。

聖歌隊の歌が始まると，この若い男性と母親は壇上から下りて来て一緒に座りました。わたしは腰かけたまま，歌に耳を傾けるどころではありませんでした。この執事が教えてくれたことが，キリストのような慈愛を持ちなさいという言葉とともに心の中を駆け巡っていたからです。

この執事が示したのは，優しさと愛の行いでした。あどけなさの残るその顔に表れていたのは，人目をはばかる様子ではなく，純粋な愛だけでした。その後の話者の話もすばらしかったのですが，あの説教台の後ろに見た教えを，わたしは決して忘れないでしょう。■

ジェフ・フルマー（アメリカ合衆国，アイダホ州）

息子が立ち上がり，壇上に歩いて行きました。ネクタイは曲がり，ワイシャツはズボンからはみ出したままです。でも，母親を抱き締めると，隣にしゃがんで慰めようとしたのです。

二人の新しい執事

何年か前，わたしは執事定員会のアドバイザーを務める機会にあずかりました。その定員会には活発な執事が３人いて，３人とも定員会の会長会に召されていました。

あるとき定員会の集会で，年若いこの会長会は，定員会のあまり活発でない会員が少なくとも二人，教会の集会や活動に出て来られるようにしようと決めました。日付はよく祈って６週間後の日曜日に設定し，その日までに目標を達成することにしました。彼らはこの計画が成功するよう祈り，以下のことを行うと，祈りをもって固く約束したのです。

- 定期的に集まって祈る。
- 一緒に断食する。
- 名簿に載っている執事を全員訪問する。
- 活動を計画し，教会に戻ろうとする執事が，よく練られたプログラムに参加できるようにする。

会長会は，この目標は主の御心（みこころ）だと心から思っていたので，信仰と確信をもって実行に移しました。

それから数週間，この３人の若い男性は，自分たちの祈りがかなえられると信じて，約束したことを行いました。一緒に祈り，一緒に断食し，あまり活発でない執事たちを訪問して教会に戻るよう勧め，活動の準備をしたのです。出席者の増加に備える必要があると信じていました。

しかし，このような努力にもかかわらず，執事たちは戻って来ませんでした。教会にもほかの活動にも来なかったのです。目標の日が迫り，定員会の会員たちが教会に戻って来ないのでがっかりしてはいたものの，この若い男性たちは，それでも天の御父が祈りにこたえてくださると確信していました。

目標の日曜日が来ましたが，会長会が働きかけた若い男性はだれも教会に来ませんでした。しかし，聖餐（せいさん）会でビショップは，これまで求道者として学んでいた12歳の若い男性が二人，その日の夜バプテスマを受けると発表したのです。

このような会長会が導く定員会に入れたのは，この二人の新しい教会員にとって，非常に大きな祝福でした。また，このように努力と祈りが直接こたえられ，主が約束を守ってくださることを知ることができたのは，この会長会にとって非常に大きな祝福でした。

定員会は大喜びで，会長会の一人はこう言いました。「これ，もう一度やろうよ。」■

アンソニー・ポウトュ（ニュージーランド）

それから数週間，この３人の若い男性は，一緒に祈り，一緒に断食し，そして，あまり活発でない執事を訪問して，教会に戻るよう勧めたのです。

イラスト／ブラッドリー・クラーク

天の御父の愛

少し前に，友人たちに頼まれて，彼らの息子のジョンとそのガールフレンドが我が家に１週間泊まることになりました。ジョンは教会にあまり行っておらず，ガールフレンドは教会員ではありませんでした。わたしたちはガールフレンドに我が家の息子の部屋を貸し，ジョンには居間のソファーで寝てもらいました。

二人が到着する前にわたしたちは天の御父に祈りました。教師や親のように，または単なる友人のように彼らに接するべきか，どのような立場を取るべきか尋ねたかったからです。御霊（みたま）の促しに従うように，そして二人に霊的な助けを与えるようにという答えが来ました。

毎晩，夫と息子とわたしは聖典を読みます。二人を迎えた最初の日，一緒に学んでみるか誘うべきでないと感じました。ところが，次の夜，聖典学習の前にジョンが恥ずかしそうにドアをノックしてこう言いました。「メアリーは聞くのをためらっていますが，一緒に読んでもいいかどうか知りたがっています。」

わたしたちは喜んでドアを開けて二人を歓迎し，モルモン書を一緒に学び始めました。メアリーは聖典を読むのは初めてで，自分が神を信じているのかよく分かりませんでした。我が家に来たら，自分の理解できない宗教的なことに参加させられるのではないかと不安に思っていたことを打ち明けてくれました。

ジョンが恥ずかしそうにドアをノックしてこう言いました。「メアリーは聞くのをためらっていますが，一緒に読んでもいいかどうか知りたがっています。」

メアリーの不安を解消するため，夫は救いの計画や救い主イエス・キリスト，ジョセフ・スミスの最初の示現，モルモン書について話しました。メアリーは真夜中までわたしたちと話し込みました。

次の日，ジョンとメアリーはわたしたちと一緒に宣教師からレッスンを受けました。あのとき部屋にあふれていた御霊を決して忘れることはないでしょう。簡単な話し合いの後，わたしたちは天の御父の本質について話しました。すると，メアリーは，神がわたしたちを愛しておられるなら，なぜ世の中に苦しみがあるのかと尋ねました。これはわたしも長い間ずっと問い続けてきたことでした。

数日前に３人目の子供を流産した友人から手紙をもらっていたので，メアリーの疑問はわたしの心に深く響きました。悲しみを経験すると，幸福と喜びがある状態よりも深遠で，永遠に渡る影響を及ぼす教訓を学べることがあるとわたしは説明しました。炎が鉄を鍛えるように，悲しみもわたしたちを鍛えてくれるとメアリーに伝えました。試練のさなかでも神に忠実であり続ければ，信仰が育（はぐく）まれるのです。

一生忘れない話し合いとなりました。後で，わたしたちが黙って座っていると，御霊が天の御父の愛について証（あかし）されました。顔を上げたとき，メアリーの目は光輝き，涙ぐんでいました。

これから将来どのようなことが起きるか分かりませんが，あの日，メアリーの目に映った深い理解は，彼女を生涯にわたって助け，天の御父のみもとへ導いてくれると確信しています。■

アンナ・ニキティチェワ（ロシア）

主が祝福された不協和音

聖餐会で息子のデレックと「静まれ，わが魂よ」[1]を歌い終わったとき，わたしは恥ずかしさのあまり赤面していました。集会前にきちんと発声練習をしていなかったため，高音を出すときに声がうわずってしまったのです。

席に戻った後も，居心地悪い思いがしてなりませんでした。妻はわたしを励まそうと笑顔を見せ，集会の御霊は損なわれなかったと言いましたが，わたしは納得できませんでした。

閉会の祈りの後，レッスンのテキストを車まで取りに行きました。ワードの姉妹が礼拝堂の入口のところに立ってすすり泣いていました。一人の友人がその姉妹の肩に腕を回し，支えていました。わたしが通りかかると，泣いていた姉妹がわたしの名を呼び，感謝を述べました。わたしたちがあの賛美歌を選んだこと，そしてその歌が彼女の心に深く響いたことに感謝していると言うのです。

彼女は数日前に死産を経験しており，それ以来，怒りや絶望と闘っていたと説明しました。デレックとわたしが賛美歌を歌ったとき，苦痛にあえぐ自分の霊を御霊が温かく包み込み，平安と慰めをもたらすのを感じたそうです。そして悲しみの十字架を背負うのに必要な希望に満たされたと言いました。

わたしは決まり悪そうにお礼を言って，外へ出て行きました。その姉妹の言葉によって祝福された気持ちとへりくだる思いがしました。車に着いたとき，ブリガム・ヤング大学アイダホ校のキム・B・クラーク学長のディボーショナルでの説教が心に浮かびました。クラーク学長はこう話しました。「信仰によって〔イエスの名で〕主の御業を行うとき，主はわたしたちとともに行って」人々に仕え，「その人が聞く必要のある言葉を語れるように祝福してくださるのです。」学長はさらに，「わたしたちの実際の言動が不器用だったり，不格好だったりするかもしれません。……しかし，救い主はわたしたちの言葉と行いを，御自身の御霊を通して人々の心に伝えられます。わたしたちの心からの，しかし不完全な努力を，ちょうど良いもの，すなわち完全なものに変えてくださるのです。」[2]

集会所に戻るとき，わたしの目には感謝の涙がこみ上げてきました。主は不完全な歌を祝福し，そのメッセージを完全な方法で，悲痛を味わっていた若い姉妹の心に伝え，彼女の霊を慰められました。そのうえ，主はその感動的な経験を用いて，深遠な福音の原則をわたしの心にいっそう深く刻み込んでくださったのです。■

ランディー・ロンズデール（カナダ・アルバータ州）

注

1. Hymns，124 番
2. キム・B・クラーク，“Love by Faith”ブリガム・ヤング大学－アイダホ校ディボーショナル，2010 年 7 月 29 日，www.byui.edu/Presentations/Transcripts/EducationWeek/2010_07_29_Clark.htm〔英語〕

集会前にきちんと発声練習をしていなかったため，高音を出すときに声がうわずってしまいました。

主の恵みは十分である

神の恵みは実際に
どう作用するのでしょうか

ブラッド・ウィルコックス

あるとき，一人の若い女性が話をしたいと言ってやって来ました。「もちろんいいですよ。どうしたのですか」と言うと，

「ただ，恵みというものが分からなくて」と言うのです。

「どんなところが分からないのでしょうか。」

「最善を尽くす必要があることは分かります。そうすれば後はイエス様がしてくださるのですから。でも，最善を尽くすことすらわたしにはできないのです。」

わたしは言いました。「実は，イエス様はわたしたちの負債を全部支払ってくださったのです。払い残しはありません。すべて払ってくださいました。完済されたのです。」

この女性は言いました。「分かりました。だから，わたしは何もしなくていいのですね。」

「いや，そういうわけではありません。あなたにはやることがたくさんあります。でも，その負債を払う必要はありません。わたしたちは皆，復活します。皆神のみもとに戻って裁きを受けるのです。わたしたちの従順の度合いによって決まるのは，神の御前（みまえ）にどんな気持ちで行けるか，どの階級の栄光にあずかるかです。」

キリストを信じる信仰を示しなさい，悔い改めなさい，聖約を交わしてそれを守りなさい，聖霊を受けなさい，そして最後まで堪え忍びなさい，とキリストはわたしたちにおっしゃいます。でも，これに従うことによってわたしたちは正義が要求するものを支払っているわけではないのです。これっぽっちも支払ってはいません。そうではなく，これらを行うことでキリストが生きられたような生き方をし，そうすることによってイエス・キリストがしてくださったことに対する感謝の気持ちを表しているのです。正義の要求は，直ちに完全になるか，それができなければ罰を受けるかです。イエスはその罰をお受けになったため，最終的に完全になれるチャンスをわたしたちに与え（マタイ 5：48；3 ニーファイ 12：48 参照），わたしたちが完全になれるよう助けることがおできになります。イエスは正義には決してできない赦（ゆる）しを与えてくださり，その代わりに今度は，わたしたちに条件を出されました（3 ニーファイ 28：35 参照）。

恵みは人を変える

わたしたちに対するキリストの計らいは，母親が子供に音楽のレッスンを受けさせるのに似ています。母親はピアノの先生にレッスン料を払います。全額支払ったのですから，母親は子供に何かを要求することができます。何を要求するでしょうか。練習です。子供が練習すると，ピアノの先生はもうかりますか。いいえ。子供が練習すると，母親がピアノの先生に支払った料金は戻りますか。いいえ。練習するとは，母親が料金を払ったというすばらしいプレゼントに対して感謝を表すことです。練習するとは，母親からもらったすばらしい機会をいかに活用して，生活のレベルを上げるかということです。母親は料金が戻って来ることにではなく，自分が与えた機会を活用して子供が成長するのを見ることに，喜びを見いだすのです。練習しなさいと子供に口を酸っぱくして言うのはそのためです。

母親から練習するようううるさく言われて困ると子供が感じているとしたら（「もう，お母さんったら。なぜ練習なんかしなくちゃならないの。練習しないとだめな子供なんか，ぼくだけだ。とにかくぼくはただプロ野球の選手になりたいだけなのに」），恐らくそれは，母親の視点で物をまだ見ることができてないということです。より高いレベルで生活することを選択すれば，どれだけ人生がよりよいものになるか

「ケンセマネのキリスト」の一部／ハインリッヒ・ホフマン画，© ハリソン・コンロイ社の厚意により掲載。背景 ©THINKSTOCK/ISTOCKPHOTO

恵みが理解できると，キリストの贖罪の祝福は途切れることがなく，キリストの力はわたしたちの弱いところに完全に現れることが分かってきます。

を，分かっていないのです。

同様にイエスは正義の求める代価を支払われたのですから，わたしたちにこう言うことがおできになります。「わたしについてきなさい。」（マタイ 4：19）「わたしのいましめを守るべきである。」（ヨハネ 14：15） イエスの求めが過大な要求に思えるとしたら，それは，わたしたちがキリストの視点で物を見ていないためではないでしょうか。イエスが自分にどうなるよう望んでおられるのかが，わたしたちにはまだ理解できていません。

十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老はこう言っています。「犯した罪を悔いる人は，自分の罪のために苦しみますが，この苦しみには罰や代価の支払いとは異なる目的があります。それは，変わるということです（*The Lord's Way*〔1991 年〕，223，強調は原文のまま）。」この言葉を，ピアノを練習する子供に当てはめてみましょう。子供はピアノを練習しなければなりませんが，その目的は罰や負債の返済ではありません。変わるために練習しているのです。

贖罪の奇跡が行われたのは，単にわたしたちが死んでからも生きられるようになるためではなく，より豊かに生きられるようになるためです（ヨハネ 10：10 参照）。贖罪の奇跡が行われたのは，単に清められ，癒されるためではなく，変わるためです（ローマ 8 章参照）。清くない者は神とともに住むことができないと，聖文にはっきりと書いてありますが（アルマ 40：26 参照），変わらない者には，神とともに住みたいという望みすらありません。

贖罪の奇跡は，単に神のもとに戻れることではなく，神のもとで心地よく感じられるという奇跡です。天の御父と御子が信仰と悔い改めを要求なさらなかったとしたら，だれも変わろうとは望まなかったでしょう。信仰を持つことも悔い改めることもなしに生きることを選んでいる家族や友人について考えてみましょう。彼らは変わりたいとは思いません。罪を捨てて神に親しもうとはしていません。逆に，神を捨てて，罪に親しもうとしています。御父と御子が聖約を交わすようお求めにならず，聖霊の賜物を授けてくださらなかった

「キリストと裕福な若い役人」の一部，ハインリッヒ・ホフマン画，C・ハリソン・コンロイ社の厚意により掲載

としたら，変わるすべはなかったでしょう。主の力が頂けないとしたら，変わろうという意思があっても，永遠に変わることはできません。天の御父と御子が最後まで堪え忍ぶようお求めにならなかったとしたら，時間をかけてこのような変化を自分のものにすることはなかったはずです。変わったとしても，それはいつまでたっても表面的な見せかけの変化でしかなく，内側までもが変わってその変化が自分の一部となり，自分のものとなることはなかっただろうと思われます。端的に言えば，イエスが訓練しなさいとおっしゃらなかったなら，わたしたちが聖徒になることなど，決してなかったのです。

キーポイント

- 人はキリストの恵みによって救われる。キリストは，わたしたちの罪の代価を払ってくださった。
- 人は悔い改めて戒めを守るなどの努力をするだけでは救われない。それらは人が変われるように救い主が定められた***条件***なのである。
- 神の恵みとは，人がすべての欠点を克服できるよう助ける神の力であり，いつでも頂くことができる。

恵みによる助け

「でも，訓練がどれほどつらいか，分からないのですか。わたしはピアノがあまり上手ではありません。間違えてばかりいます。いつまでたってもちゃんと弾けるようにはなりませんよ。」いえ，待ってください。すべてが学ぶ過程なのではないですか。子供が間違った音を弾いても，ピアノを練習し続ける資格がないと言う人はいません。子供に期待するのは失敗なく弾くことではありません。ひたすら努力し続けることです。完璧に弾けるようになることは究極の目標かもしれませんが，良い方向に進歩していれば，とりあえず満足することができます。このような考え方が，ピアノの練習については理解しやすいのに，霊的な学習について理解しにくいのはなぜでしょうか。

あまりにも多くの人が自分の至らなさを常に感じて教会を去っています。努力したにもかかわらず，あまりよくできないと絶えず感じてきた人たちです。このような人たちには，「恵み」が理解できていません。

完全な者になるか，諦めるか。この二つの選択肢しかないはずはありません。ピアノを習うとしたら，カーネギーホールで演奏するか，ピアノをやめるしかないのでしょうか。そんなことはありません。進歩成長には時間がかかります。学習には時間がかかるのです。恵みについて理解すれば，神が長く堪え忍ぶ御方であられ，変わるというのは一連の過程であり，悔い改めは生活の中で常に繰り返されるものであることが分かります。恵みが理解できると，キリストの贖罪の祝福は途切れることがなく，キリストの力はわたしたちの弱いところに完全に現れることが分かってきます（2コリント12：9参照）。恵みが理解できると，教義と聖約にあるように，「〔わたしたち〕が完全になるまで忍耐し続け」ることができるようになるのです（教義と聖約67：13）。

恵みとは，ガソリンがなくなったときに作動する補助エンジンのようなものではありません。むしろ，常にわたしたちのエネルギー源になるものです。トンネルの向こうに見える光ではなく，トンネルを抜けるまで照らしてくれる光なのです。恵みとは，いつかそのうちに頂けるものではなく，今ここで受け取るものなのです。

恵みは十分である

キリストの恵みは十分なものです（エテル12：27；教義と聖約17：8参照）。わたしたちの負債を払うのに十分であり，わたしたちが変わるために十分であり，変わるのにどれほど時間がかかろうと，それを助けるために十分なのです。モルモン書には，「聖なるメシヤの功徳と憐（あわ）れみと恵みに」ひたすら頼りなさいという教えがあります（2ニーファイ2：8）。これらにひたすら頼ると，あるキリスト教徒たちが考えるように，キリストは人に何もお求めにならないわけではないことが分かってきます。むしろ，キリストが人に多くをお求めになる理由が分かり，お求めになることがすべてできるようわたしたちを強めてくださることも理解できるようになります（ピリピ4：13参照）。恵みとは，神が高い期待をお持ちでないことの証拠ではなく，神の力が存在することを表すものなのです（ルカ1：37参照）。

神の恵みは十分です。キリストの恵みも十分です。十二分にあるのです。これさえあれば大丈夫です。やめないでください。努力し続けてください。逃げ道や言い訳を探さないでください。主と，主の完全な力を求めてください。人のせいにしないでください。助けてくれる人を探してください。キリストを求めてください。キリストを求めるならば，人に能力を授ける力と神の助け，つまり主の驚くべき恵みを感じるようになるでしょう。■

2011年7月12日にブリガム・ヤング大学で開かれたディボーショナルでの説教を基に書かれました。全文〔英語〕はspeeches.byu.eduからご覧いただけます。

十二使徒定員会
**D・トッド・
クリストファーソン長老**

幸福への
階　段

*戒めは，わたしたちが心から望んでいること，
またわたしたちを愛しておられる天の御父が
わたしたちの益となるよう望んでおられることを，
制限するのではなく，むしろ実現するために
与えられたものです。*

イラスト／クリス・マイルズ。フォトイラスト／ロバート・ケーシー © IRI

時として，戒めは人生をややこしくし，人生の機会や幸福あるいは喜びを取り去る制約または制限と考え，困惑する人がいます。しかし，実際のところ，戒めはわたしたちを守り，幸福へと導いてくれるものなのです。戒めは，わたしたちが心から望んでいること，またわたしたちを愛しておられる天の御父がわたしたちの益となるよう望んでおられることを，制限するのではなく，むしろ実現する，すなわち現世でも来世でもそれを獲得するために与えられたものなのです。

戒めは一続きの階段のようなものです。一段一段がそれぞれの戒めを象徴していると言えます。一つずつ戒めを守るごとに，一段ずつ階段を上ることができます。戒めの本質をよく理解すれば，より多くの戒めを求めるようになります。戒めは嫌だと感じなくなります。より多く成長するために，より多くの戒めを求めるようになります。わたしたちを愛しておられる天の御父は，わたしたちの望みに応じて戒めをお与えになります。わたしたちが望めば，御父は，わたしたちの成長を促すために，より多くの戒めをお与えになるのです。

ですから，若人の皆さん，どうぞ戒めについて不平を言わないでください。「もうこれ以上は要りません」などと言わず，むしろこう言ってください。「ええ，もっと下さい。成長し，幸福になり，天の御父のようになるのがわたしの望みなのです。戒めはそのための方法を示してくれます。わたしの前に道を開いてくれます。また，罪悪や幸福を破壊する事柄からわたしを守ってくれます。命そのものを守ってくれることさえあります。」

皆さんが確信を持つようにと願っています。わたしたちは，たとえ一人だけでそうしなければならないように思えても，戒めを守るために必要なことはすべて行わなければならないのです。■

2011年11月，アルゼンチンのサルタで行われた青少年を対象とする説教からの抜粋

このテーマについて詳しくは，トーマス・S・モンソン「従順は祝福をもたらす」『リアホナ』2013年5月号，89および L・トム・ペリー「律法への従順は自由をもたらす」『リアホナ』2013年5月号，86を参照してください。

話し合いに参加する

9月の神権定員会，若い女性，日曜学校のクラスでは戒めについて学びます。同世代の人々が守るのに苦労している幾つかの戒めについて考えるとよいでしょう。あなた，あるいはほかの会員は，それらの戒めに従うことでどのような祝福を受けてきたでしょうか。周囲の人々にそれらの祝福に関する証（あかし）を伝える方法について，意見を出し合います。何を言うべきか，またそれをいつ言うべきか知るために御霊（みたま）の導きに従います。家庭の夕べで幾つかの例を実演するか，日曜学校のレッスンで証を分かち合うとよいでしょう。

大きく広々とした建物は何がそれほどすばらしいのでしょうか

デニス・C・ガーント

アビーは学校のダンスパーティーに行くのを楽しみにしています。でも，自分の新しいドレスが，もう少し友達が着るドレスのようだったらいいなと思っています。袖なしのドレスを着る友人は，地味なドレスを着ている自分よりも魅力的でおしゃれな感じがすると思うからです。友人のようなドレスでなければ，自分は逆に目立ってしまうのではないかと心配しています。

ある夜のこと，ネートは友人と遊んでいます。そのとき友人の一人が缶ビールを何缶か取り出し，飲めよと言って皆に回します。最初は，「できない」と言って断ります。友人は笑い出し，ばかにします。ネートは友人からつまらないと思われたくありません。友人に笑われないようにという，ただそれだけの理由で，何口かだけ飲もうかと考えます。

このような状況はよくあることではないでしょうか。人生の岐路に立つのは，アビーやネートに限ったことではありません。分かれ道のように自分たちの前に異なる選択を突きつけられるのです。このような難しく大切な決定の瞬間に，わたしたちは特異な存在になりたくないという気持ちから，自分の信じることを貫くことに恐れを感じることがあります。

アビーやネートは，リーハイの命の木の示現で語られている困難の幾つかをじかに経験しているのです。この示現を通して，人々がまっすぐで狭い道からそれるおもな理由のうち二つが分かります。一つは誘惑によって目をくらまされるため（1ニーファイ8：23；12：17参照），もう一つは大きくて広々とした建物にいる人々にあざけり笑われるのが恥ずかしいと思うためです（1ニーファイ8：26－28参照）。これら二つの側面からリーハイの示現を吟味し，それらをよりよく理解するだけでなく，それらを通じて正しいことを擁護し，特異な存在になる力が得られるかどうか確かめましょう。

この道を歩む

世の誘惑に関する問題は，それが実に*魅力的*だということではないでしょうか。スペンサー・W・キンボール大管長（1895－1985年）は次のように語っています。「一体だれが罪は楽しくないと言ったでしょうか。……罪は魅力的で好ましいのです。……罪を犯すのは簡単で，愉快な仲間が大勢いるのです。」[1]

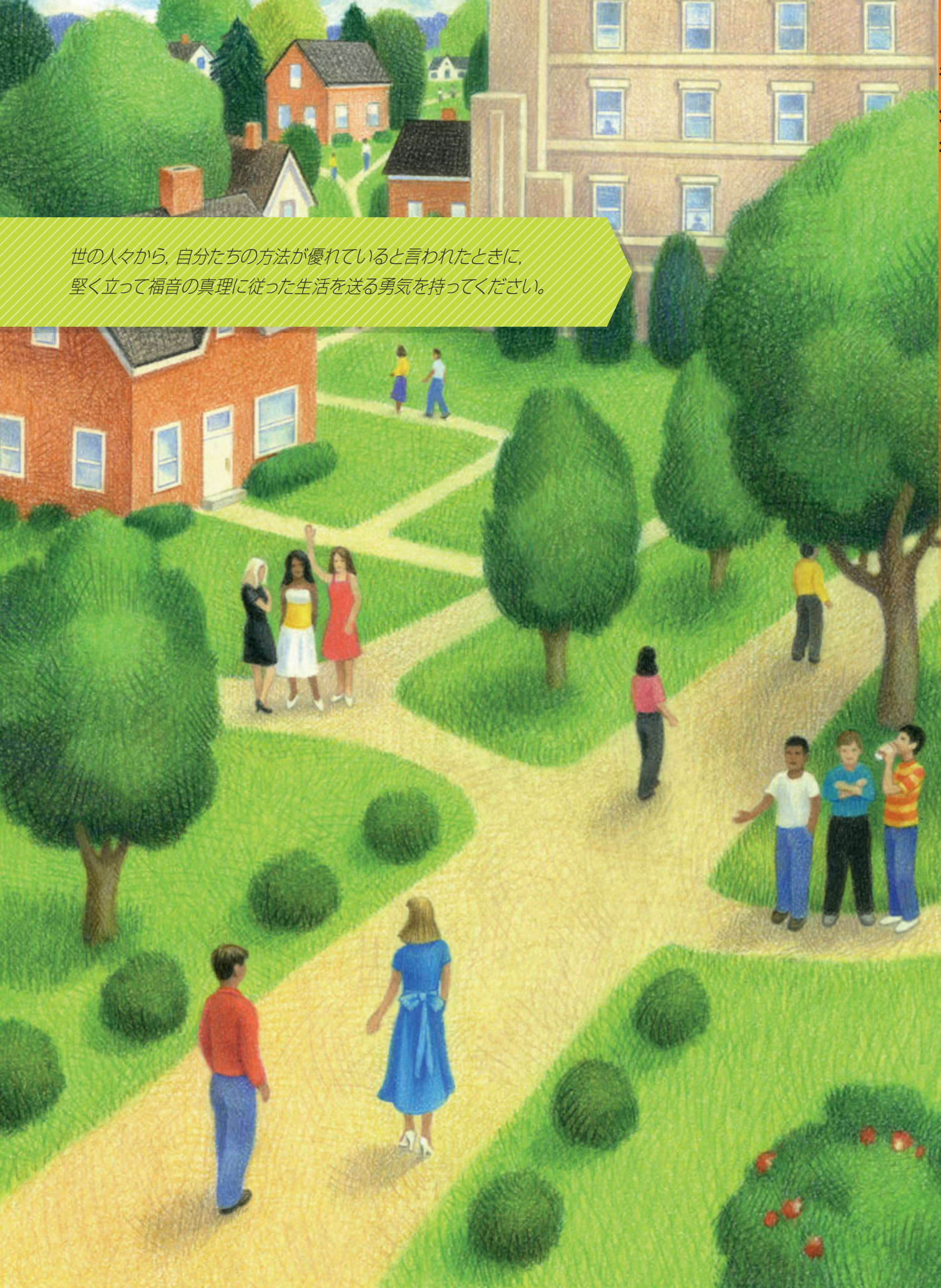
認めたくはないのですが，ほかの道の多くはなかなか魅力的に見えます。突然，刺激的な方向にそれる道があるかと思えば，福音の道と並行しているように見えながらも，ごくわずかな曲線を描いて曲がる道もあります。魅力的な赤いじゅうたんが敷かれていて，拍手の音が鳴り響く道もあれば，金や宝石が敷き詰められたように見える道もあります。

大きくて広々とした建物の魅力も，そのような道とよく似ています。何と言っても，そこには世界中で最も裕福で，最も人気があり，最も魅力的で，最も権力のある人々が住んでいるのです！ そのような人々とのつきあい，そのような人々と同じような振る舞いや服装を望まない人が果たしているでしょうか。そのような人たちは，普通，福音の道にとどまろうと努力しているわたしたちよりも，はるかに楽しい時間を過ごしているように見えます。

わたしたちの友人アビーとまったく同様，わたしたちも大きくて広々とした建物の住民に注意を向ければ向けるほど，嫉妬（しっと）心を抱いたり，欲求不満になったり，あるいは腹を立てたりすることさえあるかもしれません。わたしたちが命の木へと続く道にとどまろうと努力している一方で，あの人たちはあれほどたくさんの良いものに恵まれている，これは不公平ではないかと思うかもしれません。

人々を福音の道からそらす最良の方法の一つは，言葉巧みに人々を操

イラスト／スティーブ・クロップ



世の人々から，自分たちの方法が優れていると言われたときに，
堅く立って福音の真理に従った生活を送る勇気を持ってください。

り，この道はつらく，退屈で，古くさいからとどまれないと思い込ませることです。このことをサタンはよく承知しています。サタンは，わたしたちがほかのどの道を選ぶかには関心はありません。とにかくほかの道であって，福音の道でなければいいのです。

「その実はどんな味がしますか。」

忠実な人々をあざけり笑うのは，大きくて広々とした建物の住民が大好きなことです。トーマス・S・モンソン大管長は次のように語っています。「著名人や，……世の注目を浴びている人が，宗教全般を馬鹿にしたり，時にはとりわけこの教会を嘲笑（ちょうしょう）の的にしたりする傾向がだんだん強くなってきています。」[2]

面と向かってであれインターネット上であれ，どこへ行っても，身近なところに大きくて広々とした建物があり，その窓が開いていて，そこからわたしたちの大切にしているものを指差して笑おうと待ち構えている人がいるかのように見えます。わたしたちは恐らくだれもが，その時々において，このように嘲笑されることを経験したことがあるでしょう。しかも，これには非常な苦痛を伴うことがあるのです。キリストのような態度で応じなければならないと分かってはいますが，そう簡単にいくとは限りません。だれも笑われたくありませんし，心から信じているものをけなされたくありません。しかし，「できない。モルモンだから」といったような言葉で応じた結果，ネートのように，周りの人から大笑いされることがあるのです。

「わたしは……できない。」

あざけり笑う人は，***できない***という言葉に焦点を当てる傾向があるということに気づきましたか。次のような例がそうです。「どうしてこれを飲むことが***できない***の？」，「どうして日曜日の買い物に一緒に行くことが***できない***の？」，「どうして婚前交渉をすることが***できない***の？」

このように***できない***という言葉に焦点を当てられると無力感を覚えることがあります。自分たちは弱くて，意気地なしのように思えることがあります。楽しいことが一切できないように人を縛りつける冷たい，神の無力な犠牲者であるかのように思えることがあるのです。

この方法はずっと昔から存在しました。実際，サタンはこの方法を世の初めから使っているのです。神がアダムとエバをエデンの園に置かれたときに，神はこう言われました。「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。」（モーセ 3：16）「どの木」という言葉が制限のように聞こえるでしょうか。神はアダムとエバに，善悪を知る木から取って食べることによって生じる具体的な結果については語られましたが，二人を物理的に制限するようなことはなさいませんでした。園全体が二人のものであり，こう告げられたのです。「あなたは自分で選ぶことができる。それはあなたに任されているからである。」（モーセ 3：17） これは自由が与えられたということではないでしょうか！

ですから，サタンがやって来て，こう言うのは興味深いことです。「園のどの木からも取って食べてはならないと，ほんとうに神が言われたのですか。」（モーセ 4：7） 事実，サタンは，大きくて広々とした建物の窓から発せられるあのあざけり笑う口調で，「どうしてその木の実を取って食べることが***できない***のか」と問いかけているのです。神が結果を付された一つのことに焦点を当て，神がまるでアダムとエバから自由を取り上げたいと思っておられるかのような言い方をしています。サタンは神の言葉を歪曲（わいきょく）し，二人を説得して神ではなく自分に従わせるためにうそをついているのです。結局のところ，その実を食べることは最初から計画の一部でした。そして，神は，アダムとエバ，そしてすべての子供たちが成長して神のみもとに帰る機会を与えるために救い主を備えられました。

「わたしはやらない！」

「わたしはできない。モルモンだから」と言うときのわたしたちの真意は一体何でしょうか。

信じることを貫く

信じるところを擁護することについてのビデオを視聴し，標準を守ることを選択する理由について若人から聞くには，youth.lds.org にアクセスし，主要なビデオ（英語，ポルトガル語，スペイン語で視聴できる）の中の「一人でも気高く立ち」および「清くなる選択をします」〔このビデオは日本語でも視聴可能〕を検索してください。

選ぶ力

「人の子らは堕落から贖われているので，すでにとこしえに自由となり，善悪を知るようになっている。彼らは，……思いのままに行動することができ，強いられることはないのである。」（2ニーファイ2：26）

ほんとうは「できたらいいのに。モルモンでなければ，文句なしにやるんだけど」と言っているのでしょうか。以前，自分が教会員でなければやりたいと思っているすべてのことについて，冗談交じりで話す友人がいました。問題は，時々，その友人が冗談で言っているのかどうか分からなくなったことです。

できない や ***やらない*** に焦点を当てるよりも，むしろ***やらない***という言葉を使うならば，はるかに良い気持ちがします。***できない***ではなく***やらない***という言葉を使うことによって，言い回しの焦点が変わり，わたしたちには自分で選ぶ特権が与えられているということが明らかになります。「やらない」と言うことによって，わたしたちは次のように言っていることになるのです。「わたしはそうしないことを***選んでいる***のです。盲従しているからでもなく，制限されているからでもありません。選択の自由と説明責任があることを信じ，正しいことをしたいと***望んでいる***からなのです。わたしは作用されるのではなく，作用することを選んでいるのです。」（2ニーファイ2：14，26参照）

「できない」の代わりに「やらない」という言葉を使うのは，とてつもなく勇敢な行為です。群衆に従って様々な道を進むのに勇気は必要ありません。それはだれにでもできることです。真理を擁護することは真の信仰の現れです。世の中で特異な存在になるには真の勇気が必要です。わたしたちはほんとうの意味で選択の自由を行使し，自分で考えるのです。大きくて広々とした建物に住む人々は，いつも「名前のない群衆」，「顔のない集団」と称されます。結局のところ，そのような人々の言葉は，空虚で無意味です。信仰をもって選択の自由を行使することにより，わたしたちはリーハイや彼の家族の中でも雄々しく忠実な人々のように，勇気をもってこう言うことができます。「わたしたちは，彼らのことを気に留めなかった。」（1ニーファイ8：33）

ますます邪悪になっていくこの世にあって，堅く立ち，福音の道を歩む人々は，確かに目立ちます。しかし，彼らは孤立していません。トーマス・S・モンソン大管長は次のように呼びかけているからです。「わたしたちが勇敢であり，信じるところを擁護する備えができますように。独りで立たなければならないときは，天の御父とともに立つならば決して独りではないという真実に励まされ，勇気をもってそうすることができますように。」[3] ■

著者はアメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。

注

1. スペンサー・W・キンボール，*Faith Precedes the Miracle*（1972年），229
2. トーマス・S・モンソン「一人でも気高く立ち」『リアホナ』2011年11月号，60
3. トーマス・S・モンソン「一人でも気高く立ち」『リアホナ』2011年11月号，67

友人の光となる

七十人
ベンハミン・
デ・オヨス長老

わたしは人生の初めの12年間，同じ友人たちとともに成長しました。わたしたちは近所同士でした。同じ学校に行き，互いの誕生パーティーに出席しました。彼らの家で食事をしたこともあれば，彼らが我が家で食事をしたこともあり，皆で楽しい時間を過ごしました。しかし，10代になってから，様子が変わり始めました。友人たちは教会員ではありませんでした。彼らは下品な言葉を口にし，タバコを吸い，アルコールを飲みました。純潔の律法に関する考え方もわたしとはまったく違いました。

わたしはこの問題について慎重に考え，どうすればいいか父と相談しました。父はこう言いました。「自分で決めるんだね。あの親友たちはお前とは違うんだ。昔は分からなかっただけだよ。でも，今は分かるだろう。とても大きな違いがあるって。」

わたしは父の助言を信頼しました。友人たちはわたしが教会員であると知っていました。ですから，わたしが彼らの行く所にはどこでも行くというようなことはしないと決めたことについて，彼らは理解してくれました。友人であることに変わりはありませんでしたが，最終的には，一緒に過ごす時間がだんだん減っていきました。

友人たちと別れるのはつらいと思いましたが，生活の中で福音の原則を守り続けることは大切だと知っていました。アルマは息子たちに神を信じる信仰を持つようにと教えましたが，わたしはそのときアルマが息子たちに与えた勧告について考えました。こう書かれています。「神に頼る者は，試練……の中にあって支えられ〔る〕。」（アルマ36：3）

このつらい時期を乗り越えるのに助けとなったのは，ミューチャルを含め，毎週，教会の活動に参加することでした。また，ダンスやスポーツ，ユースカンファレンスなどで，いつも忙しく過ごしました。

教会員ではない新しい友人ができました。彼からパーティーに来ないかと誘われることがありました。こうしたパーティーはミューチャルと同じ日に行われたので，「悪いな，行きたいけど，ほかに用事があるんだ」と言って断りました。

何をしているのかと尋ねられました。「ミューチャルに行くところだよ」と答えました。

今度は「ミューチャルって何」と聞かれました。

わたしは，ミューチャルでは楽しい活動がたくさんあり，自分は会長会の顧問として奉仕していると説明しました。パーティーへの招待を3度断ったときに，彼はこう言いました。「ミューチャルに招待してよ。」

そういうわけで，彼はわたしと一緒に教会へ来てくれました。そして宣教師からレッスンを受け，最終的には，バプテスマを受けたのです。

今決心をし，友人の光となるよう皆さんに勧めます。皆さんにできることの一つは，セミナリーに出席することです。皆さんのセミナリー教師は，*自分の*務めを果たしています。たくさんの労力を払って，皆さんのためにレッスンを準備してくれます。セミナリーは皆さんが*自分の*務めを果たすとき，さらに大きな祝福となります。読書課題を読み，祈り，断食し，教えを受け，それを受け入れるのです。学びは教師と生徒の双方が自分の務めを果たすときに起こります。

高校生のとき，友人の一人がわたしをパーティーに誘い，こう言いました。「車を借りてもいいかぼくのお父さんに聞きに行こう。」彼のお父さんは息子に車を貸したくありませんでした。そこで，彼はわたしを見て，こう言いました。「よし，車を貸してあげよう。ただし，運転はベンハミンがすること。」

この男性は，わたしの家族とわたしが教会員であり，アルコールを飲まないこと，またわたしが安全運転をすることを知っていたのです。

友人の父親が取った行動を通して，わたしは両親の教えと模範に感謝しました。我が家では家庭の夕べを開いたり，家族で祈ったりしていました。日曜日は家族にとって休息の日でした。このような活動をすることで，福音を行動に表し，しかもとても楽しい時間を過ごしました。父は，日曜日の午後，福音について語り合うために，よく我が家にほかの人々を招待しました。一緒に食事をし，福音について語り合い，ともに親睦を図りました。

将来の強い家族を築くために，今，準備してください。積極的に福音について学ぶときに準備することができます。神を信頼しているならば，毎日，熱心に祈り，聖文を読み，自らを清く保ち，『神への務め』や『成長するわたし』に取り組んでください。そうすることによって，有害な影響から守られ，友人の光となり，喜びに満ちた人生を送ることができます。■

ラスト／キャスリーン・ピーターソン

わたしの国では，
ある人と一度デートをすると，
ボーイフレンドあるいは
ガールフレンドと見なされます。
どうすれば**軽薄なあるいは**
不誠実な人間と
評価されることなく，
いろいろな人と気軽に
デートできるでしょうか。

これは全世界の末日聖徒の若人にとって大きな課題です。教会の若人は，早い時期に真剣な関係に発展させないために，「同じ相手とばかり頻繁にデートするのは避け〔る〕」（『若人の強さのために』〔小冊子，2011年〕4）よう勧められているからです。しかし，世界の大半の文化では，まだ最初のデートをする前からボーイフレンドあるいはガールフレンドになる誘いがよくあります。また，たった1回のデートによってその人が特定の相手とつきあっているということになったりもします。そのような文化では，いろいろな人とデートをすると，「関係」を台なしにするように見えたり，軽薄あるいは不誠実な人と思われてしまうかもしれません。では，どうしたらいいのでしょうか。

まず，だれもが純潔や性的清さに関する主の標準についてのあなたの信念と献身を理解するようにします。これはあなたの性格や振る舞いについて疑いを抱かれることがないようにするためです。次に，あなたを取り巻くデートに関する考え方を積極的に良い方向へと変える努力をします。そのために教会の方針をしっかりと説明します。デートの標準について質問されたら，もしすぐに結婚することを目指していないのであれば，どうしてそれほど早い時期に，情緒的肉体的に親密で排他的な関係を持つ必要があると感じるのか尋ねます。一緒にグループデートに参加するよう勧めます。そうすることによって，10代の恋愛に付きものの不必要な道徳上の危険や情緒的な人生の悲劇を避けつつも，楽しい時が過ごせることを理解できます。生ける預言者や十二使徒から受けた導きや助言について教えてあげてください。■

若い女性は 18歳で家庭訪問教師になるのに，若い男性はなぜ14歳から ホームティーチャーになるのですか。

1830年に教会が組織されたときに与えられた啓示の中で，主はこのように宣言されました。「教師の義務は，常に教会員を見守り，彼らとともにいて彼らを強めることであ〔る〕。」（教義と聖約20：53）この義務はアロン神権の教師以外にも祭司やメルキゼデク神権者にもあります（教義と聖約20：45－52）。ホームティーチングは，神権指導者からの具体的な割り当てを受けてこの義務を果たすための一つの方法です。似ている点はあるものの，家庭訪問の目的は少し異なっており，扶助協会の会長会からの（ビショップや支部会長の承認を得た）割り当てを通して扶助協会の姉妹が互いに強め合う機会を提供します。もちろん，若い女性（特にクラス会長会）も様々な方法で互いを強め，支え合う機会を求めるべきですが，毎月特定の人を訪問する割り当ては受けません。■

伝道に出るための 身体的な健康条件は何でしょうか。

重大な健康問題や医療的な制限があると，宣教師の務めを効果的に行うことができず，同僚の働きにも良くない影響を与えかねません。通常，そのような人々は伝道に出ません。例えば，車いすや松葉杖（づえ）が必要で，介助がなければ日常生活を営めない人は伝道に出ることは勧められていません。また，過度の肥満がある場合も，伝道中の過酷な日課をこなすのが非常に難しいことがあるため，神権指導者は宣教師として推薦する前に減量を勧めることがあります。総合的な健康に関して一つの指標となることは，一日に難なく9キロ歩けるかどうかということです。

これらに関して質問がある場合は，ビショップや支部会長に答えと導きを仰ぐことができます。■

断食献金やその他の献金はいつから納め始めるべきでしょうか。

もし収入源と献金したい気持ちがあれば，どの年齢でも断食献金を納め始めることができます。もちろん，収入があったときには什分（じゅうぶん）の一を納めるよう主は命じておられます。さらに，「断食日の適切な守り方とは，……助けの必要な人々の世話に役立てるために惜しみなく断食献金をささげることです。」（『若人の強さのために』〔小冊子，2011年〕39） 家族で毎月断食するときに促しを受けても，両親が家族の食費を出しているから自分は献金してはいけないというわけではありません。たとえあなたが若くても，献金額に関係なくいちばん大切なことは，あなたが主の戒めに従って，無私の思いで人々に祝福を与えようとしていることです。その犠牲は人々だけでなく，あなた自身にも祝福をもたらすでしょう。もし献金をするように霊感を受けており，実際に献金する能力があるのなら，両親に相談して，什分の一の献金票に書かれている教会のその他の基金に献金することを検討してもよいでしょう。■

フォトイラスト/マシコー・ライアー。硬貨 ©THINKSTOCK/ISTOCKPHOTO

中央初等協会会長
ローズマリー・M・ウィクソム

音楽の影響力

マウスを使った実験で，音楽がそれを聞く人たちにどれほど大きな影響力を持っているかが分かります。

だれかに「初等協会で何がいちばん記憶に残っていますか」と聞くと，よく「音楽です」という答えが返ってきます。初等協会の歌の歌詞は，わたしたちの心の中に深く刻み込まれるので，忘れることがありません。例えば，初等協会の歌には次のようなものがあります。それぞれのフレーズを完成することができますか。

「わたしもなりたい……」

「お父様……」

「モルモン書の……」

それぞれの文章を完成させるのに，思わずメロディーを口ずさんでしまったのではないでしょうか。

そうだとしたら，恐らく，音楽がわたしたちの感覚を高め，感情を動かし，記憶を生み出すものだからでしょう。若人が高揚感あふれる音楽やダンスを発表する文化行事で，神殿の奉献を祝うのもうなずけます。こうした行事は「神にむかって喜び呼ばわ〔り〕」，「そのみ名の栄光を歌〔う〕」のです（詩篇 66：1－2）。

音楽はわたしたちにいつも影響を与える

『若人の強さのために』ではこう教えられています。「音楽はあなたの心，霊そして行動に大きな影響を与えます。」[1] 音楽には，実に多くの点で，あなたの人生を豊かにする力がありますが，危険性も併せ持っています。トーマス・S・モンソン大管長はこう語っています。「音楽は，皆さんがさらに天の御父に近づくうえで助けとなるものです。音楽は教え，教化し，ひらめきを与え，きずなを強めるために活用することもできます。しかし，一方で，音楽はテンポ，リズム，音の強さ，歌詞の内容などを通して，霊的な感受性を鈍くすることもあります。不適切な音楽で自分の心を満たすようなことをしてはなりません。」[2] また，歌詞を注意して聞くかどうかは重要でないかもしれませんが，メロディーに付けられる歌詞の多くは，簡単に学び，簡単に覚えることができます。[3]「どのような音楽を聞くか慎重に選〔ぶ〕」[4] よう警告されているのももっともなことです。

マウス，音楽，そして学習

音楽の選択は仕事を完成したり，学習したりする能力にも影響を与えることがあります。二人の研究者が，マウスの神経系統に与えるメロディーとリズムの影響を研究し，その関連性を調査しました。8 週間にわたって，1 番目のグループのマウスはシュトラウスのワルツ（非常に系統的で秩序だった音楽）を聞き続けました。2 番目のグループは，継続的なドラムビートの形で不調和音を聞きました。3 番目のグループは何の音も聞こえない状態で飼育されました。

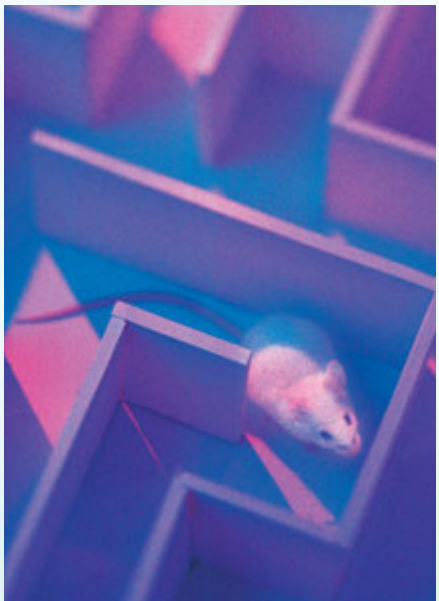
8 週間がたち，マウスは迷路に置かれました。そこで食物を探すのです。2 番目のグループのマウスは，方向感覚がないために迷子になりました。「学習に困難を来しているという明らかな兆候」が見られました。研究を始めたころに比べ，食物を探すのにはるかに多くの

時間がかかりました。「不協和音に」さらされたマウスは，「学習と記憶に困難を来すのみならず，……脳細胞に構造的な変化が起こる」ということが分かりました。研究者の分析は大変興味深いものです。「マウスは調和を欠く騒音からこのような絶えざる攻撃を受け，その埋め合わせをしようとしていた。……マウスは，無秩序と戦っていたのである。」[5]

効果的な学習をいつも妨げている今日（こんにち）の音楽の一部に見られる「無秩序」とは何でしょうか。（マウスの場合と同様）それは音楽のリズムやビート，あるいはそこで用いられる言葉や伝えられるメッセージと関係があるかもしれません。十二使徒定員会会長のボイド・K・パッカー会長はこう語っています。「社会は気づかないうちに変化しています。しかし，その力は大きなものです。今の社会では，娯楽という枠の中で受け入れられてしまうものが増えています。その結果，今日人気を集める音楽家たちが演奏する音楽の多くは，心を和ませるよりも刺激を与え，落ち着かせるより興奮させることが目的となっているようです。」[6]

時間と御霊（みたま）にかかわる問題

有害なのは耳障りな音楽のリズムや歌詞だけではありません。そのような音楽を聴いていると，冷静に考えたり，御霊に耳を傾けたりすることのできる静かな時間が持てなくなるのです。多くの人に愛読されているキリスト教関連の小説，*The Screwtape Letters* で，スクルーテイプという登場人物はサタンの代表的存在であり，善人を悪の道に導こうとします。スクルーテイプはこう言います。「人間がわれわれ悪魔の仕事について，自分たちの心の中に外部から何かが注ぎ込まれることと考えているのは，こっけいきわまる誤りだ。ほんとうのところ，われわれの最良の仕事がなされるのは，人間の心のうちから何かを締め出しておくことに成功したときなのだから。」[7] 実際のところ，サタンは必ずしもわたしたちの心を悪い思いで満たす必要はないということ，御霊に関する事柄にいつも焦点を当てさせないようにすることさえできればよいということを知っているのです。「絶え間なく音楽を聞いていると，考えたり，感じたり，御霊の導きを受けたりするために必要な静かな時間が持てなくなることがあります。」[8]



わたしたちには常に御霊の導きが必要です。だからこそ，どのような音楽を聴き，どのようなダンスに参加するか，慎重に選ぶ必要があるのです。御霊を導き手としてください。自分が聞いている音楽，あるいは自分が置かれている環境に疑問があれば，勇気をもって行動してください。そうすれば，御霊がともにいてくださいます。■

注

1. 『若人の強さのために』（小冊子，2011年），22
2. トーマス・S・モンソン，*A Prophet's Voice: Messages from Thomas S. Monson*（2012年），77
3. ジャック・R・クリスチャンソン，“Author's criterion for picking music: does it encourage a proper life style?” *Church News*, 1989年5月6日，5からの引用を参照。
4. 『若人の強さのために』，22
5. リチャード・リップキン，“Jarring Music Takes Toll on Mice,”（『耳障りな音楽はマウスにとって負担となる』）*Insight*，第4巻，14項，1988年4月4日，58
6. ボイド・K・パッカー「価値ある音楽，価値ある思い」『リアホナ』2008年4月号，33
7. C・S・ルイス，*The Screwtape Letters*（『悪魔の手紙』〔日本語版〕）（1982年），20
8. 『若人の強さのために』23

左から――THINKSTOCK/ISTOCKPHOTO，写真／ローズマリー・M・ウィクソム©プサス・フォトグラフィー
写真／ロバート・ケーシー，THINKSTOCK/COMSTOCK，背景――THINKSTOCK/ABLESTOCK.COM

心の祈り

耳にする音楽の標準を上げたことで，音楽がますます好きになりました。

マ・コンスエロ・N

わたしは音楽が大好きで，音楽を聴いたり歌ったりしていないと，一日が物足りなく感じます。最近，音楽に対する愛が別の形で深くなりました。また，幾つかのことを学び，それがきっかけとなって，音楽に対する考え方やその利用法が変わりました。

すべては次の聖文を読んだときから始まりました。主はこう語っておられます。「わたしは心の歌を喜ぶからである。まことに，義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして，彼らの頭（こうべ）に祝福が注がれるであろう。」（教義と聖約 25：12） この聖句を読んだとき，わたしは母から教わったことを思い出しました。あるとき，賛美歌をふざけた態度で歌っていると，母に注意されました。賛美歌は祈りであり，ふさわしい態度で歌う必要があるというのです。この聖句は賛美歌だけでなく，正しい望みを胸に抱いて歌うあらゆる歌に当てはまるとわたしは思います。聖文に記されているように，わたしたちが主への歌を歌うとき，どのような祝福がわたしたちに注がれるか想像してみてください。

わたしは良い音楽を聴くことの大切さも学びました。この聖句を読んだ後で，わたしは自分が持っている歌のリストに目を通し，『若人の強さのために』に記されている教えを支持しない歌は取り除きました。

しばらくして，わたしは自分のコレクションに含まれていない音楽について決めなければなりませんでした。ある日，学校で一人の同級生が下品な歌を歌い始めました。その歌について良い気持ちを感じなかったので，ほかの歌に変えてほしいと頼んだところ，そうしてもらえました。そのような状況に置かれたとき，わたしたちのだれもが同じような勇気を持てると知っています。音楽を変えてもらえないときもありますが，そのようなときには別の選択肢があります。その場を立ち去ればよいのです。

良い音楽を通して，天の御父に近づくことができると知っています。音楽にはわたしたちを教化し，霊感を与え，御霊（みたま）がともにあるように招き，義にかなった行動を取るように促し，また敵対者の誘惑に耐えられるよう助ける力があります（『若人の強さのために』〔小冊子，2011 年〕，22 － 23 参照）。

義人の歌を歌っているとき，わたしたちは文字どおり天の御父に祈っているのだということを忘れないでください。■

筆者はフィリピン，メトロマニラに住んでいます。

良い音楽を選ぶ

「音楽はあなたの心，霊そして行動に大きな影響を与えます。

どのような音楽を聴くか慎重に選んでください。耳に入って来たときにどのような気持ちになるか考えてください。邪悪で破壊的なメッセージを伝える音楽もあります。歌詞の内容，リズム，音の強さなどを通して，不道徳を奨励し，暴力をたたえるような音楽は聞かないでください。俗悪な，あるいは攻撃的な言葉を用い，邪悪な行いを促すような音楽は聞かないでください。そのような音楽を聞くと霊的な感受性が鈍くなる恐れがあります。」

『若人の強さのために』（小冊子，2011 年），22

イラスト／スティーブン・キール

未来を
打ち上げる

知識を積み込めば，学んだことでどこまで飛べるか分かります。

イラスト／ドラボット＆カーネハン

薄い壁を通して

わたしたちはある家族に
福音を教えていましたが，
その隣に住む人にも
教えていたことが，
後になるまで分かりませんでした。

モニカ・ガルシア・アダムズ

姉妹宣教師として，わたしたちはある女性に福音を伝えていました。パラグアイのアスンシオン郊外に市営ごみ集積所がありましたが，この女性は，その近くにある大きな丘のふもとでつましい生活を送っていました。

ソレダーと夫のオスカルは，ごく薄い壁で仕切られた複数の部屋が一つ屋根でつながった長細い家屋の一角に住んでいました。それぞれの部屋はとても狭く，窓，ドア，テーブル，そしてベッドが一つあるだけでした。この地区には，このような建物が幾つかありました。木造で，屋根はわらぶき，床は地面がむき出しでした。部屋の透き間に押し込まれた粘土のおかげで，少し寒さがしのげました。

ソレダーは聞いていました

ソレダーは３人の子供を持つ母親で，彼女自身もまだ若く，生活苦にあえいでいました。家族の世話，子供の日々の必要を満たすだけで精いっぱいでした。しかし，彼女はわたしたちの訪問を歓迎し，日々の生活で神が必要であることを理解しているようでした。

ソレダーは自分の考えや気持ちを包み隠さず話してくれました。彼女はオスカルと恋に落ち，両親の承諾を得ないまま，家を飛び出していました。二人とも教育は一切受けておらず，仕事もありませんでした。二人の将来は真っ暗でした。ソレダーは，神に見捨てられたのではないか，未熟な選択をしたために神から罰を受けているのではないかと思いました。

オスカルは，家族が何とか生きていけるようにと，路上で小さな飾り物を売って歩きました。それがよく売れたときには，食べ物や，時には子供たちに上げる小さなプレゼントを買いました。しかし，売れなかったときには落ち込み，機嫌が悪く，酔っ払って帰宅することも度々でした。

生活上の問題が多すぎて，そんな彼らを助けるのは大変なことだと感じました。しかし，たとえ彼らの成長が遅くてがっかりすることがあっても，愛し教え続けなければならないという強い御霊（みたま）の促しも感じました。その後も何度か彼らを訪問し，心から祈った末に，しばらくこの家族に時間を与

え，わたしたちが教えたことについて考え，モルモン書を研究し，自分で祈ってもらう必要があると感じました。

わたしたちはソレダーに自分たちの考えを説明しました。彼女は気分を害しました。わたしたちが彼女の家族を見捨てると感じたのです。4番目の子供を身ごもっており，生き延びるための方法が分からないとも言いました。彼女は怒って，出て行ってもう二度と来ないでと言いました。

イラスト／サム・ローラー

フアンも聞いていました

しかし，わたしたちは知りませんでした。隣の家に住むフアンは壁越しにわたしたちが教えたことを聞いていたのです。彼は若く，好奇心旺盛で，ひどく内気な男性でした。話を聞いているうちに，救いの計画，モルモン書，そして悔い改めについて，たくさんの疑問がわきました。彼は，ソレダーからモルモン書を借り，それを読み，自分が人知れず学んできたことについて祈っていたのです。

何日かが過ぎました。わたしたちがソレダーとオスカルを教えに行かなくなったので，フアンは心配し始めました。激しい冬の嵐（あらし）が来そうなある夜のこと，フアンはソレダーに，わたしたちがどこに住んでいるのか，どうすればわたしたちと連絡が取れるのか尋ねました。ソレダーは知らないと告げると，フアンは泣き出し，わたしたちのメッセージが真実であることについて証（あかし）しました。そして土砂降りの雨で通りが泥の川のようになっていましたが，嵐の夜の中を外に飛び出して行ったのです。

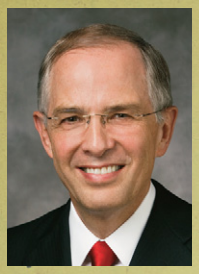
何時間かたって，フアンは疲れ，体は冷え切っていましたが，それでも探すのをやめませんでした。そして，暗闇（くらやみ）の中を進みながら，祈り始めました。もしわたしたちを見つけることができるよう助けてくださったら，自分はバプテスマを受け，生涯主に仕えると天の御父に約束したのです。一方，ソレダーはフアンの証に感銘を受け，わたしたちが戻って来るように祈り始めました。フアンは帰宅しましたが，その後も2日間，祈り，モルモン書を読み続けました。また，ソレダーは熱心に祈り，オスカルと相談しました。二人は一緒にモルモン書を読み始めたのです。

天の御父は聞いておられました

嵐から2日後，同僚とわたしは，ひざまずいて祈ったとき，丘のふもとにあるあの小さな建物をもう一度訪問せずにはいられない気持ちになりました。わたしたちはすぐそちらに向かいましたが，そこへ着いたとき，ソレダー，オスカル，子供たちそしてフアンが，うれし涙を浮かべながら，大喜びでわたしたちを迎えてくれ，一部始終をわたしたちに話してくれました。それ以来，全員が福音について熱心に学びました。やがてフアンがバプテスマを受けました。ソレダーとオスカルが後に続きました。

わたしはソレダーとオスカルの反応があまりよくなかったにもかかわらず，教え続けようとあれほど強く感じたのはなぜなのか，不思議に思ったのを覚えています。怒られ追い出されたにもかかわらず，もう一度訪問するようあれほど強く駆り立てられたのはなぜなのか，不思議に思ったのを覚えています。しかし，フアンの人生，さらにはソレダーとオスカルの家族にもたらされたあの喜びを目（ま）の当たりにしたときに，薄い壁を通して聞いていたのはフアンだけではなかったことが分かりました。天の御父もわたしたちが一人また一人とささげた祈り，心の底から発せられた祈りを聞いておられたのです。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。



十二使徒定員会
ニール・L・
アンダーセン長老

生ける預言者から学ぶ

この指導者たちの勧告と教えに対して，わたしたちは，さらに積極的に注意を向け，調べ，求めに応じることができるだろうか。

わたしたちはトーマス・S・モンソン大管長と，大管長会の二人の顧問，十二使徒の兄弟たちをもちろん愛しています。その愛と忠誠を承知したうえで尋ねます。「この指導者たちの勧告と教えに対して，わたしたちは，さらに積極的に注意を向け，調べ，求めに応じることができるだろうか。」

大管長会 ――
ヘンリー・B・アイリング管長，トーマス・S・モンソン大管長，ディーター・F・ウークトドルフ管長

４つの質問

次の質問に皆さんはどう答えるでしょうか。

1. 大管長会の３人の名前と，十二使徒定員会に属する一人一人の名前を言ってください。彼らは，わたしたちが，預言者，聖見者，啓示者として支持する15人の兄弟たちです。
2. 彼らの写真を掲げたときに，名前と顔が一致しますか。わたしたちは普通，顔と名前が一致しない人や，よく知らない人に，注意を向けることはあまりありません。
3. 前回の総大会で大管長会や十二使徒定員会が語った勧告を言えるでしょうか。また，モンソン大管長，アイリング管長，ウークトドルフ管長が，今年の『リアホナ』の大管長会メッセージで触れた見解について教えてください。
4. そして恐らく，さらに大切なことですが，この15人の兄弟たちから受けた勧告により，最近自分の生活の中で何かを変えたことがありますか。

主の規範

これらの質問に対する答えは実に重要です。大管長会と十二使徒の召しと責任に関係があるからです。主の教会が設立されるときはいつでも，主は預言者と使徒を召してこられました。救い主は言われました。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして，あなたがたを立てた。」（ヨハネ15：16） この儀式によって15人の兄弟たちには霊的な力，つまり知って証（あかし）する力と，神聖な責任，つまり教え，祝福する責任が与えられます。また，わたしたちにも責任と約束が与えられます。わたしたちには聞き従う責任があり，その言葉を信じて行動するときに，祝福があると約束されているのです。

写真／クレーグ・ダイモンド © IRI，背景／THINKSTOCK/ISTOCKPHOTO

復活の後に，アメリカ大陸で 12 人の弟子を召されたとき，主は人々にこう教えられました。「あなたがたの僕（しもべ）となるようにしたこの十二人の言葉に注意を払うならば，あなたがたは幸いである。」（3 ニーファイ 12：1） 現代においては，大変困難な時代に生きる聖徒たちに，主はこう約束されました。「わたしの民が，わたしの声と，わたしの民を導くためにわたしが任命した僕たちの声に聞き従うならば，見よ，まことに，わたしは言うが，彼らはその場所から移されることはない。」（教義と聖約 124：45）

これが主の方法です。主は「ごく普通の人生を歩んでいた人々」[1] の中から 15 人をお選びになり，彼らにわたしたちを導く鍵（かぎ）と力をお授けになります。わたしたちは従うように強制されてはいません。しかし，彼らの言葉に注意を払い，その勧告に関する聖霊の確証を受け，求めに応じて自分の行動を進んで変えようとするなら，今いる場所から移されることはありません。つまり，鉄の棒にしっかりとつかまり，永遠にわたって，命の木に通じる道に安全にとどまることができるのです。■

アンダーセン長老が十二使徒定員会に召される 2 年前の，2007 年 3 月 4 日に行われた CES ファイヤサイドでの説教から。

注

1. ボイド・K・パッカー「十二使徒」『聖徒の道』1997 年 1 月号，6
2. 生ける預言者の重要性に関連して，ウィルフォード・ウッドラフ大管長はこう語った。「もし，神がこれまでに人に与えられたすべての啓示がわたしたちの前にあったとしても，もしエノクの書があったとしても，もしモルモン書の翻訳されなかった版が英語であったとしても，もし黙示者ヨハネの封じられた記録や，そのほかのあらゆる啓示があって，ここに 100 フィート〔約 30 メートル〕の高さに積み上げられていたとしても，それでも神の生ける神託がなければ，この時代においても世のほかのどんな時代においても，神の教会と王国は成長することができません。」（『歴代大管長の教え ――ウィルフォード・ウッドラフ』198）

絶えざる啓示

「わたしたちには，聖書とモルモン書，そして教義と聖約があります。しかし，これらすべての書物があっても，神の生ける神託と主からの絶えざる啓示に従って生活しなければ，神の日の栄えの王国に導かれる人はだれ一人いないでしょう。……

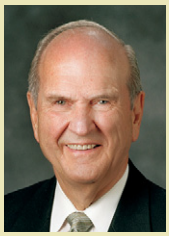
もちろん，これらのすべての記録には無限の価値があります。高く評価しすぎることもなければ，じっくり研究しすぎるということもありません。しかし，聖文があっても，また聖文から与えられるすべての光をもってしても，人の子らを導き，神の御前（みまえ）に連れて行くには十分ではありません。神のみもとに導かれるには，それぞれが置かれた状況において，神権と，神が人々にお与えになる絶えざる啓示に従って生活することが求められるのです。」[2]

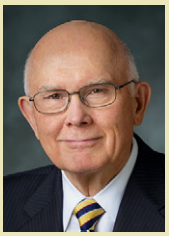
大管長会第一顧問
ジョージ・Q・キャノン管長
（1827―1901 年）
Gospel Truth: Discourses and Writings of George Q. Cannon,
ジェレルド・L・ニークィスト編
（1987 年），252

十二使徒定員会

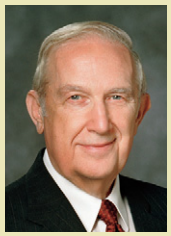
ボイド・K・パッカー

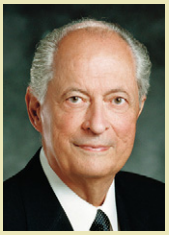
L・トム・ペリー


ラッセル・M・ネルソン


ダリン・H・オークス

M・ラッセル・バラード


リチャード・G・スコット


ロバート・D・ヘイルズ

ジェフリー・R・ホランド

デビッド・A・ベドナー

クエンティン・L・クック

D・トッド・クリストファーソン

ニール・L・アンダーセン

キャラは真実を知っていました。
でも，それをそのまま書く勇気を
持てるでしょうか。

正しく書く

教会機関誌
ジャン・ピンボロー
実話をもとに書かれました。

「わたしは福音をはじとしない。」
（ローマ1：16）

キャラは鉛筆を持って，机の上に置かれた1枚の紙をじっと見つめました。自分の名前以外は何も書かれておらず，消しゴムで消したあとが大きく残っていました。「何を書けばいいのかしら」とキャラは思いました。

通路をはさんだとなりの席では，友達のリリーが一所懸命に書いていました。キャラは下を向いて，うでに頭をのせました。

キャラは新しい学校がとても好きでした。別の教会の建物の中にありました。新しいクラスは少人数だったので，担任のシュミット先生は特別に時間を取ってキャラに算数を教えてくれました。算数の後は毎日聖書からレッスンを教えてくれました。聖書のレッスンは，キャラが家や初等協会で学んできたこととほとんど同じでした。

でも，数週間前のことです。バプテスマについてのレッスンのとき，シュミット先生が，バプテスマを受ける前に死んだ赤ちゃんは天国に行けないとクラスのみんなに言ったのです。自分の息子も，生まれてすぐになくなったと言い，そのとき先生は泣きそうな顔をしていました。

キャラは「そうではなくて，なくなった赤ちゃんは，***必ず***天国に行きます」と言いたいと思いました。それが分かったら，シュミット先生はもう悲しまなくてすむかもしれません。でも，キャラははずかしくて何も言えませんでした。

学校から帰ってから，キャラはお母さんにシュミット先生の言ったことを伝えました。お母さんは「赤ちゃんが天国に行くことを知っているということは，モルモン書から得られる祝福の一つよ」と言いました。キャラはシュミット先生にもいつかモルモン書を読んでほしいと思いました。先生にそれを伝える勇気が持てたらいいのにと思いました。

そして今日のレッスンで，シュミット先生は神とイエスと聖霊は一人の御方であるとクラスで話しました。キャラは，聖なる森で天の御父とイエス・キリストがジョセフ・スミスに姿を現された様子を思いうかべました。キャラは，お二人が別々の御方であって，それぞれ肉体を持っておられることを***知っていました***。そのことをお父さんやお母さんに話す前から，自分はそれを確かに知っていてよかったなあと思いました。

でもその後で，シュミット先生がこう言ったのです。「ではみなさん，紙を1枚用意して，これまで話してきたことについて書いてください。」

そのとき，キャラはおなかのあたりに不安な気持ちを感じました。先生から言われたとおりに課題をやりたいと思いました。勇気を出して，自分が真実だと知っていることについて書くことができるでしょうか。

机の上に頭をふせて，キャラは声に出さずにいのり始めました。「どうぞ，愛する天のお父様。どうしたらいいか教えてください。」

するとすぐに，キャラの心は平安でおだやかになりました。自分の心に感じることを書けば，すべてはうまくいくと聖霊がささやいてくださいました。

キャラは頭を上げ，鉛筆を取って書き始めました。

天の御父とイエスは別々の御方です。お二人はわたしたちと同じように骨肉の体を持っておられます。聖霊は霊の御方で，わたしたちの心に語りかけることがおできになります。

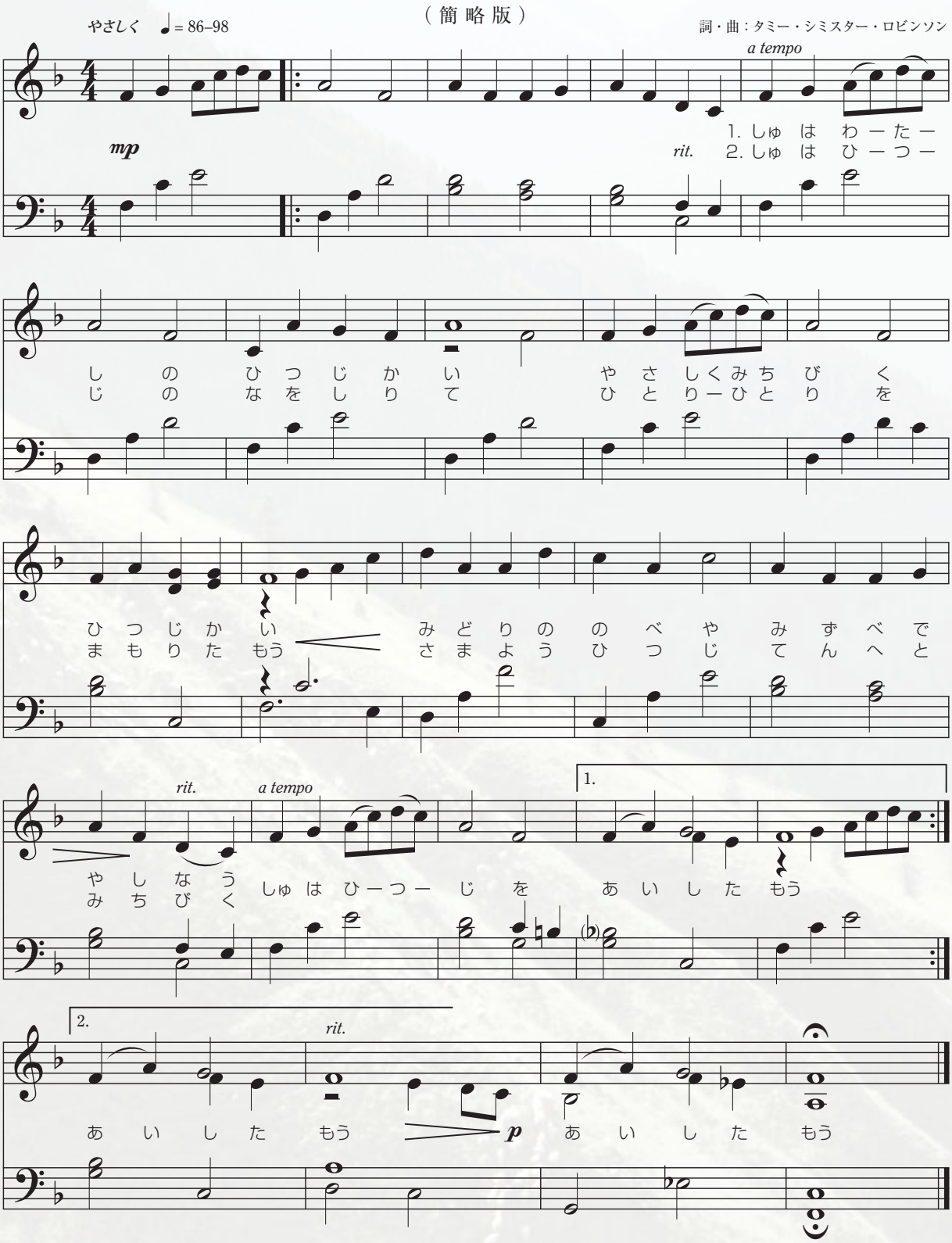
それに数行書き加えてから，キャラは鉛筆を置きました。キャラが書いたことについてシュミット先生がどう思うかは分かりませんでしたが，先生に大切で真実なことを伝えられたことをうれしく思いました。■

「けんそんに，福音の回復についてあかししてください。……勇気を出し，信仰を持ってください。おそれず，主を信頼してください。」

大管長会第二顧問　ディーター・F・ウークトドルフ管長
"The Restoration," *New Era*, 2011年10月号, 5

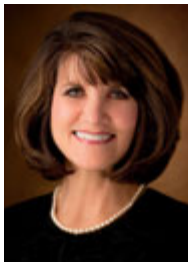
イラスト／G・ビョルン・ソーケルソン

主はわたしの羊飼い



写真/ISTOCKPHOTO

©2001 Tammy Simister Robinson 編曲 ©2013 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved.
教会あるいは家庭における一時的または非営利目的の使用に限り，複製することを許可する。
複製の際はこの注意書きを含める。原曲は，music.lds.org〔英語〕に掲載されている。



中央初等協会会長会
第一顧問
ジーン・A・
スティーブンズ

ちゅうじつな　もはん

「おさない　子どもが　これらを　みちびく。」（2ニーファイ21：6）

中央初等協会会長会の　一人として，わたしは　せかい中の　子どもたちと　会うのが大すきです。どこに　行っても，イエス・キリストに　したがい，　ちゅうじつに　ふくいんに　したがって　生活している　すばらしい　子どもたちに　会います。たくさんの　子どもたちが，いましめに　したがえるように　かぞくや　ほかの人人を　みちびいています。

あるとき，中央幹部の　一人が　香港の　ある　ワードを　ほうもんした　ことが　ありました。その　ワードの　人人は　かぞくを　ささえるために　くろうしていました。

中央幹部は，かいいんたちは　じゅうぶんの一を　おさめるべきだと　ビショップに　つたえました。

ビショップは　しんぱいしました。人人は　生活に　ひつような　食べものや　お金さえ　十分に　もっていなかったからです。

「もし　じゅうぶんの一を　おさめれば，しゅは　かれらを　しゅくふくして　くださいます」と　中央幹部は　言いました。

ビショップは　少し　考えてから，こう言いました。「ワードで　いちばん　ちゅうじつな　かいいんである，初等協会の　子どもたちと　話してみましょう。」

つぎの　日曜日，ビショップは　初等協会に　行きました。子どもたちに　じゅうぶんの一の　りっぽうについて　教え，かせいだ　お金の　じゅうぶんの一を　おさめるよう　もとめました。すると　子どもたちは，じゅうぶんの一を　おさめると　やくそくし，ほんとうに　おさめてくれたのです。

数か月後，ビショップは　ワードの大人の　かいいんたちと　しゅうかいを　ひらきました。かれらの　子どもたちが　じゅうぶんの一を　おさめていることを　つたえました。

「みなさんも，よろこんで　じゅうぶんの一を　おさめてくださいますか」と　たずねました。

大人の　かいいんたちは，子どもたちの　ちゅうじつな　もはんに　心を　うごかされ，自分たちも　じゅうぶんの一を　おさめると　言いました。子どもたちが　もはんを　しめしたおかげで，その　かぞくも　ひつような　しゅくふくを　うけたのです（マラキ3：8－10さんしょう）。みんなの　しんこうと　あかしが　強まりました。

みなさんが　どこに　すんでいようとも，みなさんの　よい　もはんによって人人を　みちびくことができます。いましめを　まもり，イエス・キリストに　したがってください。そうすれば，みなさんは　かぞくや　ほかの　人人に　とって　しゅくふくとなるでしょう。

わたしたちは　みなさんの　ために　いのっています。そして　みなさんも，香港の　子どもたちと　まったく　同じように，もはんによって，よい　ちがいを　もたらすことが　できるのです。■

写真 © ブサス・フォトグラフィー。イラスト／マレン・J・スコット

ノーブー神殿とカーセージのかんごく

教会歴史の重要な場所を一緒に見に行こう！

ジェニファー・マディー

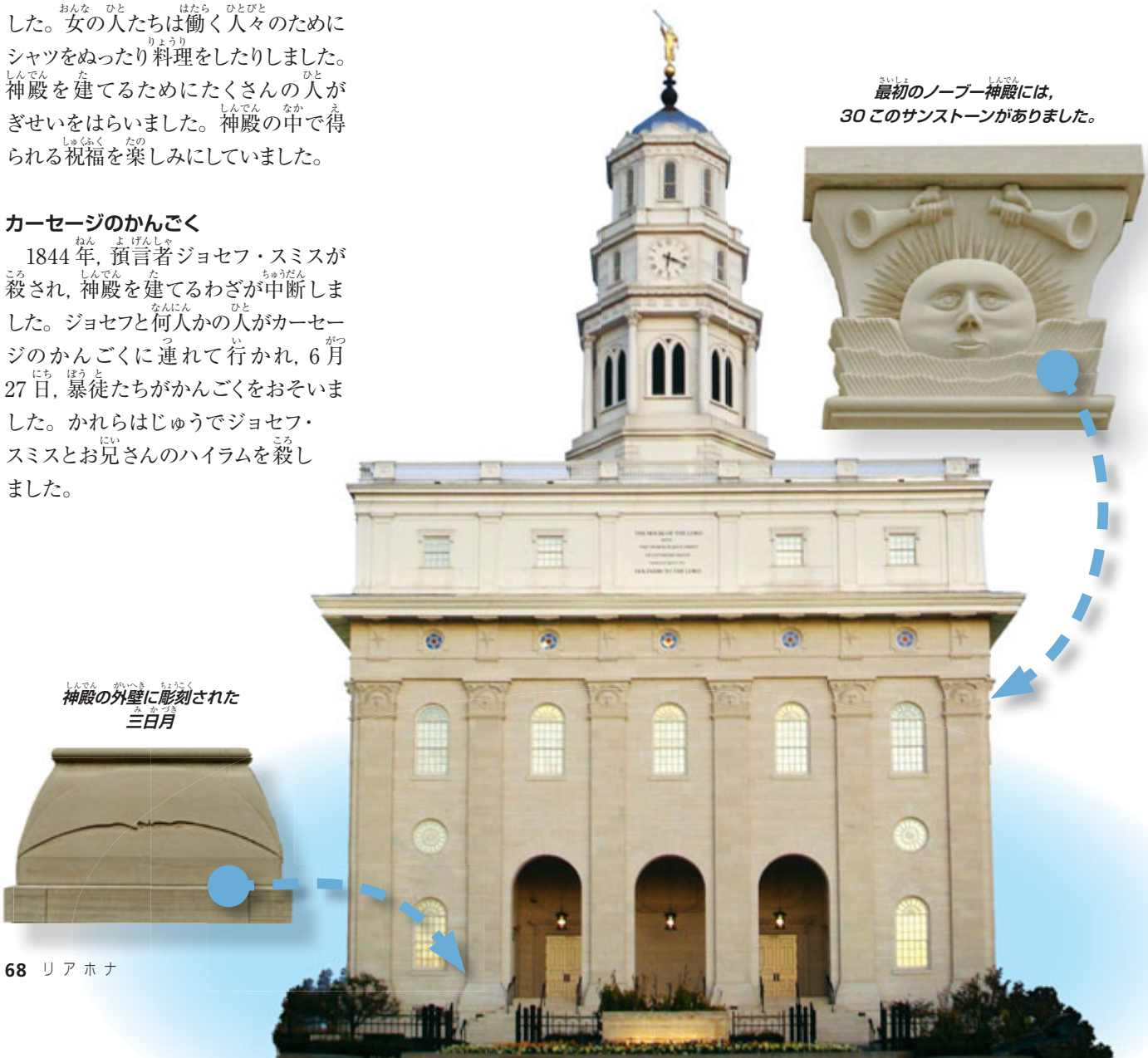
1841年，ノーブーに住んでいた多くの教会員はとても貧しかったのですが，主から言われたとおりに，神殿を建てる必要があると知っていました。1,000人以上の男の人が神殿を建てるために働きました。女の人たちは働く人々のためにシャツをぬったり料理をしたりしました。神殿を建てるためにたくさんの人がぎせいをはらいました。神殿の中で得られる祝福を楽しみにしていました。

カーセージのかんごく

1844年，預言者ジョセフ・スミスが殺され，神殿を建てるわざが中断しました。ジョセフと何人かの人がカーセージのかんごくに連れて行かれ，6月27日，暴徒たちがかんごくをおそいました。かれらはじゅうでジョセフ・スミスとお兄さんのハイラムを殺しました。

神殿の完成

預言者がなくなって，聖徒たちはとてもがっかりしていました。十二使徒定員会会長だったブリガム・ヤングは，主のわざは続くことを知っていました。聖徒たちはついに神殿を完成しました。教会の指導者たちは，聖徒たちが先祖のためにバプテスマを受け，永遠の家族として結び固めを受けられるように，昼も夜も神殿で働きました。



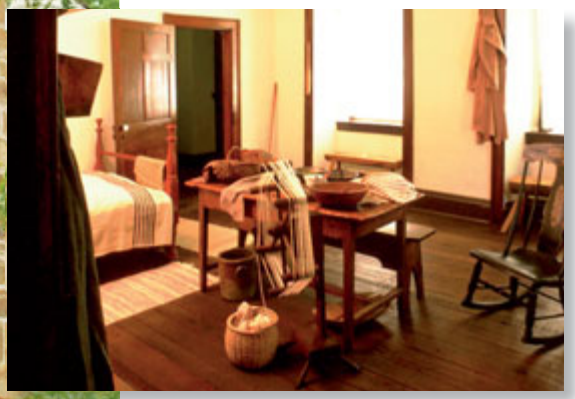
最初のノーブー神殿には，30このサンストーンがありました。

神殿の外壁に彫刻された三日月

写真／ジェニファー・マディー、クレーグ・ダイモンド ©IRI

カーセージのかんごくの前に立つジョセフとハイラムの銅像。「かれらは生前に分かたれることはなく，また死後もはなれることはなかった。」（教義と聖約 135：3）

暴徒たちはジョセフとその仲間をつかまえようと，階段をかけ上がりました。



ジョセフとその仲間は，かんごくの２階にいました。

神殿を建て直す

聖徒たちがノーブーを立ち去った後，神殿は火事と竜巻でこわれてしまいました。1999年，ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 – 2008年）が，ノーブー神殿がもう一度同じ場所に建て直されることを発表しました。今日，1840年代当時とまったく同じ様子で建つ美しいノーブー神殿を見ることができます。■

聖書とモルモン書の両方があることはなぜ大切ですか

十二使徒定員会
L・トム・ペリー長老

十二使徒定員会の会員は，イエス・キリストの特別な証人です。

「あなたがたが知るように」ゲリー・L・キャップ画，複写は禁じられています

聖書とモルモン書はどちらも，わたしたちの救いと昇栄になくてはならないものです。

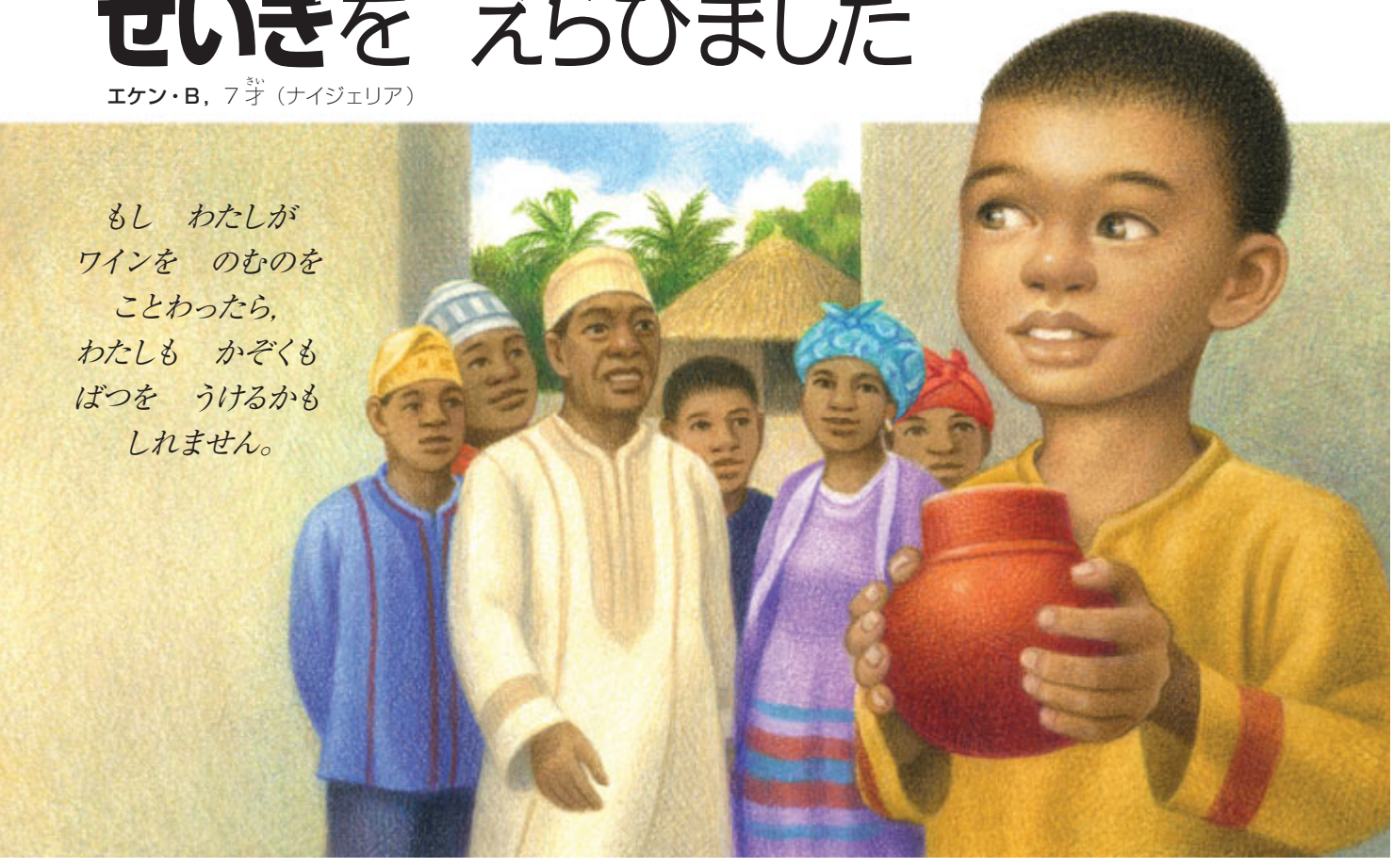
聖書で宣言されている教義に対するもう一つのあかしとして，モルモン書ではわたしたちの主，救い主の使命が宣言されています。その記録があるということは，何という祝福でしょう。

キリストの教義を余すところなく完全に教え，学ぶには，両方が必要なのです。

「解放する力」
『リアホナ』2012年5月号，94－97よりばっすい

わたしは せいぎを えらびました

エケン・B，7才（ナイジェリア）



「かみの　いましめを　まもることを　わかいうちに　しゅうかんと　しなさい。」（アルマ 37：35）

わたしは　かぞくとともに新年を　いわうために　りょうしんの　村を　おとずれました。3年ぶりだったので，友だちや　しんせきに　また　会えるのを　楽しみに　していました。村に着くと，あたたかい　かんげいを　うけました。

大みそかの夜に　なり，それぞれの　かぞくの　長男に　まもりと　ちょうじゅと　はんえいを　ねがう　でんとうてきな　ぎしきを　うけるため，みんなが　あつまりました。長男の　わたしは，さんかしゃは　みんな　ぎしきの　いちぶとして　ワインを　のまなければ　ならないことを　知りました。

わたしは　とても　しんぱいしました。ワインを　のめば　ちえの　ことばを　やぶることに　なります。でも，もし　ワインを　のまなければ，しつれいなことに　なり，自分も　かぞくも　ばつを　うけることに　なるかもしれません。そのとき，母から教えられたことを　思い出しました。自分では　どうしようもない　じょうきょうに　なったときは，天の　御父に　いのって，たすけを　もとめる　ということです。

わたしは　声に　出さずに　いのりました。「天の　お父さま，みたまが　みちびいてくださり，正しいことが　できるように　たすけてください。」

わたしが　ワインを　のむ番に　なったとき，わたしは　きんちょうしながらも，大きな　声で　はっきりと　言いました。「わたしの　体は　かみの　みやです。わたしは　ちえの　ことばを　やぶりません。」

村の　ちょうろうは　とても　おどろいた　ようすで，わたしの　方を　むいて　こう　言いました。「きみは　自分が　していることに　とても　かくしんを　もっているようだな。きみの　考えを　話して　聞かせてもらいたい。」

かぞくも　わたしも　ばつを　うけなくて　すみ，わたしたちの　しんこうは　強められました。わたしが　せいぎを　えらぶ　ゆうきを　もてるように，天の　御父が　たすけてくださったことを　知っています。■

イラスト／スティーブ・クロップ

わたしたちの　ページ

ぼくは　お母さんが　大すきです。お母さんが　おさらを　あらうときに　手つだうのも大すきです。それから，ぼくは　お父さんの　ためにおいのりします。天の　お父さまが「人をたたいたり，だれかのわる口を　言ったり，小さな　どうぶつを　いじめたりしては　いけません」と　言っておられるのを　知っています。

ヤセ・C，4才（台湾）

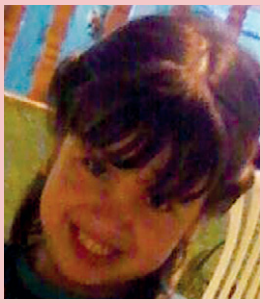
家庭の夕べで聖文を読むプリンスと姉妹たち

家庭の夕べのとき，聖文について自分が思ったことを話したり，おいのりしたりするのが好きです。初等協会の友だちが好きです。ハトを育てて，世話をするのが好きです。いつかイリノイ州のノーブー神殿に行きたいです。宣教師にもなりたいです。家族がとても大好きです。教会は真実だと知っています。モルモン書が大好きです。

プリンス・M，9才（フィリピン）

マカレナ・G，8才（チリ）

「おたんじょう日おめでとう」
ジェームズ・C，5才（ペルー）



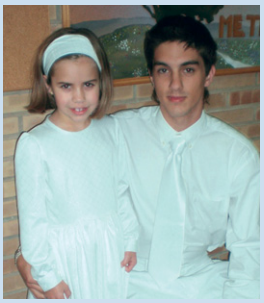
イエス・キリストが　生きておられて，わたしたちを　あいしておられることを　知っています。教会が　しんじつであることを　知っています。いのちの　木の　お話は，ふくいんにしたがえば　しあわせに　なれることを　教えてくれます。

マヌエリス・R，5才（ベネズエラ）

サラ・G，6才
（グアテマラ）

ある日，お母さんとわたしは，旅行に出かけるお兄ちゃんたちを送るために空港に向かっていました。道がとてもこんでいたので，飛行機に乗りおくれてしまうのではないかと心配しました。それにお母さんの具合も良くなかったので，わたしはいのりました。きっといのりはこたえられるという信仰を持っていました。そしてほんとうにお兄ちゃんたちは飛行機に間に合うことができました。天のお父様がわたしのいのりを聞いてくださったことを知っています。

サラ・P，11才（イタリア）



わたしの　バプテスマと　かくにんの　ぎしきの前の　日か，2日前に，ねつが　出て　ぐあいが　わるくなってしまいました。バプテスマを　のばしたくはありませんでした。きめた　日に　うけた方がいいと　かんじたのです。たくさんの　しんせきや友だち，中には　教会いんで　ない人も，バプテスマ会に　来てくれました。バプテスマを　うけるとすぐに　ねつが　下がって，気分も　ずっと　よくなりました。その日，せいれいを　とても　強くかんじました。バプテスマを　うけて，せいれいをうけることが　できて　かんしゃしています。

サラ・M，8才（スペイン）

エクアドル・クエンカステーク，モナイワードの初等協会の子供たちは，福音について学ぶのが大好きです。

イエスさまのように

ある日，学校の　たいいくかんから　出てきたとき，ぼくが　せおっていた　リュックから　なかみが　ぜんぶ　出てしまって，中に　入っていたおもちゃが　なくなってしまいました。その日，そんなことが　ある前に，友だちから　その　おもちゃを　買いたいと　言われていたので，もしかしたら　その　友だちが　とったのではないかと思いました。その子と　もう　友だちで　いられなくなってしまうと　思って，ぼくは　かなしくなりました。その　夜，おもちゃを　とった　人がそれは　わるいことだったと　分かって，かえしてくれますようにと　いのりました。つぎの　日学校に　行くと，友だちが　おもちゃを　かえしてくれて，友だちで　いたいから　ゆるしてほしいと　言ってきました。ぼくは　ほんとうに　うれしくなりました。そして　その　友だちのことをゆるしました。せいれいが　たすけてくださったおかげで，友だちも　ぼくも　正しい　ことができたので　かんしゃしています。ぼくは　いつでも　天の　お父さまに　いのることが　できるし，お父さまは　たすけてくださることを　知っています。

ブランドン・A，8才（メキシコ）

ミルトンのバプテスマの日にお父さんと。

ぼくはバプテスマを受けた日のことをいつも覚えていることでしょう。なぜなら，ぼくの人生でいちばん大切な日だからです。この日ぼくは天のお父様と神聖な約束をしました。天のお父様と御子イエス・キリストが生きておられて，ぼくをとても愛してくださっていることを知っています。まだ中に入ることはできませんが，ぼくは神殿に行くのが大好きです。

ミルトン・アーロン・V，10才（エクアドル）

わたしは 心と せいりょくと 思いと 力を つくして かみに つかえます

ある日の 休み時間に，マディソンは，だれかに ひどいことを 言われて ないている 女の子を 見かけました。かわいそうに 思って，女の子を なぐさめようと 近づき，こう たずねました。「いっしょに あそばない?」

その日，マディソンは 心を つくして その 女の子に つかえました。イエス・キリストの もはんに したがって，こまっている人に あいを しめしたのです。わたしたちは，心と せいりょくと 思いと 力を つくして 人人に つかえることによって，天の 御父に あいを しめすことが できます。わたしたちは自分の すべてを つくして つかえることが できるのです。

心を つくして つかえるとは どういうことでしょうか。人人に あいと 親切な行いを しめすことによって，心を つくして つかえることが できます。人人の ひつように 心を むけます。よろこんで 元気に つかえるとき，心を つくして つかえているのです。

思いを つくして つかえるとは どういうことでしょうか。人人を たすける ほうほうを 考えることによって 思いを つくして つかえることができます。まわりの 人の ひつように 気づき，どのように たすけられるかを 考えるとき，思いを つくして つかえているのです。

せいりょくと 力を つくして つかえるとは どういうことでしょうか。せいりょくと 力を つくして つかえるとは，人人を たすけるために ざつようを ひきうけ，ねっしんに はたらくということです。わたしたちは年おいた 人人に つかえ，しゅくふくするために，かれらが 自分では なかなか できないことを してあげることが できます。■

話し合いましょう

かぞくみんなで，自分の すべてを つくして つかえるために いっしょに 行うことをきめましょう。人人に つかえるとき，天の御父に つかえていることを せつめいしましょう。

自分の　すべてを　つくして　つかえる

いかの　ことがらの　中から　つかえる　ほうほうを　一つ　えらぶか，自分で　考えてください。一つの　ほうしが　おわったら，せつめいの　左に　ある　マークに　色を　ぬりましょう。

心

りょうしんや　きょうだいに，あいしていると　つたえる。

ひとりぼっちの　人のために，何か　親切な　ことをする。だれかに　ほほえみかける。

思い

おじいちゃんや　おばあちゃんに手紙を　書く。

弟や　妹の　しゅくだいを手つだう。

かぞくの　ほうしかつどうを計画するのを　手つだう。

せいりょくと　力

りょうしんから　何かを　するようにたのまれたとき，いっしょうけんめいに　とり組む。

弟や　妹の　家の　手つだいをたすける。

おちばあつめや　草むしりなど，かぞくを　たすけるために何か　する。

歌と　せいく

- 「われらは天の王に」『子供の歌集』94
- 教義と聖約 59：5

左――イラスト／グレッグ・ニューボルド。イラスト／バル・チャドウィック・ベーグリー

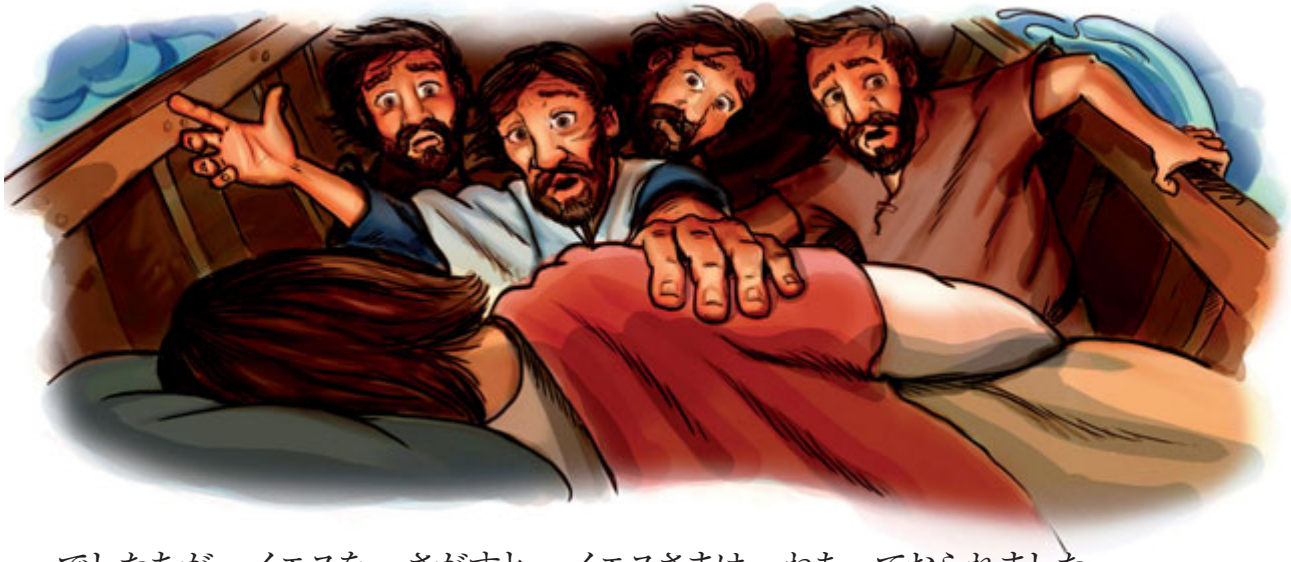
あらしを　しずめられた　イエスさま

シャーロット・メイ・シェパード（アメリカがっしゅう国，ユタしゅう）

ある日，　イエスさまと　でしたちが　船に　のっていると，
ひどい　あらしが　おきました。

なみが　くだけ，　風が　ふきあれました。　でしたちは，
船が　しずんでしまうのでは　ないかと　おそれました。

イラスト／スコット・ベック

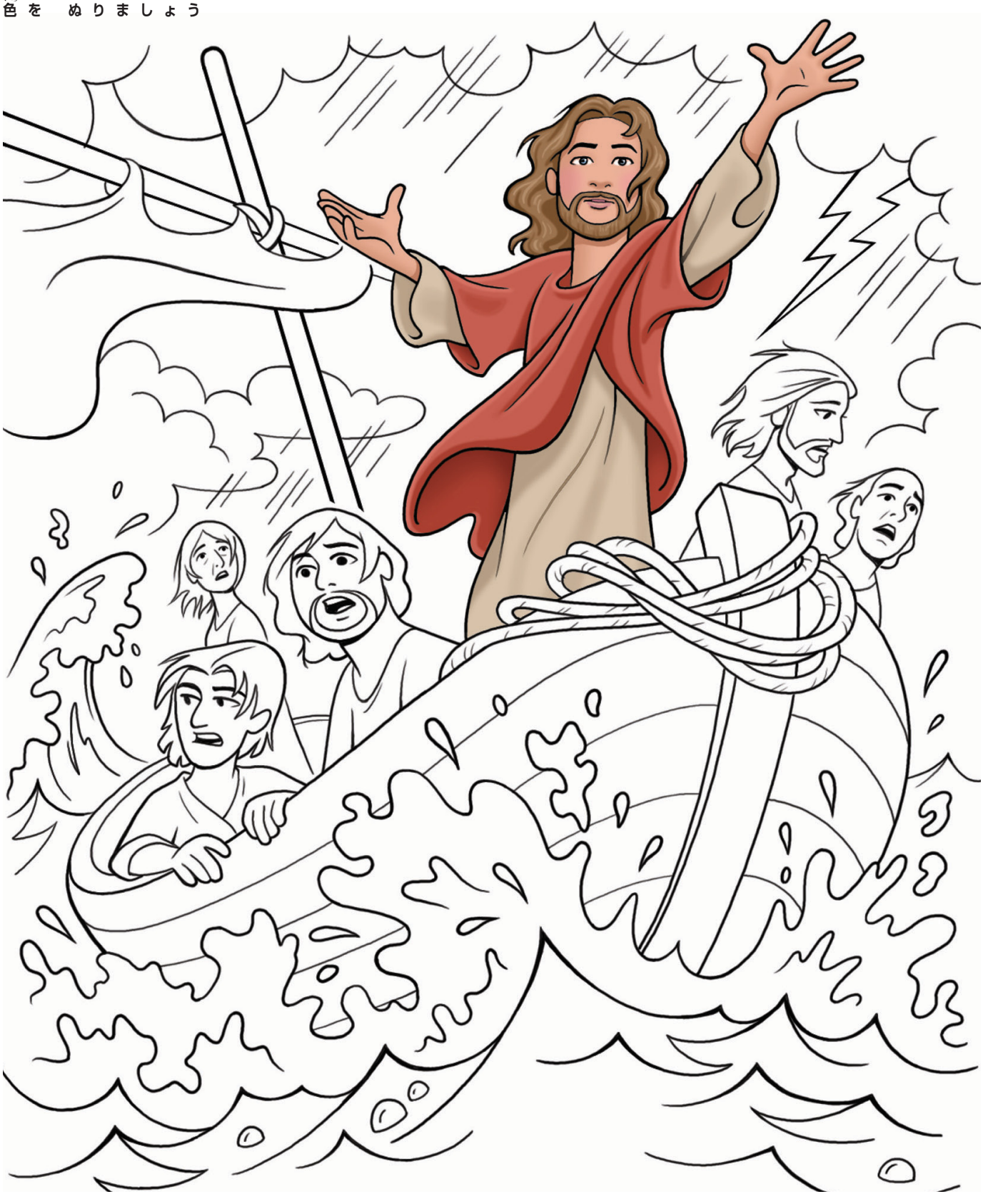


でしたちが　イエスを　さがすと，イエスさまは　ねむっておられました。
「わたしたちを　たすけてください」と，でしたちは　さけびました。
「なぜ　おそれるのか」とイエスさまは　おたずねになりました。

イエスさまは　立ち上がられ，あらしに　しずまるように　めいじられました。でしたちは，なみが　くだけるのが　止まり，風が　やむのを　見ました。イエスさまが　めいじられたとおりに　あらしは　しずまりました。

時時　こわいことが　おこると，　わたしたちは　しんぱいになります。　でも，　イエスさまは近くに　いてくださいます。　イエスさまのことを　考えると，　あんぜんと　へいあんを　かんじることができます。

色を　ぬりましょう



あらしを　しずめられる　イエス

「それから　〔イエスが〕　おきあがって，風と　海とを　おしかりになると，大なぎに　なった。」（マタイ 8：26）

イラスト／ジェレド・ベックストランド

いちばん長かった聖餐会（せいさん）

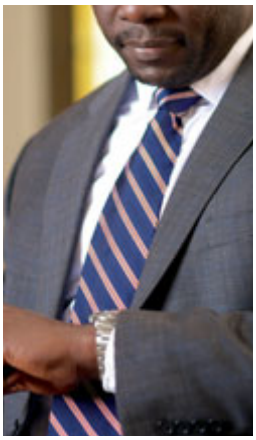
オコン・エデト・エフィオング

わたしは末日聖徒が書いた宗教関係の本を読むのが好きです。こういった本はナイジェリアではめったに手に入らないため，友人から借りて読んでいます。借りた本は2，3日中に友人に返したいと思うので，いつも持ち運んで，空いた時間を見つけては読むようにしています。

ある日曜日，わたしは高等評議員として割り当てられたワードに行き，借りた本を持って聖餐会に出席しました。ステーク会長会から託されたメッセージを伝えるためにビショップを待つ間，その本を読んでいました。ビショップはやって来ると，自分は何人かの訪問者にあいさつしなければならないから第一顧問に伝えるようにと言いました。そこで第一顧問にメッセージを伝え，わたしは壇上の席に座りました。

ところが，座った途端に，友人から借りた本がなくなっていることに気がついたのです。聖餐会が始まるまであと5分ほどしかありません。しかも，管理者はもう壇上の席に着いています。席を離れるわけにはいきませんでした。友人に悪いことをしたという自責の念に駆られたまま，それまで出席した中でいちばん長く感じたつらい聖餐会が始まったのです。

時間が速く過ぎてほしいと願いましたが，集会で行われること一つ一つが，果てしなく長く感じられました。落ち着かず，本が無事でありますようにと心の中で神に祈っていました。話は実際に長かったわけではありませんが，何とも言えない不安に襲われました。あと5分で聖餐会が終わるというときになると，もう居ても立ってもいられなくなり，わたしは第一顧問にメモを渡しました。第一顧問のところに本を置き忘れなかったかと尋ねたのです。うなずいて，ありますよという身振りをしてくれたらと思ったのですが，彼は首を横に振りました。



聖餐会は普通70分間です。しかし，わたしはある日曜日，いつ終わるとも知れぬ長い聖餐会を経験しました。

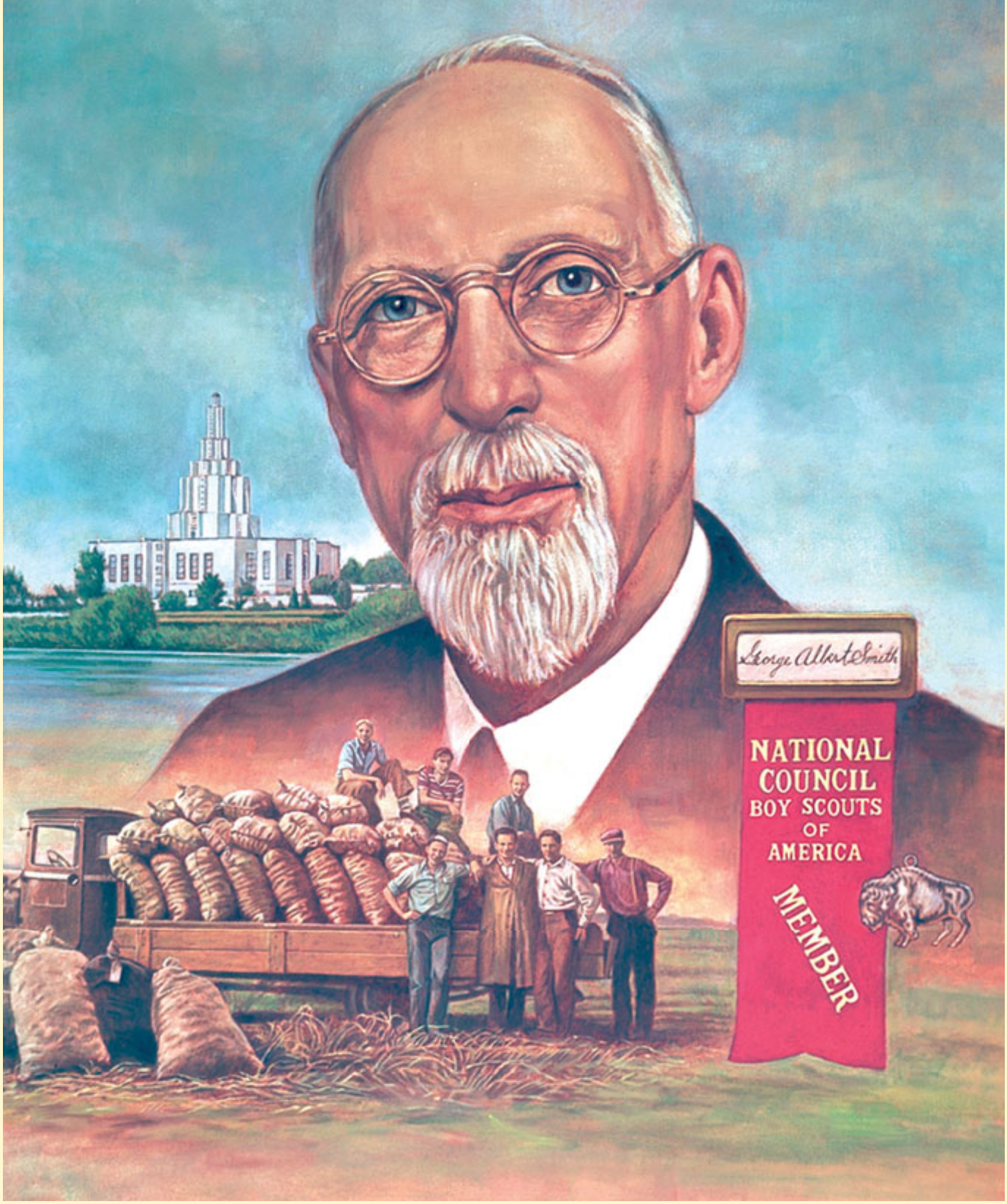
閉会の祈りのときには目を開けたまま，本があるかもしれない残り二つの場所を真剣に見回しました。見回しながら，必要であれば，本をなくしたことを日曜学校のクラスを回って発表しようと心に決めました。

ところが驚いたことに，聖餐会が終わるとわたしの気持ちはすっかりと変わり，本のことを心配しなくなったのです。ほんの短い間でしたが，わたしの思いは霊的に照らされ，間違ったことに心をとらわれていることを聖霊が教えてくださいました。***ほんとうに***大切なのは，神から任されたことをわたしが守っているかどうかなのだということが分かりました。わたしはとっさに，自分が神からゆだねられていることを，思い出せるかぎり数え上げました。それはわたしの霊であり，家族，ホームティーチングの訪問先，福音を伝えるべき相手であり，わたしが仕えるワードの会員であり，神殿の儀式を必要としている亡くなった先祖などでした。

その後本は見つかりましたが，これはわたしにとって大切な，自分の霊を見詰め直す時間となりました。最も長かったこの聖餐会が終わった後，自分の生活の中で改善する必要のある部分も見つかったのです。そして，天の御父が望んでおられる優先順位に従おうと，わたしは改めて決意したのでした。■

筆者はナイジェリアのラゴスに住んでいます。

フォトイラスト／レス・ニルソン



イラスト／ロバート・T・バレット

ジョージ・アルバート・スミス

ジョージ・アルバート・スミスは　教会の　わかい　だんせいに　つかえるように　さいしょに　めされたときは，21才でした。**ぜんべいボーイスカウト**にたずさわるようになり，後に，その　はたらきを　みとめられて　ひょうしょうされました。しととして　ほうしする間，ぜんこくてき，また　こくさいてきなのうぎょうそしきの　しどうしゃを　つとめました。**アイダホしゅう　アイダホフォールズしんでん**を　ほうけんしました。

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は
「神の正義と憐(あわ)れみ」という記事の中で，
アザミの種をまくことを例に挙げて，
罪のわなにはまっていく人を言い表しています。
「わずかなアザミの種をまきます。
すると，たくさんのアザミが生えます。
それが何年も続くと，アザミの大きな茂みとなって広がります。
それは切り払わないかぎり，決して取り除けません。」
どのように悔い改め，憐れみを求めたらいいのかに関する
助言については，20 ページを参照してください。

JAPANESE
4 021078930 0 2
10789 300

末日聖徒
イエス・キリスト
教　会